

淑徳大学

授業アンケート全学報告書

2016 年度

淑徳大学 高等教育研究開発センター

IR 推進室

目次

【第一部】 平成 28 年度淑徳大学授業アンケートの概要・集計結果

- 1. 淑徳大学授業アンケートの目的 P1
- 2. 本報告書の目的 P1
- 3. 平成 28 年度淑徳大学授業アンケートの概要 P2
- 4. 授業アンケート集計結果 P5

【第二部】 授業満足度等を規定する要因に関する探索的分析

- 1. 第二部の概要 P22
- 2. 学生対象アンケート調査結果の分析 P27
- 3. 教員対象のアンケート調査結果を加えた分析 _P47
- 平成 28 年度 学生用 授業アンケート調査票[前学期・後学期] ... P65
- 平成 28 年度 教員用 授業アンケート調査票[前学期・後学期] ... P67

第一部

－ 平成 28 年度淑徳大学授業アンケートの概要・集計結果 －

1. 淑徳大学授業アンケートの目的

淑徳大学は、平成 26 年度より授業アンケートを全学統一で実施するため、平成 25 年度から平成 26 年度に大学自己点検評価委員会、高等教育研究開発センター及び授業アンケートのワーキンググループで授業アンケートの見直しの作業を行い、平成 28 年度は 3 年目となります。

この授業アンケートを実施する目的は、社会から負託された大学の教育・研究の使命を遂行するため、大学として組織的に教育責任の遂行と教育成果の確認を行うとともに、教育活動において大きな比重を占める授業の改革や改善を推進することで、教育の質を高めることです。

そのために、授業アンケートで得た学生の意見や要望をくみ取り、それを授業の改革や改善に反映させることで、教員一人ひとりが授業の自己点検・評価のPDCAサイクルを回しています。さらに、教員一人ひとりの授業の改革や改善のみならず、大学及び学部として組織的な授業の改革と改善に向けた取組みも併せて行い、学生の学修意欲を引出し、学修効果を高めるための教育改革を組織的に推進しています。

言うまでもありませんが、教員及び大学組織によるこれからの取組みの成果は、学生へ還元されるものであり、その為に本報告書を作成及び公開いたします。

2. 本報告書の目的

本報告書は、組織的な授業の改革と改善に資することを目的として「大学・学部」※の階層である大学全体及び各学部の「調査概要、調査目的、該当者の属性、質問ごとの分析(学部間及び経年変化)」を大学教育向上委員会、高等教育研究開発センター及び IR 推進室が集計・分析・作成したものです。

また本報告書の基本となるデータは、学生向けアンケートであり、第1部において学部別の集計の場合は、例えば総合福祉学部と記載してある図は、総合福祉学部に在籍する学生が回答した授業アンケートの集計結果となります。

※淑徳大学授業アンケートの分析は、「大学・学部」「学部・学科(課程)」「授業担当教員」の階層別に行います。分析について、「大学・学部」は大学教育向上委員会を中心として、高等教育研究開発センターと連携を行い、大学及び学部別の回答集計を行って分析します。「学部・学科(課程)」は学部教育向上委員会を中心として現状や課題に応じた分析を行い、「授業担当教員」は各教員が授業の自己点検として、各科目の帳票を基に PDCA サイクルを実行します。

3. 平成 28 年度淑徳大学授業アンケートの概要

(1) 授業アンケート対象科目

2016 年度に開講している全授業科目(学外の実習科目を除く)を対象に実施しています。実習科目については、それぞれの学部等の特性に応じた様式を用いてアンケートを実施している場合があります。

(2) 授業アンケートの種類

授業アンケートは、淑徳大学全学部統一様式にて、次の 2 種類について実施しています。

- 学生による授業評価 : 学生向けアンケート
- 教員による授業の自己点検: 教員向けアンケート

本報告書第一部は、学生向けアンケートを「大学・学部」の単位で分析・報告をするものです。

(3) 学生向けアンケートの実施時期

実施時期は、前学期・後学期各 1 回ずつ(年 2 回)とし、原則として、半期 15 回授業の場合は 13 回目以降に学生向けアンケートを実施しています。(半期 8 回の授業の場合は 6 回目以降、半期 30 回の授業の場合は 25 回目以降に実施しています。)

オムニバス科目についても半期 1 回の実施となり、例えば 2 人で 15 回の授業を実施する授業でも 13 回目以降に学生向けアンケートを実施しています。

(4) アンケートの実施方法

2016 年度はアンケート実施授業回の授業終了前 10 分間を使用して、無記名の紙媒体で実施しています。

(5) 授業アンケート対象科目及び回収枚数

平成 28 年度淑徳大学授業アンケート(学生向けアンケート)は、表 1 の通りに年間 2,180 科目(大学全体)を対象とし、授業アンケートを実施しています。対象科目総計履修人数を母数とした回答率は、77.40%です。なお、複数の学部にまたがって開講している科目もある為、学部別の対象科目数や学生アンケート実施科目数の集計は行っておりません。

表 1 平成 28 年度淑徳大学授業アンケート(学生向けアンケート)実施概要

	対象科目	学生アンケート 実施科目	対象科目総計 履修者数 ①	回答枚数 ②	回答率(②/ ①)
前期	1,073	1,049	42,316	33,194	78.44%
後期	1,107	1,082	38,134	29,076	76.25%
年間	2,180	2,131	80,450	62,270	77.40%

本報告書の集計結果は、大学全体及び学部別で算出及び公表しています。大学全体及び学部別の学生アンケート回答数は表 2 の通りです。在籍学生数、CAP 制(単位の過剰登録を防ぐため、1 年間あ

るいは1学期間に履修登録出来る単位の上限を設ける制度)及び学部の開設年度が平成26年以降の為に年次進行中である、学生募集を停止しているといった理由から回答数は学部によって大きく異なります。

表2 平成28年度淑徳大学学生用アンケート学部別回答数

	学生アンケート回答数(枚)		
	前期	後期	合計
大学全体	33,194	29,076	62,270
総合福祉学部	12,322	12,173	24,495
国際コミュニケーション学部	334	317	651
看護栄養学部	6,992	4,432	11,424
コミュニティ政策学部	2,266	2,104	4,370
経営学部	4,206	3,932	8,138
教育学部	3,248	3,112	6,360
人文学部	3,249	2,594	5,843
その他	54	61	115
無回答	523	351	874

(6) アンケートの質問項目について

淑徳大学授業アンケート、学生向けアンケートは、「Ⅰ. 授業の構成について」「Ⅱ. 授業方法について」「Ⅲ. 授業に対する評価について」「Ⅳ. 授業環境について」「Ⅴ. 自由記述欄」について、計19の質問を行いました。質問紙については巻末 P65 をご参照下さい。

(7) 本調査結果の分母について

以下の集計は、学生一人一人の回答ベースで集計したものであり、分母は学生アンケート回答数(枚)です。なお、QⅠ-2及びQⅠ-3は、次の論理矛盾回答処理を実施し、母数は表3(QⅠ-2)及び表4(QⅠ-3)となります。

●QⅠ-1「授業説明の有無」で「あまりそう思わない、全くそう思わない」と回答

→QⅠ-2「授業説明の理解度」及びQⅠ-3「授業説明の取組み度」を非該当として処理

●QⅠ-2「授業説明の理解度」で「あまりそう思わない、全くそう思わない」と回答

→QⅠ-3「授業説明の取組み度」を非該当として処理

表3 平成 28 年度淑徳大学学生用アンケート学部別 Q I -2「授業説明の理解度」回答数

	該当回答数		
	前期	後期	合計
大学全体	31,189	27,312	58,501
総合福祉学部	11,633	11,497	23,130
国際コミュニケーション学部	328	309	637
看護栄養学部	6,561	4,118	10,679
コミュニティ政策学部	2,076	1,969	4,045
経営学部	3,927	3,669	7,596
教育学部	3,076	2,906	5,982
人文学部	3,056	2,469	5,525
その他	53	61	114
無回答	479	314	793

表4 平成 28 年度淑徳大学学生用アンケート学部別 Q I -3「授業説明の取組み度」回答数

	該当回答数		
	前期	後期	合計
大学全体	29,759	26,285	56,044
総合福祉学部	11,007	11,026	22,033
国際コミュニケーション学部	326	302	628
看護栄養学部	6,341	4,005	10,346
コミュニティ政策学部	1,950	1,870	3,820
経営学部	3,755	3,536	7,291
教育学部	2,991	2,831	5,822
人文学部	2,883	2,356	5,239
その他	53	61	114
無回答	453	298	751

また、本報告書第二部は、株式会社生活環境工房あくと様にご協力いただき、作成致しました。

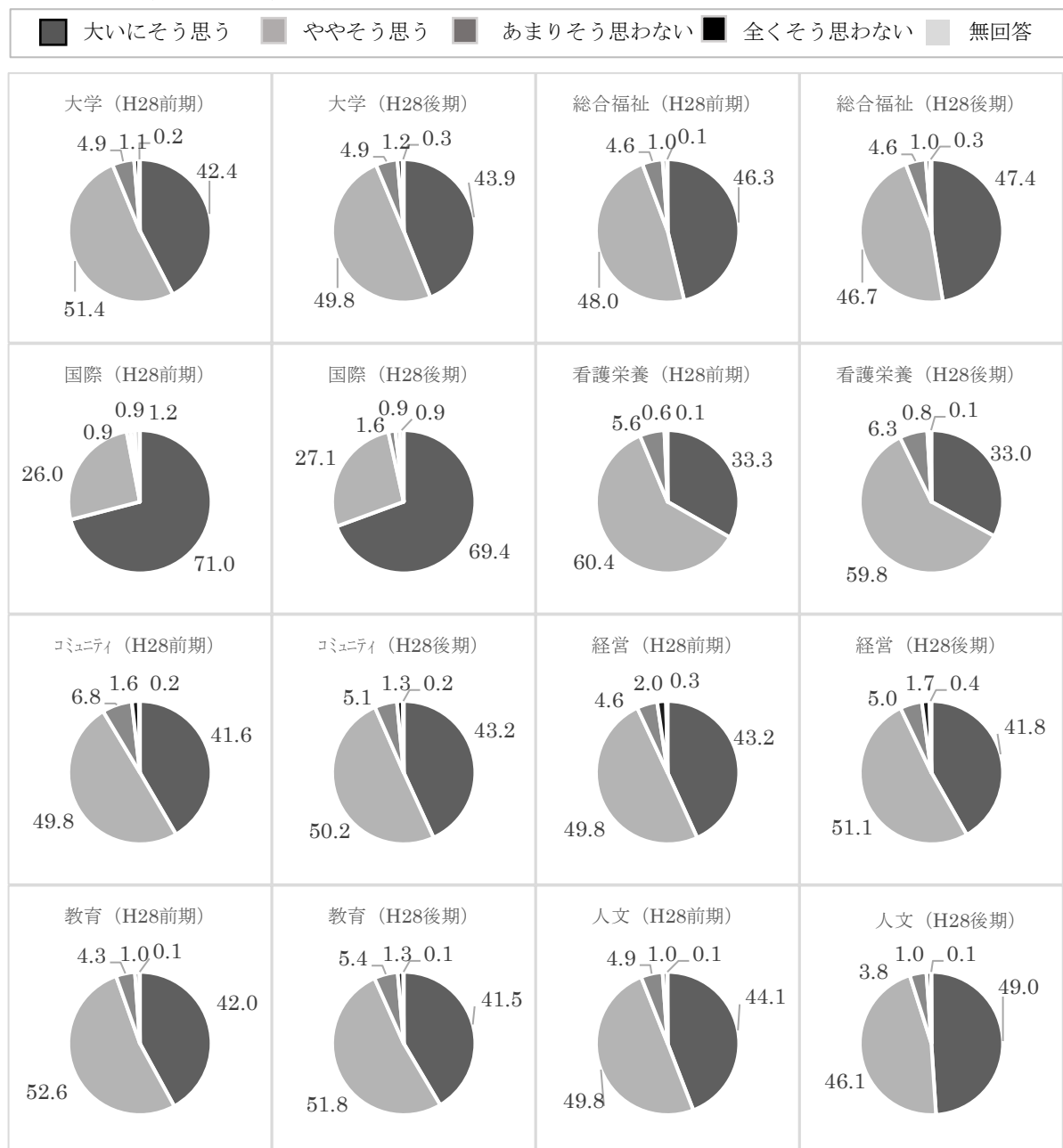
4. 授業アンケート集計結果

(1) 授業の構成について

① I－1「初回の授業において、授業目的、授業内容、到達目標、評価方法等の説明がありましたか」

授業の初回において、担当教員から授業目的や到達目標等の説明があったと答えた学生は、「大いに思う」及び「やや思う」を合わせると、大学全体では前期後期とも 90.0%を超えている為、授業担当教員と学生との間に授業の概要の共有化がかなりされています。(図1)また学部別の結果についても、どの学部も「大いに思う」及び「やや思う」を合わせて 90.0%を超えておりますが、「大いに思う」を回答した割合は学部間で差が見られます。

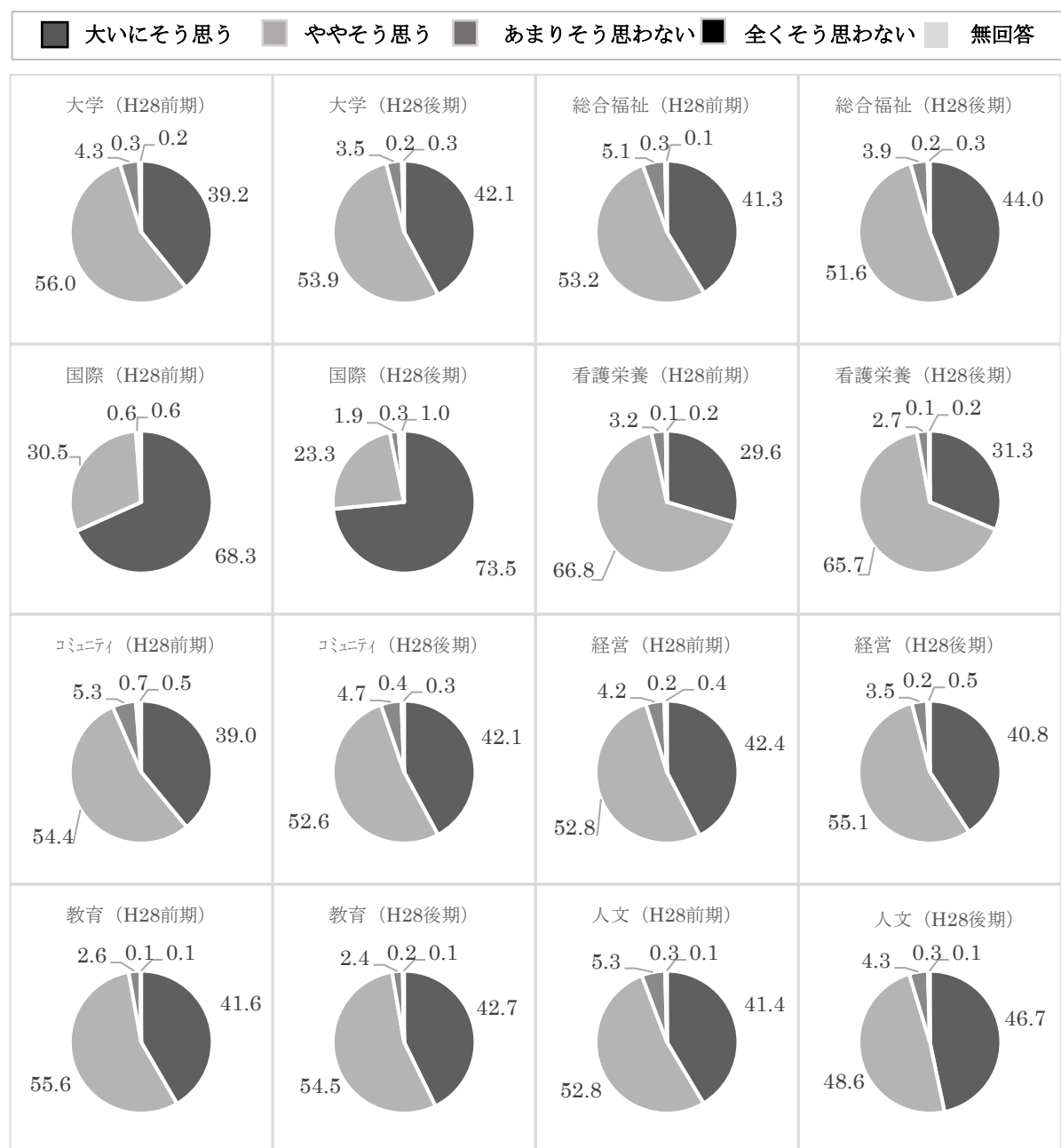
図1 I－1 授業初回の授業概要の説明



② I-2「あなたは、その説明に対して理解ができましたか」

この質問は、I-1授業の初回に行った授業の概要の理解度についての内容です。図2によれば、大学全体では、「大いにそう思う」及び「ややそう思う」を合わせると95.0%を超えており、ほとんどの学生は授業の目的、授業内容、到達目標、評価方法等を理解して授業を受けています。学部別もほとんど大学全体と同様の結果であり、受講している学生のほとんどは授業の到達目標や評価方法を理解しているといえます。

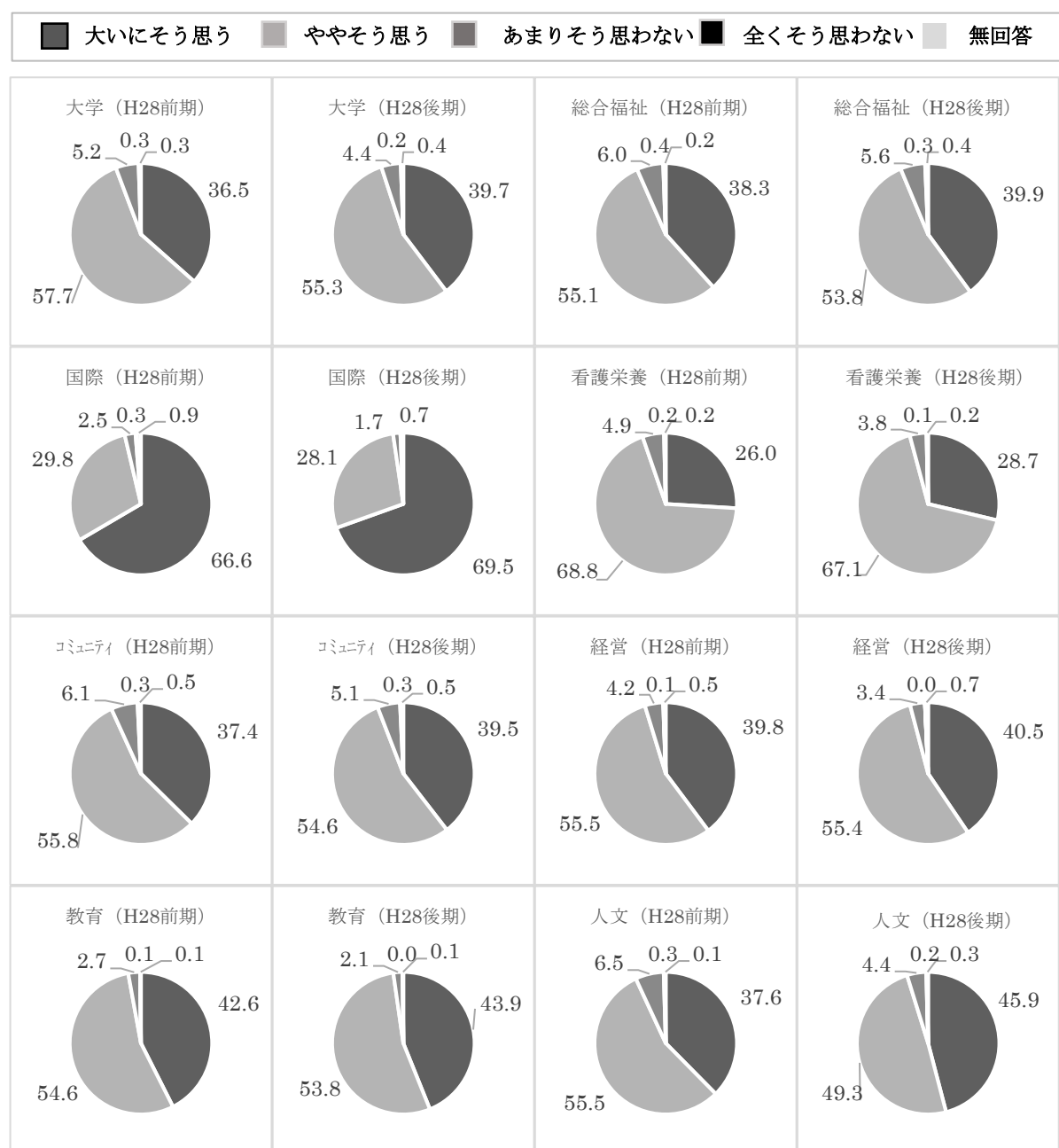
図2 I-2 学生の授業概要説明の理解



③ I-3「あなたは、理解した内容を達成するため、意欲的に取り組みましたか」

図3によると、大学では「大いにそう思う」と答えた学生は約30%以上であり、授業の初回で説明された内容を達成するために意欲的に取り組んでいます。しかし、学部間では「大いにそう思う」の回答の傾向や、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた回答割合の傾向に幾分か特徴が見られます。特に「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の割合が小さくない学部は、どのようにしたら学生が意欲的に取り組むように工夫するかは課題であると言えます。

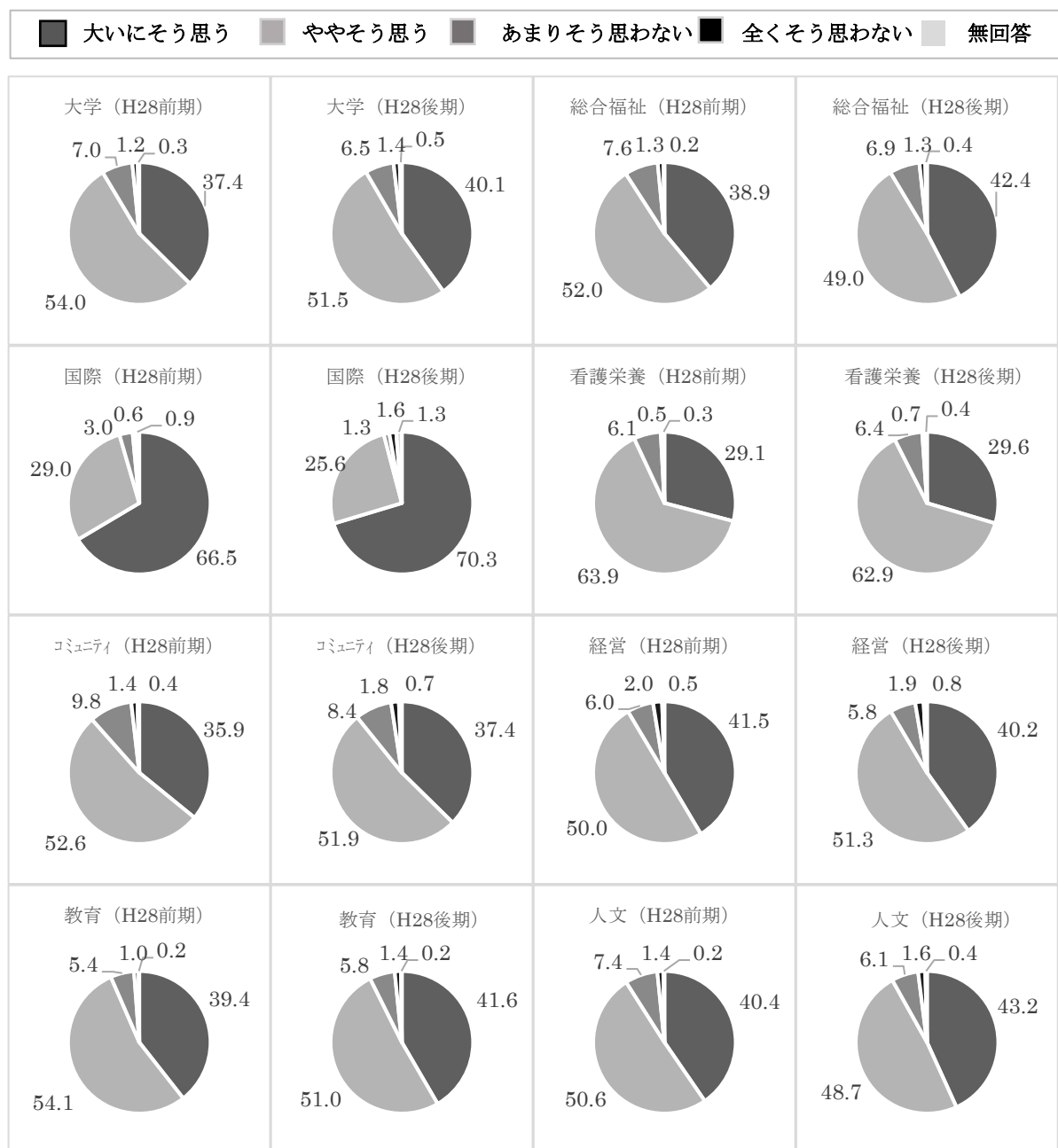
図3 I-3 意欲的に取り組んだか



④ I－4「授業はシラバスにそって行われましたか」

授業内容や到達目標、評価方法などの授業の全体像を示したシラバスは、教員と学生との間の契約事項とも言えます。今年度は「授業はシラバスにそって行われているか」は、大学全体では前年度同様に「大いにそう思う」「ややそう思う」を併せて約90%がシラバスに沿って授業が行われていると回答がありました。大学として、より一層シラバスにそった授業運営の推進と、学生にシラバスを確認する習慣づけの推進をしていく必要があります。

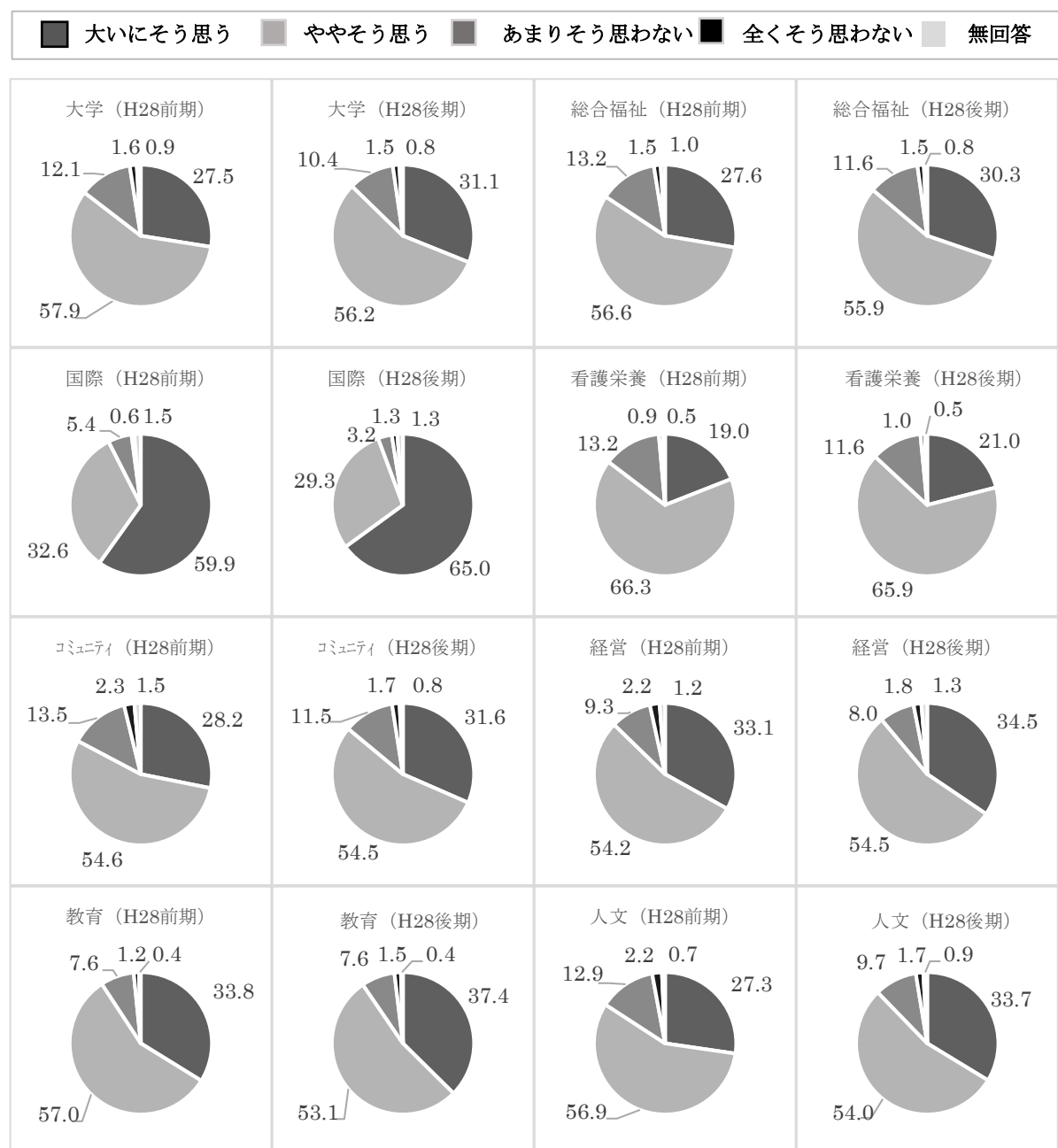
図4 I－4 授業はシラバスにそって行われたか



⑤ I-5「あなたは、シラバスに記載された到達目標を達成できましたか」

大学、学部及び学科で定めている「どのような人材を養成するか」といった方針を達成するために、各科目ではカリキュラムの体系性、順次性にそって科目の到達目標を定めています。図5によれば、大学全体では前期・後期とも「大いにそう思う」「そう思う」と答えているのは約85%以上となっています。しかし学部では、「大いにそう思う」の割合にばらつきがあります。なお、シラナス目標達成度についての探索的な分析は、本報告書第2部で行っています。

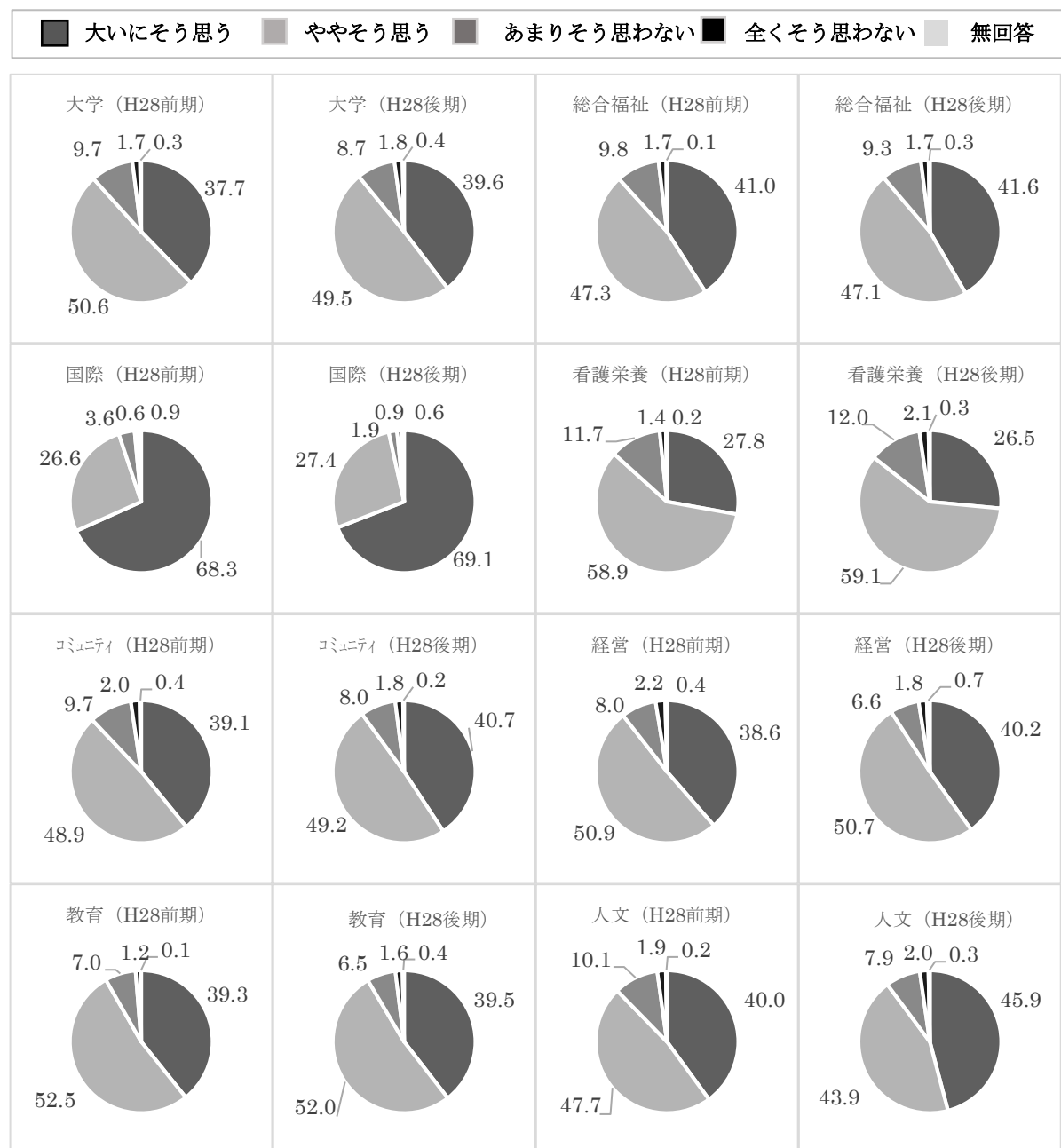
図5 I-5 シラバスに記載された到達目標を達成できたか



⑥ I－6「授業のなかで「事前学習」および「事後学習」等、「授業時間以外の学習内容・方法(資料・課題等)」について、具体的に指示がありましたか」

授業内で事前・事後学習の内容の指示をしているかについて、大学全体では、前期・後期とも約85%以上は「大いにそう思う」「ややそう思う」と回答しています。学部別も、大学全体の結果と同様の傾向が見られました。今年度の報告書第二部では、予習・復習時間の長さについては、事前事後学習の指示が影響していると分析結果が出ており、今後も授業回ごとにシラバスを活用しながら具体的な指示を行っていく必要があります。

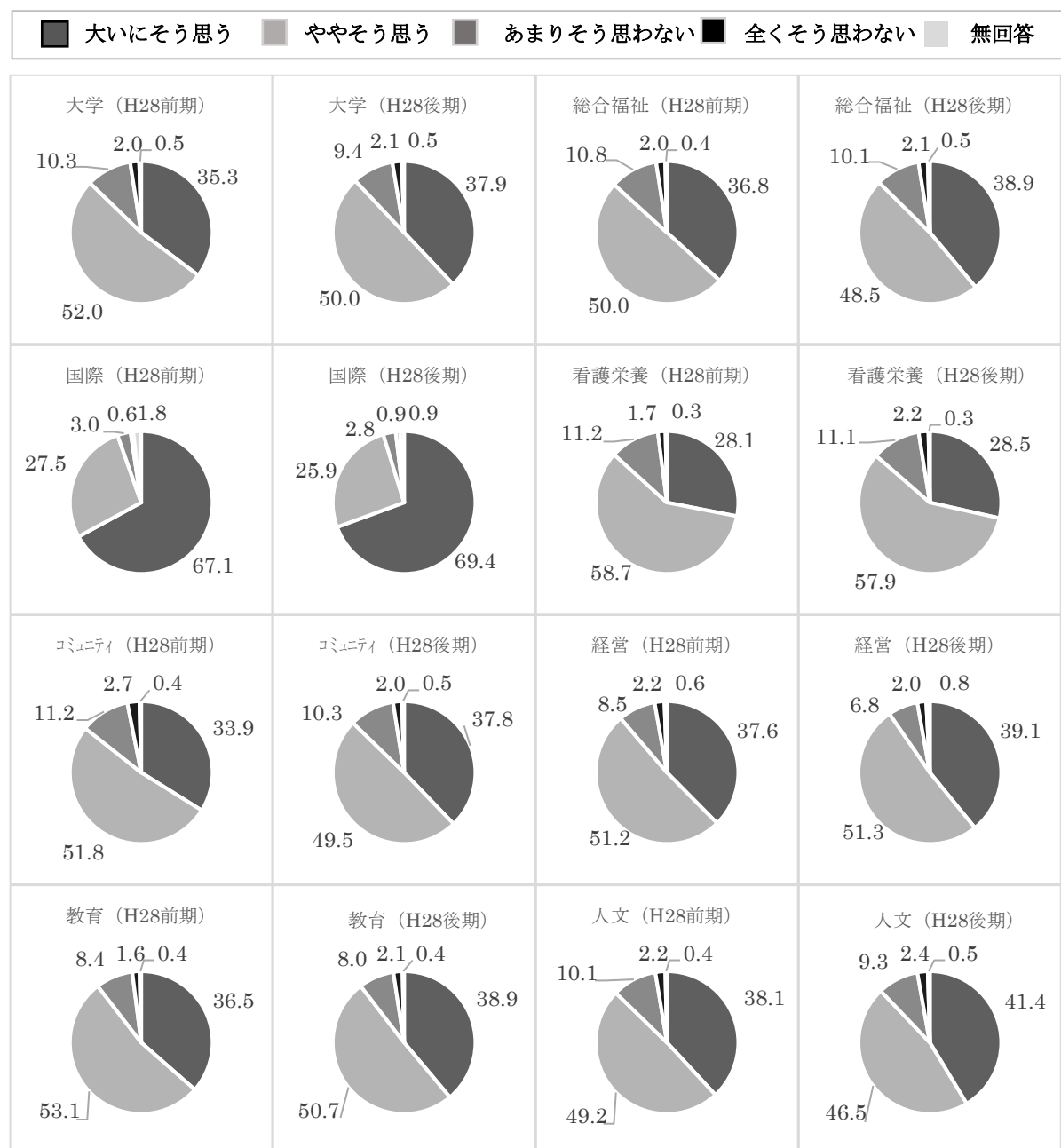
図6 I－6 事前事後学習の指示



⑦ I-7「質疑応答の時間の設定」や「課題レポート・小テストの返却」等、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫はありましたか」

本質問は、学生の理解を促進するため質疑応答の時間を設けるといった工夫がされているかと聞いています。図7によると大学全体では、前年度と同様に前期・後期とも「大いにそう思う」と「ややそう思う」を合わせて約85%以上の回答がされています。学生の理解を促進する工夫が浸透していると言えますが、今後も各授業科目の到達目標達成の為に、工夫に関するFD(Faculty Development)に取り組む必要があるとも言えます。

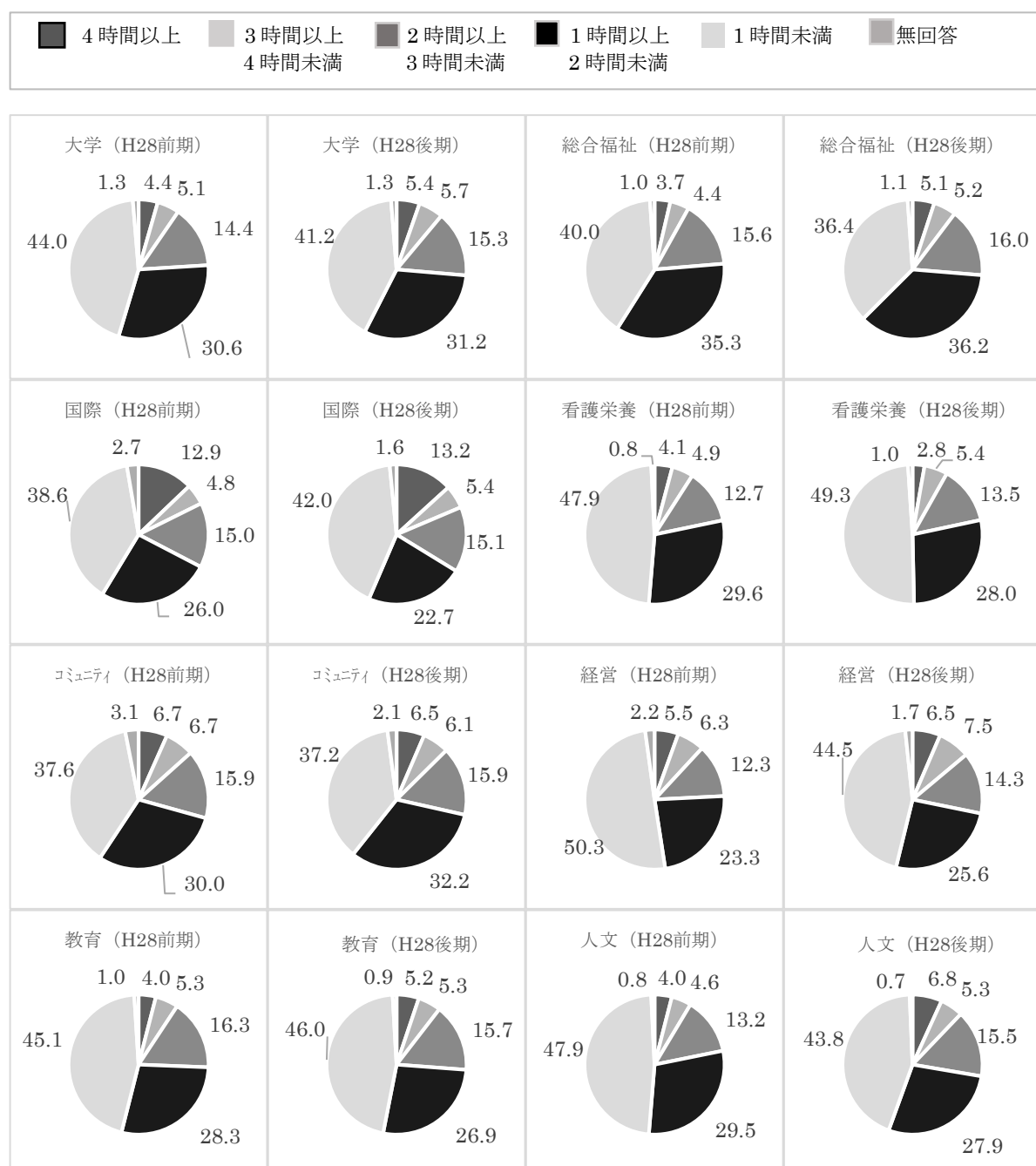
図7 I-7 疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫



⑧ I－8「あなたがこの授業1回(90分)のために予習・復習に費やした時間は平均()であった」

本質問では、各科目の授業においてどのぐらいの予習・復習時間(事前・事後学習に費やした時間)を聞いており、大学全体では1時間未満が前期・後期とも約40%以上となっています。コミュニティ政策学部や総合福祉学部は、1時間未満の割合は前期・後期とも低い傾向にあります。予習・復習の時間を延ばす影響については、今年度報告書第2部に分析結果がありますので、今後その分析結果も踏まえながら、学部学科や授業レベルでどのように単位の実質化に取り組むかといったFDが必要と言えます。

図8 I－8 授業1回に費やした予習・復習時間の平均

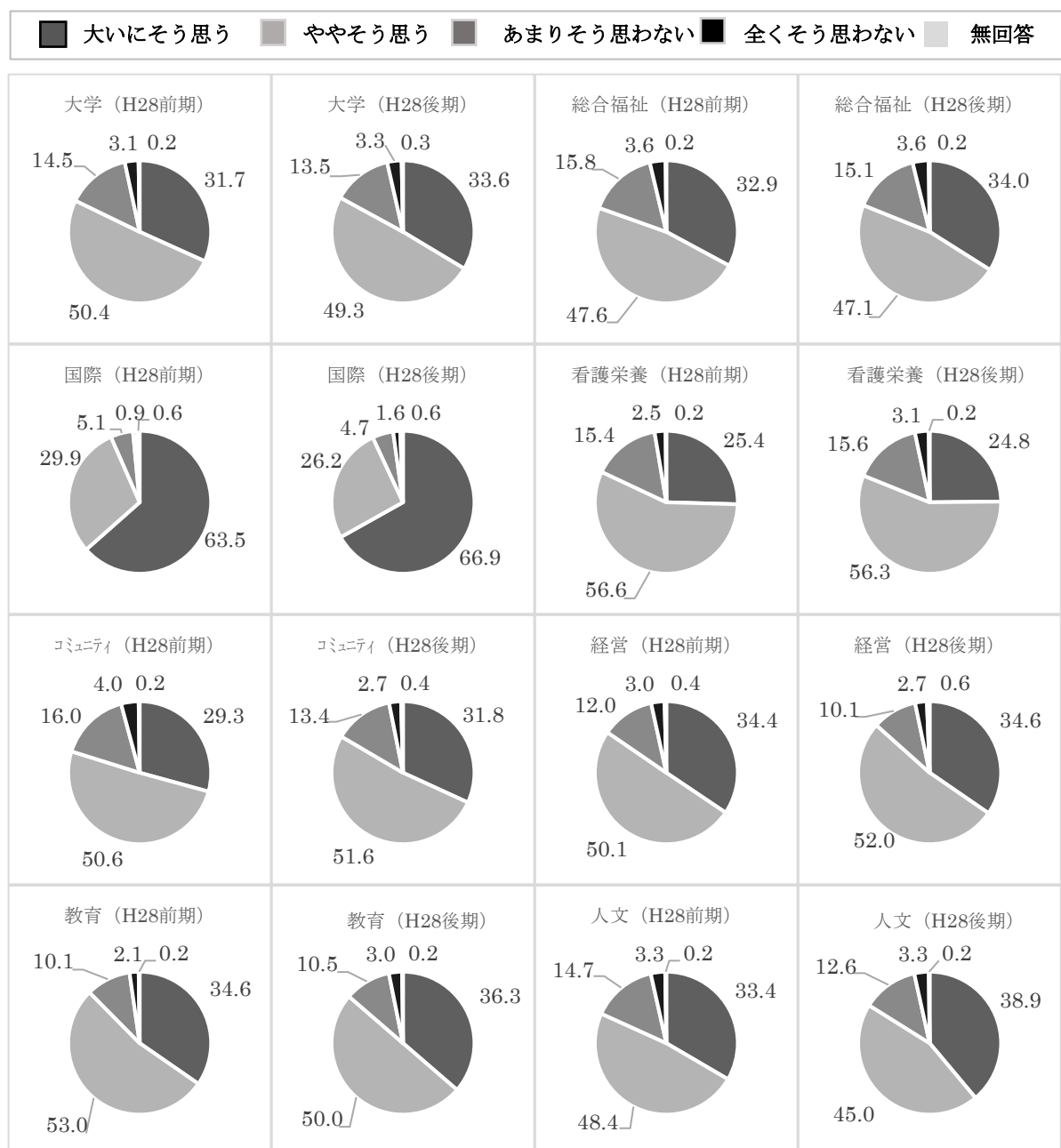


(2) 授業方法について

①Ⅱ－1「双方向型の授業(発表、討論、協同学習、調べ学習等)は、効果的に行われましたか」

報告書第二部の分析では双方向型の授業は授業満足度に影響を与えています。学生の理解を深めるために双方向型の授業が効果的に行われているとの回答は、「大いにそう思う」「そう思う」を合わせて大学全体では前期・後期とも80%を超えています。大学全体で双方向型の授業は効果的に行われているようです。

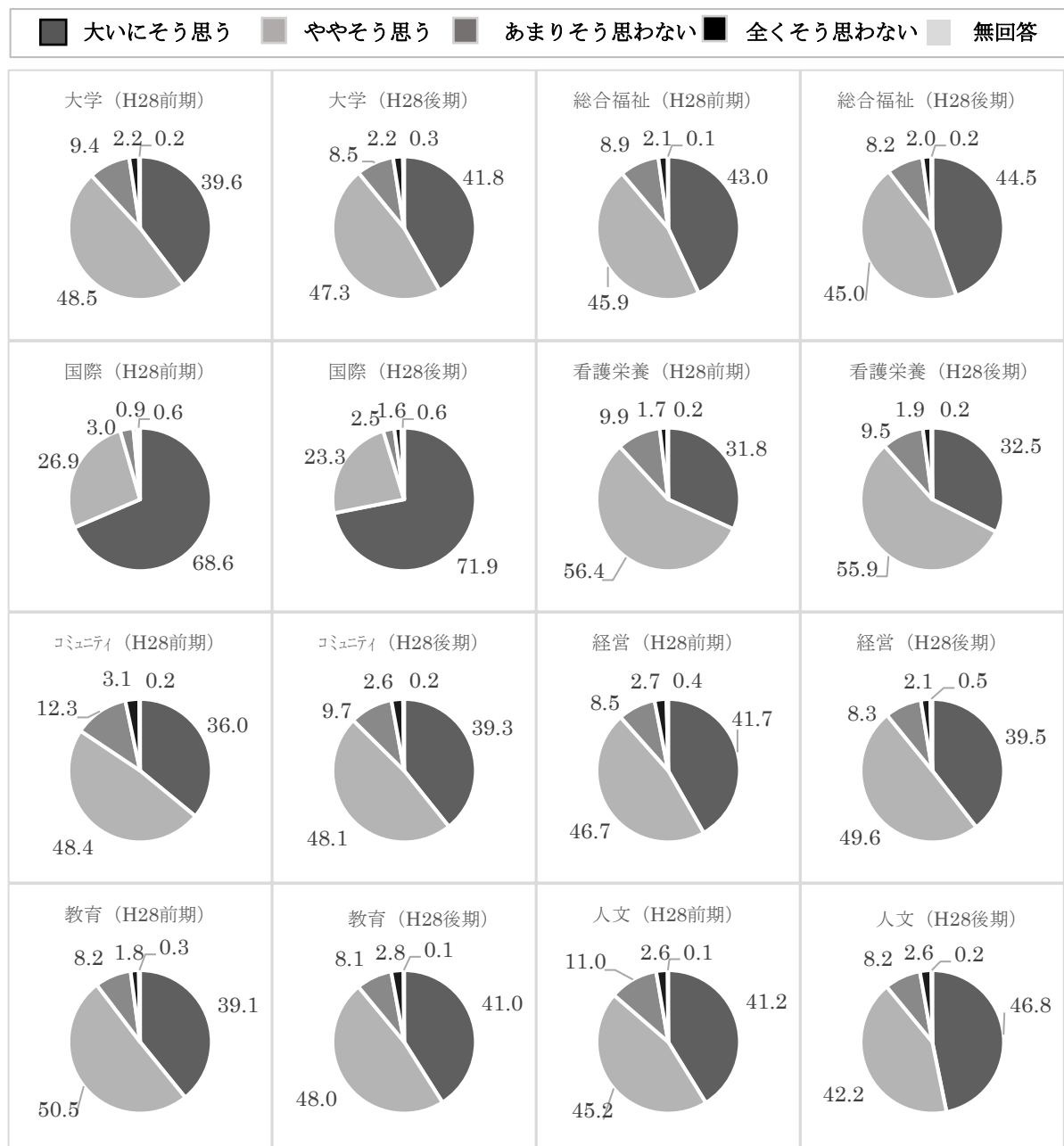
図9 Ⅱ－1 双方向型の授業は効果的に行われたか



②Ⅱ-2「教材(教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等)は、授業の理解に役立ちましたか」

本質問結果(図10)は、大学全体では、「大いにそう思う」は前期・後期とも40%前後となっており、学生は教材が授業の理解に役立っていると感じていることが見て取れます。また、学部別もほとんどの学部で「大いにそう思う」の割合は30～50%となっています。教材は、知的好奇心の刺激と関係しており、教材は効果的に活用され理解の手助けに役立っていると見る事ができます。

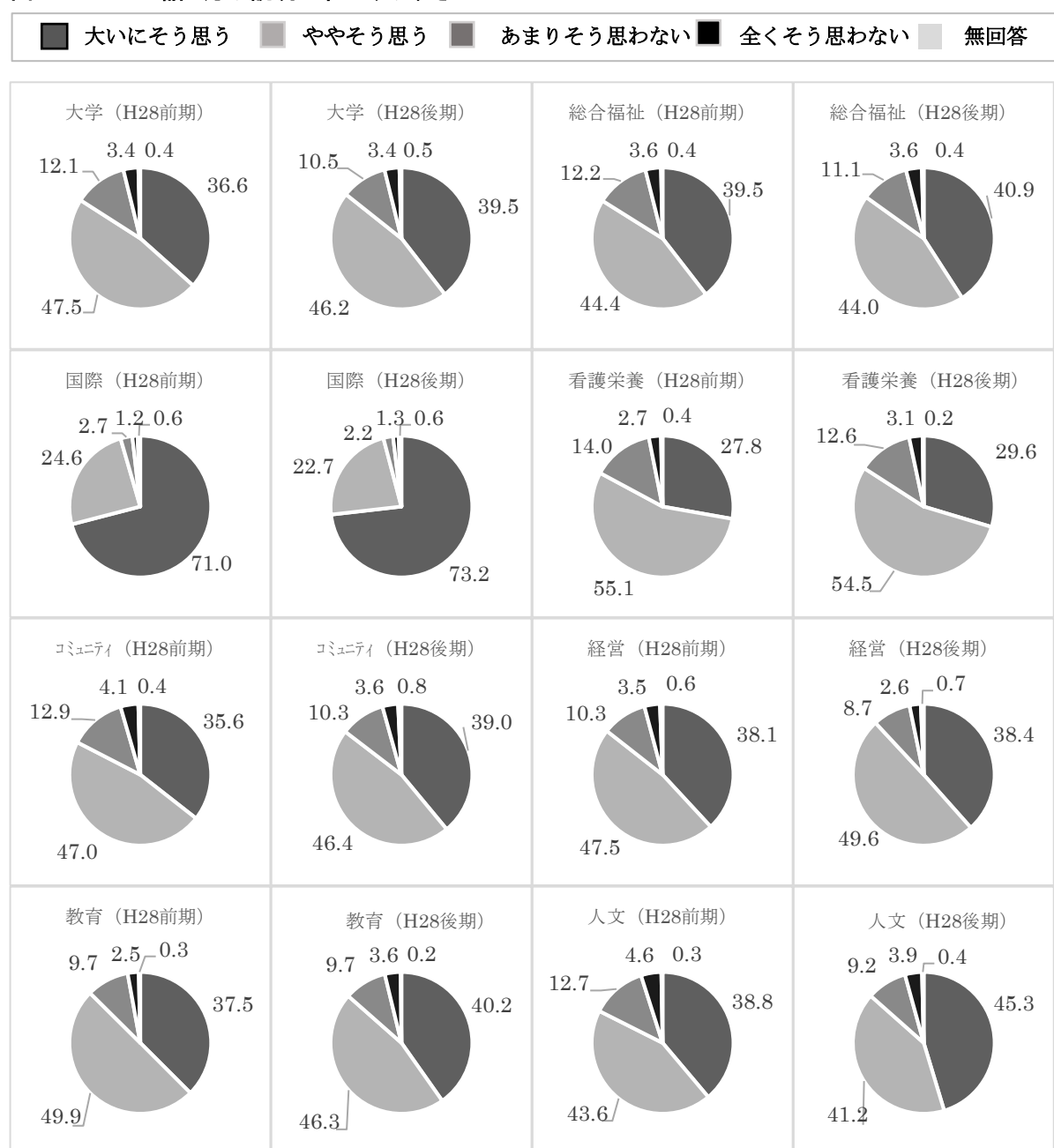
図10 Ⅱ-2 教材は授業の理解に役立ったか



③Ⅱ－3「この授業では、話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか」

図11にあるように、授業における話し方や説明の仕方について看護栄養学部は「大いに思う」は、27～30%の数値で大学全体と比較すると少し低くなっております。しかし看護栄養学部を含め、大学全体や各学部では、話し方や説明についてわかりやすいと捉えている回答は、「やや思う」を合わせると80%から90%になります。一方、「あまりそう思わない」との回答も10%前後あることから、今後FDを通じていっそうわかりやすい授業の推進を行う必要はあります。

図11 Ⅱ－3 話し方や説明のわかりやすさ

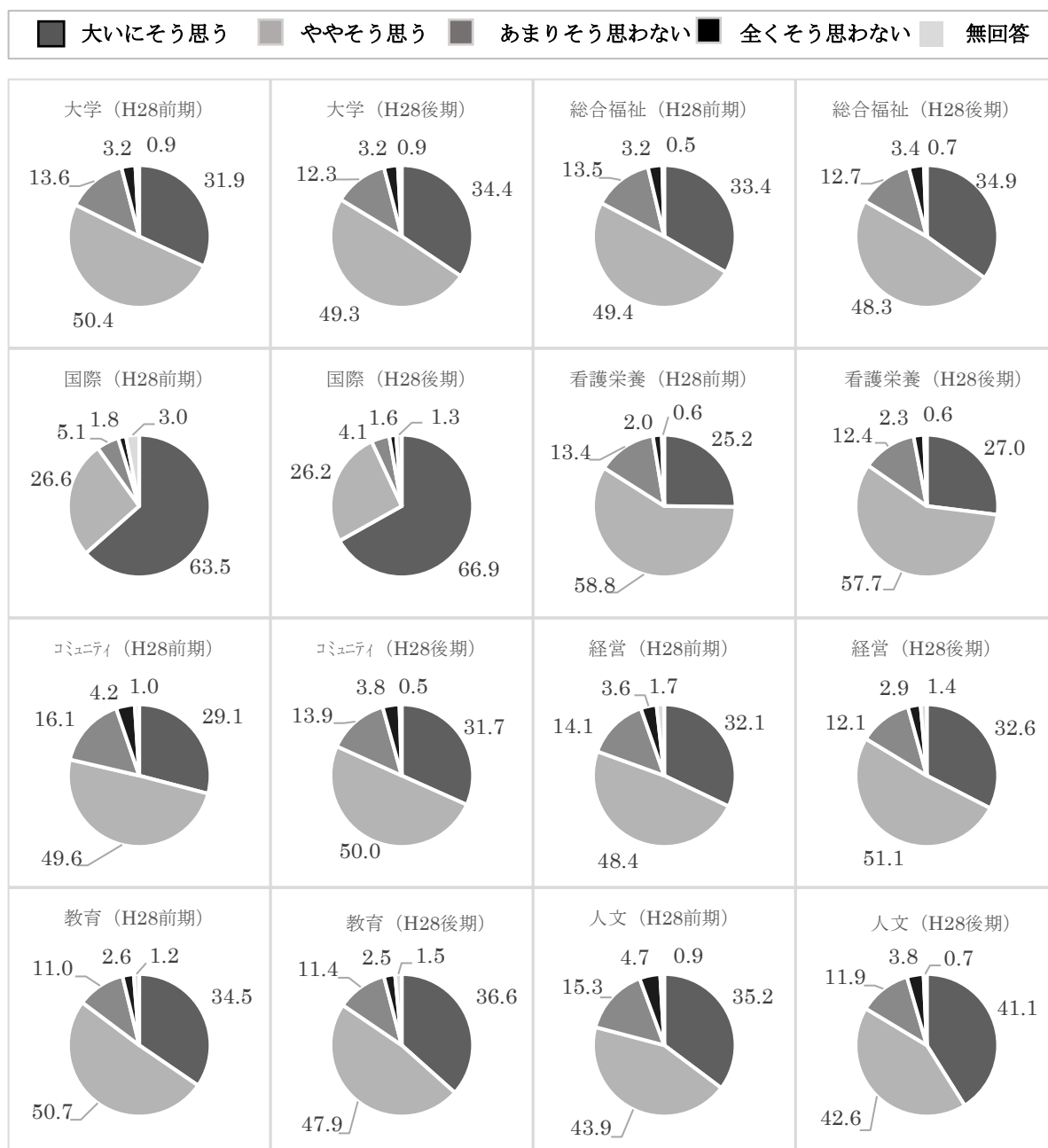


(2) 授業に対する評価について

①Ⅲ－１「この授業をととして知的好奇心が刺激されましたか」

この質問は、授業を通して知的好奇心の刺激についての内容ですが、また、大学全体では、「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせた数値は 80%を超えており、授業を通して知的好奇心への刺激はされているように見られます。なお、知的好奇心の刺激についての探索的な分析は、本報告書第2部で行っています。

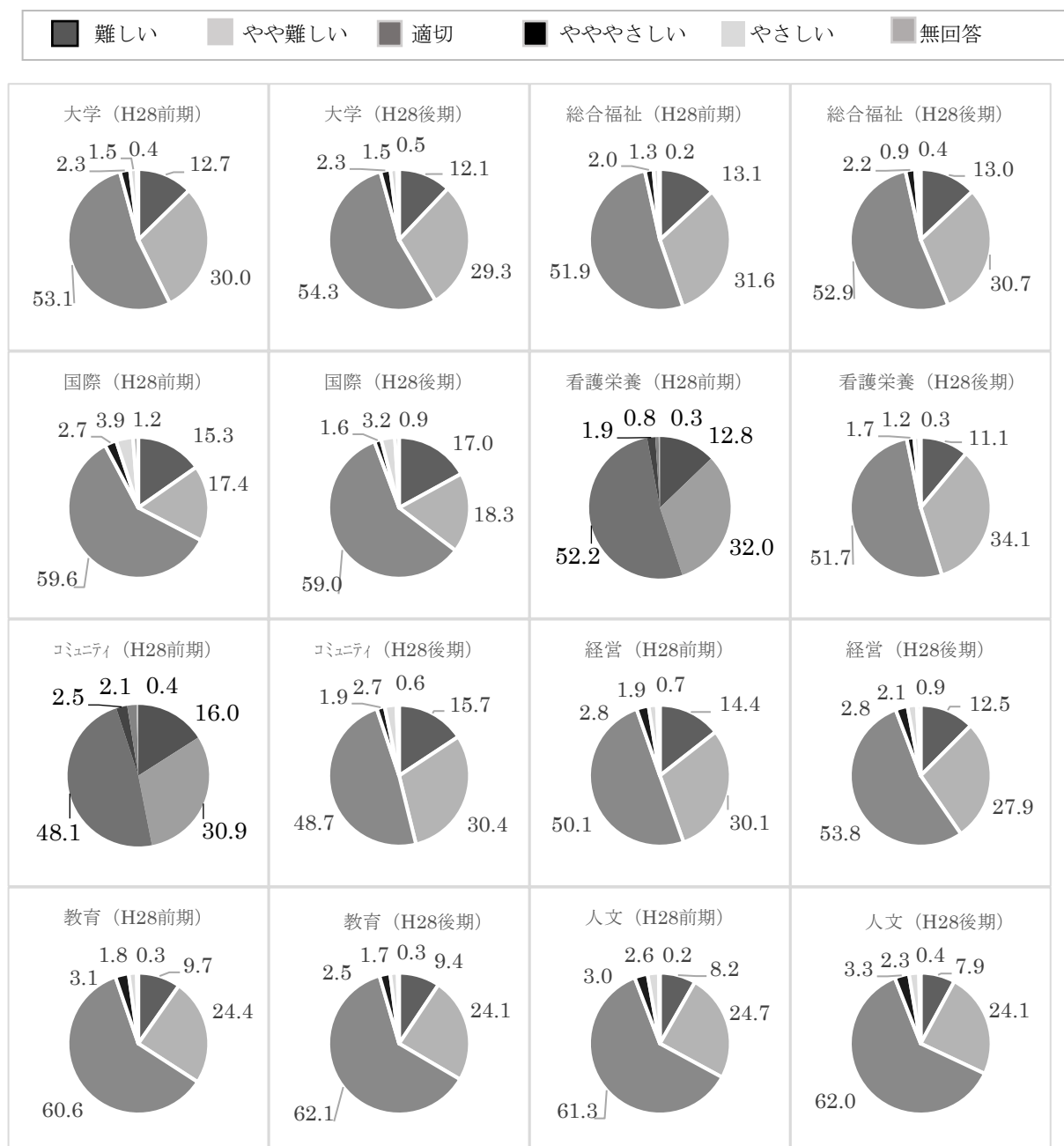
図 12 Ⅲ－１ 知的好奇心の刺激



②Ⅲ－2「あなたの授業内容の理解において、難易度は適切でしたか」

授業の難易度は、図 13 によれば、ほぼ 50%以上は難易度が適切であると回答しています。また適切以外で回答したほとんどは「難しい」もしくは「やや難しい」であり、難易度が「やややさしい」「やさしい」といった回答が比較的少ない傾向にあるようです。

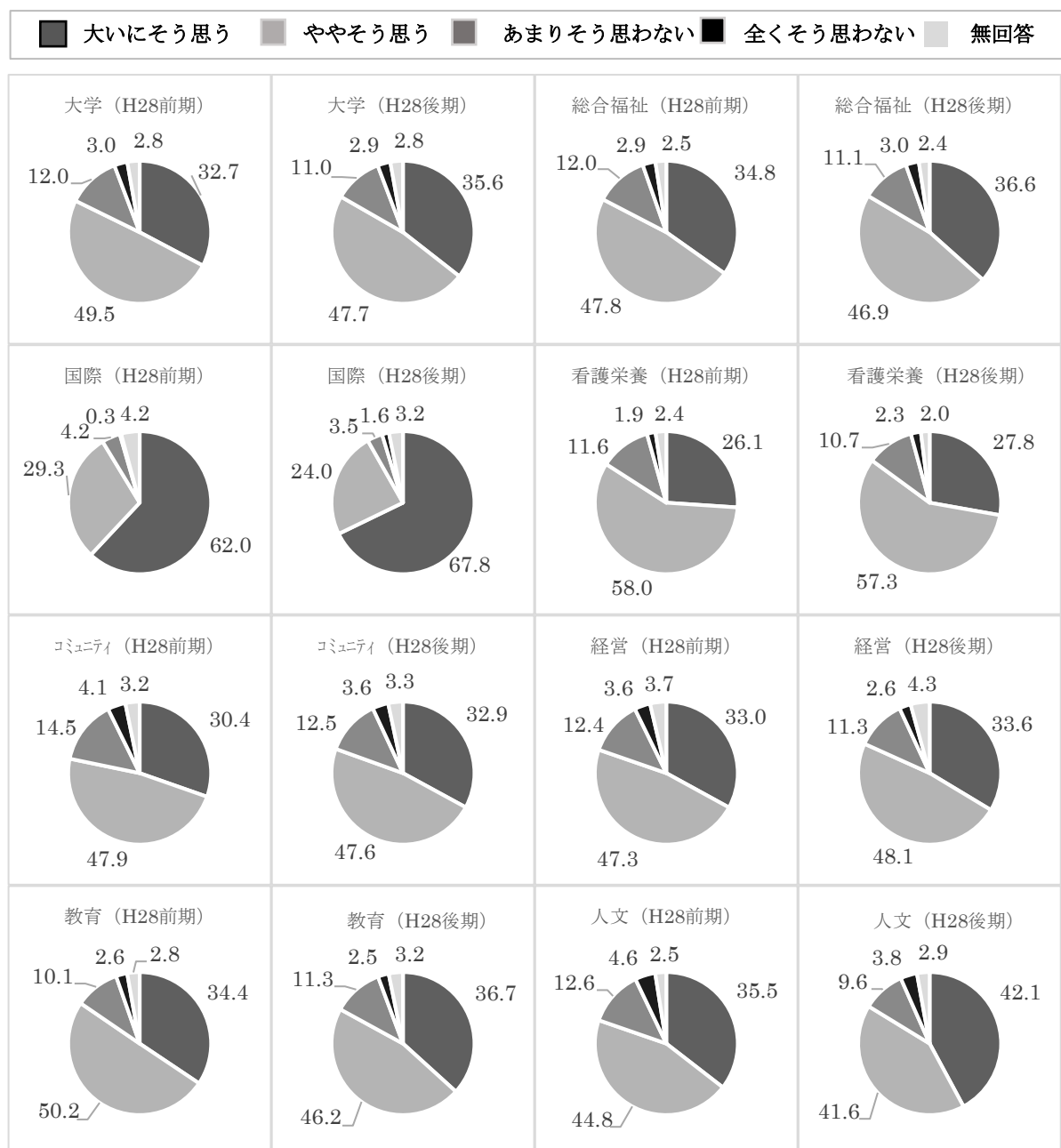
図 13 Ⅲ－2 難易度の適切さ



②Ⅲ-3「この授業を受講して、満足していますか」

授業の満足度は、大学全体では、「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて前期・後期とも80%以上となっていますので、満足度は高いようです。各学部では、「大いにそう思う」と答えている割合は異なります。なお、授業満足度についての探索的な分析は、本報告書第2部で行っています。

図14 Ⅲ-3 授業の満足度

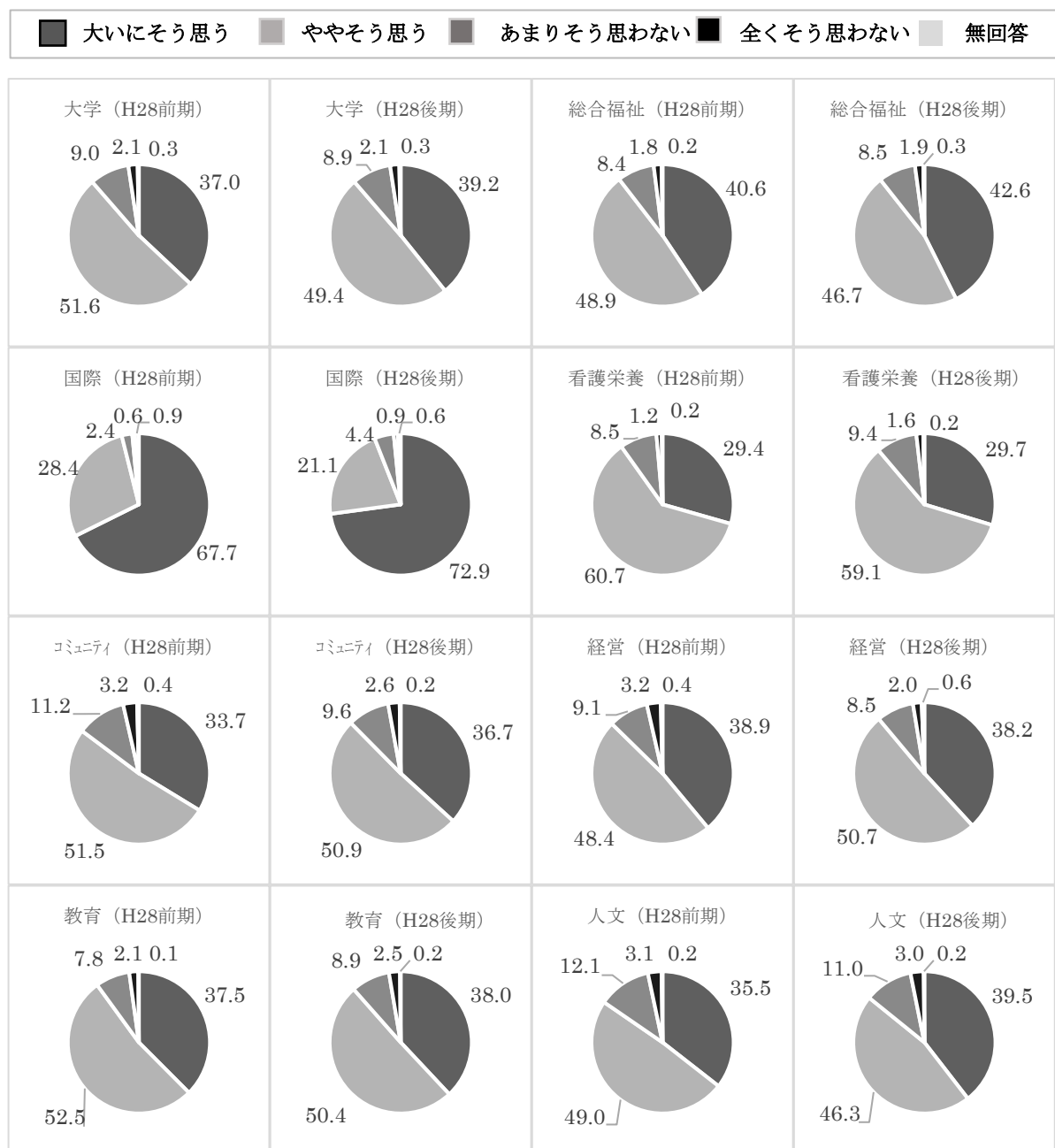


(4)授業環境について

①Ⅳ－１「受講態度(私語、携帯電話の使用等への注意等)に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれていましたか」

授業内で私語や携帯電話の注意等の対応は、大学全体では「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて前後期ともに90%弱となっていますので、学習するにはふさわしい環境は保たれているようです。(図15)

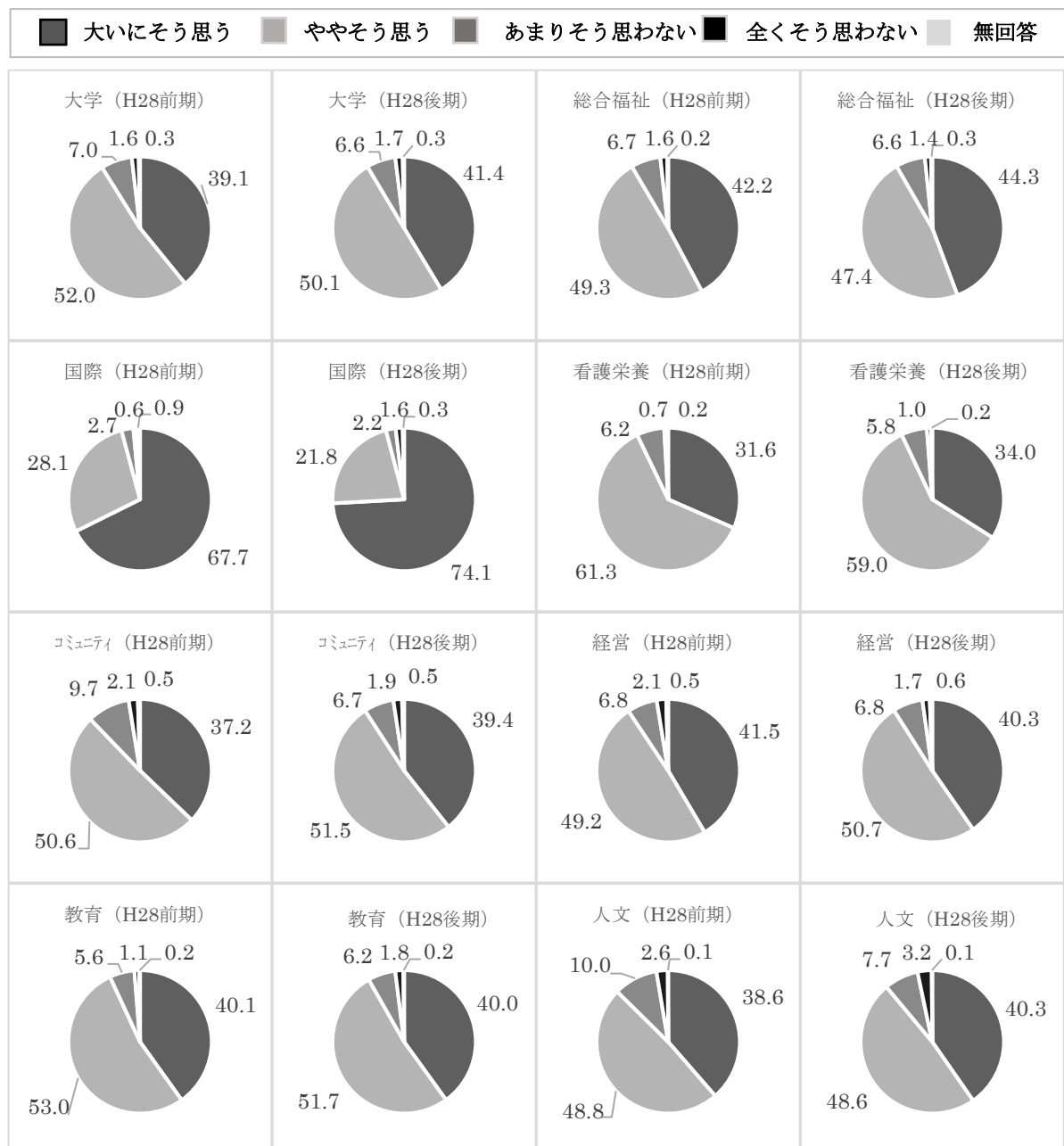
図15 Ⅳ－１ 学習するのにふさわしい環境が保たれていたか



②Ⅳ－２「授業に関する機器・備品等は充実していましたか」

昨年度と同様に授業に関する機器備品は千葉第２キャンパスの看護栄養学部では「大いにそう思う」は大学全体や他学部と比較して低い数値となっています(図 16)。しかし、他キャンパスでも「大いにそう思う」の数値は学部によって異なるため、各科目の使用教室と授業アンケートの分析・検討や各建物や教室の調査をしていく必要があります。

図 16 Ⅳ－２ 授業に関する機器・備品の充実



③Ⅳ－３「この授業を受けるにあたり、履修人数は適切でしたか」

履修人数の適切さについて、大学全体や各学部の前学期・後学期とも「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせた数値は 90% 前後であり、学生の履修人数は適切と感じている人は多く見られます。なお、履修人数による違いの探索的な分析は、本報告書第 2 部で行っています。

図 17 Ⅳ－３ 履修人数は適切か



第二部

- 授業満足度等を規定する要因に関する探索的分析 -

1. 第二部の概要

(1) 分析結果の概要

分析の詳細は次節以降に記しますが、ここでは分析の結果分かったことを簡単に示します。

① 学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か

- 「授業満足度」は、以下の条件において高まる。
 - ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 事前事後の学習の具体的な指示がある。
- ※ キャンパス(千葉第2キャンパスおよび東京キャンパスで実施)、履修人数(20人未満)、履修者の学年(高学年が多い)も影響する。
- ※ 教員アンケート結果を加えた分析では、履修人数・学年以外では「双方向型の授業」と「オリジナル教材の工夫」の影響がもっとも大きかった。
→「授業満足度」にもっとも大きく影響するのは「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」、「受講態度への適切な対応」、および「双方向型の授業」である。「オリジナル教材の工夫」の影響も示唆される。
- 「知的刺激(授業を通じて知的好奇心が刺激される度合い)」は、以下の条件において高まる。
 - ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい。
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ シラバスに沿って行われている。
- ※ キャンパス(千葉キャンパスおよび埼玉キャンパス以外で実施)、履修者の学年(高学年が多い)も影響する。
- ※ 教員アンケート結果を加えた分析では、履修人数・学年以外では「双方向型の授業」と「オリジナル教材の工夫」の影響がもっとも大きかった。
→「知的刺激」にもっとも大きく影響するのは「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」、次いで「受講態度への適切な対応」「双方向型の授業」である。「オリジナル教材の工夫」の影響も示唆される。

- 「予習・復習時間」は、以下の条件において長くなる。
 - ・ 内容が難しい。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 教材が授業の理解に役立たない。
 ※ 履修人数(20 人未満)、履修者の学年(高学年が多い)も影響する
 ※ 教員アンケート結果を加えた分析では、履修人数・学年以外では「教材役立ち度(マイナス)」、「事前事後課題の指示」および「難易度」である。
 →「予習・復習時間」にもっとも大きく影響するのは「内容の難易度」および「事前事後課題の指示」「双方向型の授業」である。

- 「シラバス目標達成度(シラバスに記載された到達目標が達成できたか否か)」は、以下の条件において高まる。
 - ・ シラバスに沿って行われている。
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている。
 - ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある。
 - ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい。
 - ・ 機器・備品等が充実している。
 - ・ 内容が難しくない。
 ※ 履修人数(20 人未満)も影響する。
 ※ 教員アンケート結果を加えた分析では、履修人数・学年以外では「難易度」「オリジナル教材の工夫」「双方向型の授業」の影響がみられた。
 →「シラバス目標達成度」にもっとも大きく影響するのは「シラバスに沿った授業であること」、次いで「双方向型の授業」「事前事後課題の指示」である。「難易度」「オリジナル教材の工夫」の影響も示唆される。

- 「授業満足度」と「知的刺激」には「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」や「受講態度への適切な対応」、「予習復習時間」には「難易度」「事前事後課題の指示」「双方向型の授業」が大きく影響する。以上は昨年度の分析結果と同様であり、安定した結果だといえる。
- すべての目的変数に影響するのは、「双方向型の授業」「学年(高学年が多いと効果的)」である。
 - ※ 教員データを加えた分析では、「履修人数(少ないと効果的)」「学年(高学年が多いと効果的)」、および「双方向型の授業」「オリジナル教材の工夫」「難易度」が、「授業満足度」「知的刺激」「予習・復習時間」および「シラバス目標達成度」のすべてに影響していた。

- 同じ授業であっても、授業を行う側(教員)と受ける側(学生)では評価の一致度は低い(ただし、「双方向型の授業」および「履修人数の適切さ」などについては一致度は低くはない)。

② 履修人数、難易度等の影響

● 「話しやすさ等分かりやすさ」の授業満足度等への効果

【履修人数】

- ・ 教員の話し方や説明の仕方の分かりやすさ(「話し方等分かりやすさ」)は、履修人数によらず、「授業満足度」および「知的刺激」を高めるもっとも大きな要因である。とくに履修人数が 100 人以上の授業では、「話し方等分かりやすさ」以外の要因はほとんど影響しない。
- ・ 「シラバス目標達成度」をもっとも高めるのは、履修人数によらず「シラバス忠実度」だが、履修人数が 50 人以上になると「話し方等分かりやすさ」も影響する。
- ・ 「話しやすさ等分かりやすさ」は、とくに履修人数が多い授業で影響が大きいといえる。

【難易度】

- ・ 教員の話し方や説明の仕方の分かりやすさ(「話し方等分かりやすさ」)は、「授業満足度」および「知的刺激」に対しては、授業の難易度によらず、まねなくもっとも大きな影響をもたらす。「シラバス目標達成度」に対しては、難易度が高い授業においてのみ影響がある。

● 「双方向型の授業」の授業満足度等への効果

【履修人数】

- ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれていること(「双方向型授業評価」)は、「授業満足度」「知的刺激」「シラバス目標達成度」のいずれに対しても影響する。ただし、履修人数が 100 人以上の授業では、「授業満足度」と「知的刺激」には影響しない。

【難易度】

- ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれていること(「双方向型授業評価」)は、「授業満足度」「知的刺激」「シラバス目標達成度」のいずれに対しても影響する。ただし、「知的刺激」に対する影響は「やさしい」授業ではみられず、「シラバス目標達成度」に対する影響は「難しい」授業ではみられない。

(2) 分析の目的と方法

第二部では、授業単位で集計したアンケート調査結果および授業の実施場所や履修人数等の情報を用いて、「学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か」を探索的に分析します。

なお、「学生の評価が高く、学習行動を促進している」は、以下のアンケート項目の回答(学生対象のアンケート結果を授業単位で集約したデータ)から判断します。

- 授業満足度(QⅢ3, 選択肢は4水準)
「この授業を受講して、満足していますか」
- 知的好奇心(QⅢ1, 選択肢は4水準)
「この授業を通じて知的好奇心が刺激されましたか」
- 予習復習時間(QⅠ8, 選択肢は5水準)
「あなたが、この授業1回(90分)のために予習・復習時間に費やした時間は平均()分であった」
- シラバス目標達成度(QⅠ5, 選択肢は4水準)
「あなたは、シラバスに記載された到達目標を達成できましたか」

主な分析手順は以下のとおりです。

① 相関分析、単回帰分析等(2つの項目間の関連に関する分析)

- 「授業満足度」「知的好奇心」「予習復習時間」「シラバス達成度」とその他の調査項目(教員対象のアンケート結果を含む)および履修人数・学年等の授業属性との関連を中心に、2つの変数間にどのような関連があるのかを検討する。

② 重回帰分析

- ①の結果をふまえて、「授業満足度」「知的好奇心」「予習復習時間」「シラバス目標達成度」をそれぞれ目的変数、その他の調査項目および授業属性を説明変数とした重回帰分析を行い、「授業満足度」等はどのような要因によって規定されているのかを検討する。

(3) 分析データについて

分析には、主に以下の2つのデータを用います。

① 学生対象の授業単位集約データ(n=2,131)

- 学生による授業評価アンケートの結果(延べ 62,270 人分の回答データで第一部と同様)を用い、授業ごとに平均点を算出したもの。平均点は、たとえば選択肢が「大いにそう思う～全くそう思わない」の 4 段階の場合、「大いにそう思う=4 点」～「全くそう思わない=1 点」とみなして計算する。

② 教員対象の授業単位データ(n=2,077)

- 教員による授業の自己点検である教員向けアンケートの結果。授業毎に 1 つの回答であるため、①のような集約作業は行わない。
- 教員延べ 2,114 人分の回答データのうち、無記名の 12 票、および①のデータに含まれない授業の 25 票を除いたデータを用いた。

なお、①と②の調査項目は同様ですが、調査票の文言の表現には、授業を行う側(教員)と受ける側(学生)の立場の違いが以下のように反映されています。

「教材役立ち度」の文言例

- 学生向け 「教材(教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等)は、授業の理解に役立ちましたか」
- 教員向け 「教材(教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等)は、授業の理解に役立つように工夫しましたか」
 - ・ 教員向けアンケートでは、さらに「工夫した教材について該当するものに○を付けてください(複数回答可)」という子設問がある。

「話し方等分かりやすさ」の文言例

- 学生向け 「この授業では、話し方や説明の仕方が分かりやすかったですか」
- 教員向け 「授業において、分かりやすい話し方や説明の仕方を心がけましたか」

「知的刺激」の文言例

- 学生向け 「この授業を通じて知的好奇心が刺激されましたか」
- 教員向け 「この授業は、知的好奇心を刺激する内容でしたか」

2. 学生対象アンケート調査結果の分析

(1) 分析データの作成

分析には、授業単位データだけでなく、その授業の実施場所や時間、回答した学生の学年・性別・所属学部(アンケートに回答欄あり)、履修人数などの授業属性データおよび授業ごとの成績データを使用します。また、今年度は各授業の成績の平均値(GP)も使用しましたが、データ化の元となる個人 GP データの欠損の多さにより、平均値が算出できない授業が約 15%にのぼったため、結果は参考程度とします。

データ化は、以下のように行いました。

- 学期 「前学期」「後学期」の 2 変数。前学期を「1」、後学期を「0」として 0-1 データ化。
- 曜日 「月」「火」「水」「木」「金」「土」の 6 変数。該当曜日を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- 時限 「1 限」「2 限」「3 限」「4 限」「5 限」「6 限」「7 限」「集中講義」の 8 変数。該当を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- キャンパス 「千葉」「千葉第 2」「埼玉」「東京」の 4 変数。該当を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- 学年 回答した学生の学年の平均値。5,6 年生のデータは不使用(欠測値扱い)。
- 性別 回答した学生のうち、女子が何%かを示した「女子比」。
- 学部 「総合福祉」「国際コミュニケーション」「看護栄養」「コミュニティ政策」「経営」「教育」「人文」「その他」の 8 変数。回答した学生の所属学部の割合を数値化。たとえば、その授業の回答者が全員「総合福祉」であれば、「総合福祉」を「1」、その他の変数をすべて「0」となる。100 人の学生が回答した授業で、「総合福祉」が 20%、「国際コミュニケーション」が 10%、「コミュニティ政策」が 70%なら、「総合福祉」を「0.2」、「国際コミュニケーション」を「0.1」、「コミュニティ政策」を「0.7」とし、その他の変数すべてを「0」となる。
- 履修人数 「10 人未満」「10 人～19 人」「20 人～49 人」「50 人～99 人」「100 人以上」の 5 項目として順序尺度化。ただし、アンケート回答数と履修人数が大きく異なる授業(15 授業)は不使用(欠測値扱い)。
- GP 成績 S・A・B・C・D をそれぞれ 4 点・3 点・2 点・1 点・0 点として授業ごとに平均点を算出しデータ化。

- 学部別標準化 GP 成績 S・A・B・C・D をそれぞれ 4 点・3 点・2 点・1 点・0 点とし、学部別に標準化得点に置き換えたうえで、授業ごとに平均点を算出しデータ化。

なお、授業単位データでは、授業ごとの平均点を計算する前に以下の論理矛盾回答処理を行っています。

- 「授業説明の有無(Q I 1)」で「説明がなかった(1 または 2)」と回答
→「授業説明の理解度(Q I 2)」および「授業説明の取組み度(Q I 3)」を非該当として処理
- 「授業説明の理解度(Q I 2)」で「理解できなかった(1 または 2)」と回答
→「授業説明の取組み度(Q I 3)」を非該当として処理

(2) 2 つの項目間の関連

① 相関係数行列

全項目間の関連を俯瞰するため、相関分析を行いました。その結果の相関係数行列を表 1 に示します。

相関係数とは、2 つの変数の関連の強さの程度を表す指標で、 ± 1 の範囲内の値をとります。一方が大きくなるにつれもう一方も大きくなるという正の関連であれば+の値、一方が大きくなるにつれもう一方が小さくなるという負の関連であれば-の値、完全に一致していれば+1、完全に反対であれば-1 です。

表 1 では、数値の大きさを直感的に分かりやすくするために色分けしています。オレンジおよび濃い水色は ± 0.7 以上の高相関、薄いオレンジおよび水色は ± 0.4 以上 0.7 未満、グレーは ± 0.12 未満です。

濃い青色は+1(同じ項目間の相関係数なので完全に一致)です。表 1 は、濃い青色ラインを境に右上と左下は同じ内容になっています。

		=1 高相関 0.7以上 0.7以下 0.4～0.7未満 0.4～0.7 低相関 0.12～0.12未満																前学期	月	火	水	木	金	土	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	集中講義
学期(0-1)	前学期	1.00	.02	.00	-.01	-.01	.01	-.01	.03	.03	-.02	.00	.01	.00	-.14	-.02																
曜日	月	.02	1.00	-.23	-.24	-.21	-.25	-.04	-.03	.00	.04	.07	.02	-.08	-.08	-.03																
(0-1)	火	.00	-.23	1.00	-.26	-.23	-.27	-.05	.00	-.02	-.05	.03	.02	-.07	-.04	-.04																
	水	-.01	-.24	-.26	1.00	-.23	-.28	-.05	.04	-.01	.02	-.02	.00	-.02	-.03	-.04																
	木	-.01	-.21	-.23	-.23	1.00	-.25	-.04	.03	.02	-.02	-.05	-.03	.03	.05	-.03																
	金	.01	-.25	-.27	-.28	-.25	1.00	-.05	-.07	.03	.02	-.01	.01	.00	.02	-.04																
	土	-.01	-.04	-.05	-.05	-.04	-.05	1.00	.16	-.02	-.05	-.04	-.03	-.02	-.02	-.01																
時限	1限	.03	-.03	.00	.04	.03	-.07	.16	1.00	-.18	-.24	-.21	-.16	-.09	-.09	-.03																
(0-1)	2限	.03	.00	-.02	-.01	.02	.03	-.02	-.18	1.00	-.31	-.27	-.19	-.12	-.12	-.04																
	3限	-.02	.04	-.05	.02	-.02	.02	-.05	-.24	-.31	1.00	-.20	-.19	-.12	-.11	-.04																
	4限	.00	.07	.03	-.02	-.05	-.01	-.04	-.21	-.27	-.20	1.00	-.13	-.10	-.09	-.03																
	5限	.01	.02	.02	.00	-.03	.01	-.03	-.16	-.19	-.19	-.13	1.00	-.07	-.07	-.03																
	6限	.00	-.08	.07	-.02	.03	.00	-.02	-.09	-.12	-.12	-.10	-.07	1.00	-.04	-.02																
	7限	-.14	-.08	.04	-.03	.05	.02	-.02	-.09	-.12	-.11	-.09	-.07	-.04	1.00	-.01																
	集中講義	-.02	-.03	-.04	-.04	-.03	-.04	-.01	-.03	-.04	-.04	-.03	-.03	-.02	-.01	1.00																
キャンパス	千葉	-.02	-.09	.16	.04	-.14	.06	-.08	-.04	-.03	-.10	-.05	.01	.23	.22	-.05																
(0-1)	千葉第2	.07	-.04	.01	-.03	.01	.05	-.03	.03	-.03	.05	-.03	.03	-.06	-.06	.00																
	埼玉	-.01	.05	-.14	-.01	.11	-.04	.12	.00	.03	.06	.02	-.03	-.15	-.15	.03																
	東京	.00	.10	-.03	-.02	.05	-.09	-.03	.04	.05	.04	.08	.00	-.07	-.07	.04																
学年	学年平均	-.03	-.03	.01	-.09	.10	-.01	.13	-.10	-.11	-.09	-.03	.04	.25	.30	.01																
性別	女子比	.04	-.01	.06	.03	-.07	.00	-.02	.02	-.01	.01	.03	.02	-.04	-.06	-.03																
学部	1 総合福祉 率	-.02	-.10	.19	.08	-.20	.06	-.07	-.02	-.01	-.11	-.02	.05	.18	.11	-.04																
(割合)	2 国際コミュ 率	.00	.02	-.07	-.02	.06	-.04	.24	.04	.02	-.01	.01	-.03	-.06	-.06	-.02																
	3 看護栄養 率	.07	.00	-.01	-.02	.00	.03	-.03	.03	-.04	.05	-.02	.03	-.07	-.07	.00																
	4 コミュ政策 率	-.01	-.03	-.02	-.08	.11	.03	-.03	-.03	-.04	.00	-.06	-.06	.11	.23	-.02																

表 1 授業単位データ等の相関係数行列 2/4

		相関係数														
		千葉	千葉第2	埼玉	東京	学年平均	女子比	1_総合福祉_率	2_国際コミュ_率	3_看護栄養_率	4_コミュ政策_率	5_経営_率	6_教育_率	7_人文_率	8_その他_率	履修人数(5水準)
学期(0-1)	前学期	-.02	.07	-.01	.00	-.03	.04	-.02	.00	.07	-.01	-.01	-.01	.00	.02	.08
	曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	曜日
(0-1)	火	.16	.01	-.14	-.03	.01	.06	.19	-.07	-.01	-.02	-.08	-.06	-.03	-.01	.06
	水	.04	-.03	-.01	-.02	-.09	.03	.08	-.02	-.02	-.08	.05	-.06	-.02	.04	.01
	木	-.14	.01	.11	.05	.10	-.07	-.20	.06	.00	.11	.08	.02	.05	-.01	-.01
	金	.06	.05	-.04	-.09	-.01	.00	.06	-.04	.03	.03	-.08	.07	-.09	-.01	-.07
	土	-.08	-.03	.12	-.03	.13	-.02	-.07	.24	-.03	-.03	.00	-.03	-.03	.00	-.13
	時限	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	集中講義	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
(0-1)	2限	-.03	-.03	.03	.05	-.11	-.01	-.01	.02	-.04	-.04	.04	-.03	.05	.04	.04
	3限	-.10	.05	.06	.04	-.09	.01	-.11	-.01	.05	.00	.07	.02	.04	-.01	.06
	4限	-.05	-.03	.02	.08	-.03	.03	-.02	.01	-.02	-.06	-.03	.05	.08	-.01	.04
	5限	.01	.03	-.03	.00	.04	.02	.05	-.03	.03	-.06	-.05	.05	.00	-.01	-.01
	6限	.23	-.06	-.15	-.07	.25	-.04	.18	-.06	-.07	.11	-.10	-.06	-.07	.00	-.18
	7限	.22	-.06	-.15	-.07	.30	-.06	.11	-.06	-.07	.23	-.09	-.07	-.07	.00	-.20
	集中講義	-.05	.00	.03	.04	.01	-.03	-.04	-.02	.00	-.02	.05	.00	.04	.00	-.01
	キャンパス	千葉	千葉第2	埼玉	東京	学年平均	女子比	1_総合福祉_率	2_国際コミュ_率	3_看護栄養_率	4_コミュ政策_率	5_経営_率	6_教育_率	7_人文_率	8_その他_率	履修人数(5水準)
(0-1)	千葉	1.00	-.27	-.68	-.30	.07	-.04	.84	-.26	-.24	.35	-.42	-.32	-.31	-.02	.06
	千葉第2	-.27	1.00	-.23	-.10	-.13	.38	-.23	-.09	.98	-.09	-.14	-.11	-.10	-.01	.28
	埼玉	-.68	-.23	1.00	-.26	.08	-.10	-.58	.39	-.25	-.24	.62	.47	-.26	.03	-.24
	東京	-.30	-.10	-.26	1.00	-.13	-.12	-.26	-.10	-.11	-.11	-.16	-.12	1.00	-.01	.03
学年	学年平均	.07	-.13	.08	-.13	1.00	-.13	.06	.43	-.14	.04	-.13	-.08	-.13	.03	-.45
	性別	女子比	-.04	.38	-.10	-.12	-.13	1.00	.15	-.17	.39	-.35	-.19	.22	-.12	-.02
学部	1_総合福祉_率	.84	-.23	-.58	-.26	.06	.15	1.00	-.22	-.22	-.20	-.36	-.27	-.26	-.02	.04
	(割合)	2_国際コミュ_率	-.26	-.09	.39	-.10	.43	-.17	1.00	-.10	-.09	-.13	-.10	-.10	.05	-.37
	3_看護栄養_率	-.24	.98	-.25	-.11	-.14	.39	-.22	-.10	1.00	-.09	-.16	-.12	-.11	-.01	.32
	4_コミュ政策_率	.35	-.09	-.24	-.11	.04	-.35	-.20	-.09	-.09	1.00	-.15	-.11	-.11	-.01	-.01
	5_経営_率	-.42	-.14	.62	-.16	-.13	-.19	-.36	-.13	-.16	-.15	1.00	-.14	-.16	-.01	-.05
	6_教育_率	-.32	-.11	.47	-.12	-.08	.22	-.27	-.10	-.12	-.11	-.14	1.00	-.12	-.01	.02
	7_人文_率	-.31	-.10	-.26	1.00	-.13	-.12	-.26	-.10	-.11	-.11	-.16	-.12	1.00	-.01	.03
	8_その他_率	-.02	-.01	.03	-.01	.03	-.02	-.02	.05	-.01	-.01	-.01	-.01	-.01	1.00	-.01
履修人数	履修人数(5水準)	.06	.28	-.24	.03	-.45	.26	.04	-.37	.32	-.01	-.05	.02	.03	-.01	1.00
	アンケート	I 1授業説明_有無	.03	-.20	.09	.00	.29	-.09	.07	.30	-.22	-.05	-.06	-.05	.00	-.04
(平均値)	I 2授業説明_理解度	-.01	-.19	.15	-.05	.32	-.07	.04	.34	-.21	-.06	-.04	-.01	-.05	.00	-.46
	I 3授業説明_取組み度	-.05	-.20	.19	-.04	.33	-.08	-.02	.32	-.22	-.04	-.02	.04	-.04	-.01	-.49
	I 4シラバス_忠実度	-.07	-.15	.17	-.02	.27	-.07	-.02	.33	-.17	-.07	-.02	.00	-.02	-.01	-.39
	● I 5シラバス_目標達成度	-.12	-.16	.25	-.06	.32	-.07	-.09	.35	-.19	-.03	.03	.05	-.06	-.02	-.46
	I 6事前事後課題の指示	-.01	-.21	.14	-.01	.28	-.09	.02	.30	-.23	-.04	-.03	-.01	-.01	-.04	-.48
	I 7双方向性工夫の有無	-.05	-.17	.17	-.04	.34	-.10	.00	.33	-.19	-.06	.00	-.02	-.03	-.04	-.51
	● I 8予習復習時間	.07	-.10	-.01	-.01	.26	-.09	.09	.04	-.12	.01	-.03	-.03	-.01	.02	-.27
	II 1双方向型授業評価	-.02	-.15	.14	-.05	.37	-.06	.03	.29	-.18	-.05	-.03	.00	-.05	-.05	-.58
	II 2教材役立ち度	-.01	-.16	.12	-.03	.30	-.01	.05	.31	-.18	-.08	-.04	-.03	-.03	-.01	-.43
	II 3話し方等分かりやすさ	-.01	-.18	.14	-.04	.31	-.08	.04	.30	-.20	-.05	-.03	-.02	-.04	-.04	-.50
	● III 1知的刺激	-.03	-.14	.13	-.03	.37	-.03	.03	.31	-.16	-.07	-.06	.00	-.03	.01	-.51
	III 2難易度	.08	.05	-.08	-.06	-.09	-.07	.07	-.12	.05	.03	.05	-.09	-.06	-.03	.15
	● III 3授業満足度	-.01	-.14	.11	-.03	.34	-.05	.05	.28	-.17	-.07	-.05	-.02	-.03	-.03	-.51
	IV 1受講態度への対応	.02	-.15	.13	-.10	.34	-.05	.08	.33	-.16	-.07	-.05	-.04	-.10	.00	-.51
	IV 2機器・備品等充実度	.02	-.14	.14	-.12	.30	-.03	.07	.33	-.15	-.06	-.04	-.02	-.12	-.02	-.47
	IV 3履修人数適切さ	.03	-.13	.09	-.07	.24	.02	.10	.24	-.15	-.09	-.06	-.01	-.07	-.02	-.45
成績	GP	.12	-.03	-.10	.00	.11	.21	.15	-.13	-.03	-.03	-.15	.14	.00	.01	-.24
	学部別標準化GP	.11	-.04	-.05	-.06	.15	.12	.10	-.07	-.03	.04	.00	-.02	-.06	.00	-.30

表 1 授業単位データ等の相関係数行列 3/4

■ =1 高相関 : 0.7以上 : -0.7以下 : 0.4~0.7未満 : -0.4~-0.7 低相関 -0.12~0.12未満		I 1授業説明_有無	I 2授業説明_理解度	I 3授業説明_取組み度	I 4シラバス忠実度	I 5シラバス目標達成度	I 6事前事後課題の指示	I 7双方向性工夫の有無	I 8予習復習時間	II 1双方向型授業評価	II 2教材役立ち度	II 3話し方等分かりやすさ
学期(0-1)	前学期	-0.03	-0.08	-0.08	-0.06	-0.10	-0.06	-0.09	-0.12	-0.06	-0.06	-0.08
曜日	月	-0.03	-0.05	-0.05	-0.05	-0.07	-0.05	-0.06	-0.02	-0.08	-0.05	-0.05
(0-1)	火	.04	.02	.03	.00	-.01	.03	.02	.04	.05	.04	.03
	水	-.04	-.03	-.06	-.03	-.03	-.04	-.04	-.06	-.05	-.02	-.03
	木	.00	.02	.03	.05	.07	.00	.02	.00	.01	.01	.02
	金	.00	.02	.01	.01	-.01	.03	.02	.03	.04	.00	.02
	土	.08	.09	.15	.09	.13	.12	.13	.09	.09	.09	.06
時限	1限	-.02	-.05	-.04	-.03	-.05	-.03	-.04	-.04	-.07	-.02	-.05
(0-1)	2限	-.04	-.04	-.05	-.04	-.06	-.03	-.04	-.03	-.05	-.03	-.06
	3限	-.06	-.06	-.05	-.05	-.05	-.04	-.06	-.04	-.05	-.06	-.07
	4限	.00	-.01	.01	.03	.03	.01	.01	-.02	.02	.01	.01
	5限	-.01	.02	.00	-.02	-.01	-.03	-.02	-.01	.00	-.01	.01
	6限	.12	.14	.13	.09	.10	.14	.14	.21	.17	.10	.14
	7限	.14	.15	.14	.09	.13	.12	.16	.23	.16	.10	.14
	集中講義	.04	.03	.03	.04	.04	.02	.04	-.05	.00	.02	.03
キャンパス	千葉	.03	-.01	-.05	-.07	-.12	-.01	-.05	.07	-.02	-.01	-.01
(0-1)	千葉第2	-.20	-.19	-.20	-.15	-.16	-.21	-.17	-.10	-.15	-.16	-.18
	埼玉	.09	.15	.19	.17	.25	.14	.17	-.01	.14	.12	.14
	東京	.00	-.05	-.04	-.02	-.06	-.01	-.04	-.01	-.05	-.03	-.04
学年	学年平均	.29	.32	.33	.27	.32	.28	.34	.26	.37	.30	.31
性別	女子比	-.09	-.07	-.08	-.07	-.07	-.09	-.10	-.09	-.06	-.01	-.08
学部	1 総合福祉 率	.07	.04	-.02	-.02	-.09	.02	.00	.09	.03	.05	.04
(割合)	2 国際コミュ 率	.30	.34	.32	.33	.35	.30	.33	.04	.29	.31	.30
	3 看護栄養 率	-.22	-.21	-.22	-.17	-.19	-.23	-.19	-.12	-.18	-.18	-.20
	4 コミュ政策 率	-.05	-.06	-.04	-.07	-.03	-.04	-.06	.01	-.05	-.08	-.05
	5 経営 率	-.06	-.04	-.02	-.02	.03	-.03	.00	-.03	-.03	-.04	-.03
	6 教育 率	-.05	-.01	.04	.00	.05	-.01	-.02	-.03	.00	-.03	-.02
	7 人文 率	.00	-.05	-.04	-.02	-.06	-.01	-.03	-.01	-.05	-.03	-.04
	8 その他 率	-.04	.00	-.01	-.01	-.02	-.04	-.04	.02	-.05	-.01	-.04
履修人数	履修人数(5水準)	-.45	-.46	-.49	-.39	-.46	-.48	-.51	-.27	-.58	-.43	-.50
アンケート	I 1授業説明_有無	1.00	.83	.73	.80	.73	.82	.82	.33	.73	.80	.81
(平均値)	I 2授業説明_理解度	.83	1.00	.78	.73	.75	.77	.78	.29	.71	.74	.78
	I 3授業説明_取組み度	.73	.78	1.00	.71	.79	.74	.75	.35	.72	.70	.71
	I 4シラバス忠実度	.80	.73	.71	1.00	.81	.79	.78	.27	.69	.76	.74
●	I 5シラバス目標達成度	.73	.75	.79	.81	1.00	.77	.79	.25	.74	.74	.76
	I 6事前事後課題の指示	.82	.77	.74	.79	.77	1.00	.87	.39	.79	.79	.80
	I 7双方向性工夫の有無	.82	.78	.75	.78	.79	.87	1.00	.38	.83	.82	.84
●	I 8予習復習時間	.33	.29	.35	.27	.25	.39	.38	1.00	.39	.28	.31
	II 1双方向型授業評価	.73	.71	.72	.69	.74	.79	.83	.39	1.00	.80	.82
	II 2教材役立ち度	.80	.74	.70	.76	.74	.79	.82	.28	.80	1.00	.86
	II 3話し方等分かりやすさ	.81	.78	.71	.74	.76	.80	.84	.31	.82	.86	1.00
●	III 1知的刺激	.78	.77	.73	.73	.76	.77	.81	.33	.80	.81	.88
	III 2難易度	-.11	-.18	-.13	-.15	-.25	-.10	-.12	.29	-.16	-.18	-.23
●	III 3授業満足度	.79	.76	.73	.73	.75	.79	.83	.34	.81	.83	.89
	IV 1受講態度への対応	.80	.76	.72	.73	.72	.80	.82	.36	.77	.79	.81
	IV 2機器・備品等充実度	.79	.75	.71	.75	.73	.78	.80	.30	.74	.82	.81
	IV 3履修人数適切さ	.72	.66	.66	.69	.67	.70	.72	.28	.70	.74	.74
成績	GP	.23	.22	.24	.18	.20	.22	.23	.14	.31	.23	.27
(平均値)	学部別標準化GP	.25	.25	.27	.21	.24	.26	.27	.15	.34	.26	.30

表 1 授業単位データ等の相関係数行列 4/4

■ =1 高相関 : 0.7以上 : -0.7以下 : 0.4~0.7未満 : -0.4~-0.7 低相関 -0.12~0.12未満		Ⅲ1知的刺激	Ⅲ2難易度	Ⅲ3授業満足度	Ⅳ1受講態度への対応	Ⅳ2機器・備品等充実度	Ⅳ3履修人数適切さ	GP	学部別標準化GP
学期(0-1)	前学期	-0.07	.01	-.08	-.06	-.06	-.05	-.11	-.11
曜日	月	-.06	.04	-.05	-.04	-.07	-.07	-.06	-.06
(0-1)	火	.04	.04	.04	.05	.05	.05	.03	.02
	水	-.03	-.01	-.04	-.04	-.03	-.01	.03	.03
	木	.02	-.04	.02	.01	.02	-.03	-.03	-.02
	金	.00	-.01	.01	.00	.01	.02	.04	.03
	土	.10	-.07	.06	.11	.10	.10	-.06	-.05
時限	1限	-.04	-.02	-.06	-.03	-.02	-.02	-.08	-.08
(0-1)	2限	-.05	.00	-.05	-.04	-.07	-.04	-.05	-.05
	3限	-.06	.00	-.05	-.07	-.07	-.08	.00	.01
	4限	.01	.01	.01	-.02	-.01	.00	.01	-.01
	5限	.02	.01	.01	-.02	.00	.00	.00	-.02
	6限	.13	.01	.15	.15	.13	.10	.12	.13
	7限	.15	.00	.16	.16	.15	.15	.20	.21
	集中講義	.04	.01	.03	.01	.02	.02	-.04	-.04
キャンパス	千葉	-.03	.08	-.01	.02	.02	.03	.12	.11
(0-1)	千葉第2	-.14	.05	-.14	-.15	-.14	-.13	-.03	-.04
	埼玉	.13	-.08	.11	.13	.14	.09	-.10	-.05
	東京	-.03	-.06	-.03	-.10	-.12	-.07	.00	-.06
学年	学年平均	.37	-.09	.34	.34	.30	.24	.11	.15
性別	女子比	-.03	-.07	-.05	-.05	-.03	.02	.21	.12
学部	1 総合福祉 率	.03	.07	.05	.08	.07	.10	.15	.10
(割合)	2 国際コミュ 率	.31	-.12	.28	.33	.33	.24	-.13	-.07
	3 看護栄養 率	-.16	.05	-.17	-.16	-.15	-.15	-.03	-.03
	4 コミュ政策 率	-.07	.03	-.07	-.07	-.06	-.09	-.03	.04
	5 経営 率	-.06	.05	-.05	-.05	-.04	-.06	-.15	.00
	6 教育 率	.00	-.09	-.02	-.04	-.02	-.01	.14	-.02
	7 人文 率	-.03	-.06	-.03	-.10	-.12	-.07	.00	-.06
	8 その他 率	.01	-.03	-.03	.00	-.02	-.02	.01	.00
履修人数	履修人数(5水準)	-.51	.15	-.51	-.51	-.47	-.45	-.24	-.30
アンケート	I 1授業説明 有無	.78	-.11	.79	.80	.79	.72	.23	.25
(平均値)	I 2授業説明 理解度	.77	-.18	.76	.76	.75	.66	.22	.25
	I 3授業説明 取組み度	.73	-.13	.73	.72	.71	.66	.24	.27
	I 4シラバス 忠実度	.73	-.15	.73	.73	.75	.69	.18	.21
●	I 5シラバス 目標達成度	.76	-.25	.75	.72	.73	.67	.20	.24
	I 6事前事後課題の指示	.77	-.10	.79	.80	.78	.70	.22	.26
	I 7双方向性工夫の有無	.81	-.12	.83	.82	.80	.72	.23	.27
●	I 8予習復習時間	.33	.29	.34	.36	.30	.28	.14	.15
	II 1双方向型授業評価	.80	-.16	.81	.77	.74	.70	.31	.34
	II 2教材役立ち度	.81	-.18	.83	.79	.82	.74	.23	.26
	II 3話し方等分かりやすさ	.88	-.23	.89	.81	.81	.74	.27	.30
●	Ⅲ1知的刺激	1.00	-.20	.91	.79	.79	.72	.28	.30
	Ⅲ2難易度	-.20	1.00	-.17	-.08	-.13	-.13	-.21	-.20
●	Ⅲ3授業満足度	.91	-.17	1.00	.82	.81	.74	.30	.33
	IV1受講態度への対応	.79	-.08	.82	1.00	.87	.79	.25	.29
	IV2機器・備品等充実度	.79	-.13	.81	.87	1.00	.82	.25	.28
	IV3履修人数適切さ	.72	-.13	.74	.79	.82	1.00	.24	.26
成績	GP	.28	-.21	.30	.25	.25	.24	1.00	.97
(平均値)	学部別標準化GP	.30	-.20	.33	.29	.28	.26	.97	1.00

② 授業単位データ間の関連

授業単位データ間の相関係数行列は表 1-3/4・4/4 の下側です。この表からわかる通り、「難易度(QⅢ2)」「予習復習時間(QⅠ8)」を除くすべての項目間に正の高い相関がありました。「授業満足度」との関連については、たとえば以下のようなことがいえます。

- 知的好奇心が刺激される授業は、満足度が高い授業である(図 1 左上)。
- 双方向型の授業は、満足度が高い授業である(図 1 右上)。
- 話し方等が分かりやすい授業は、満足度が高い授業である(図 1 左下)。

なお、「予習復習時間」は、他の調査項目に比べると、どの調査項目とも相関は低いという結果でした(図 1 右下)。

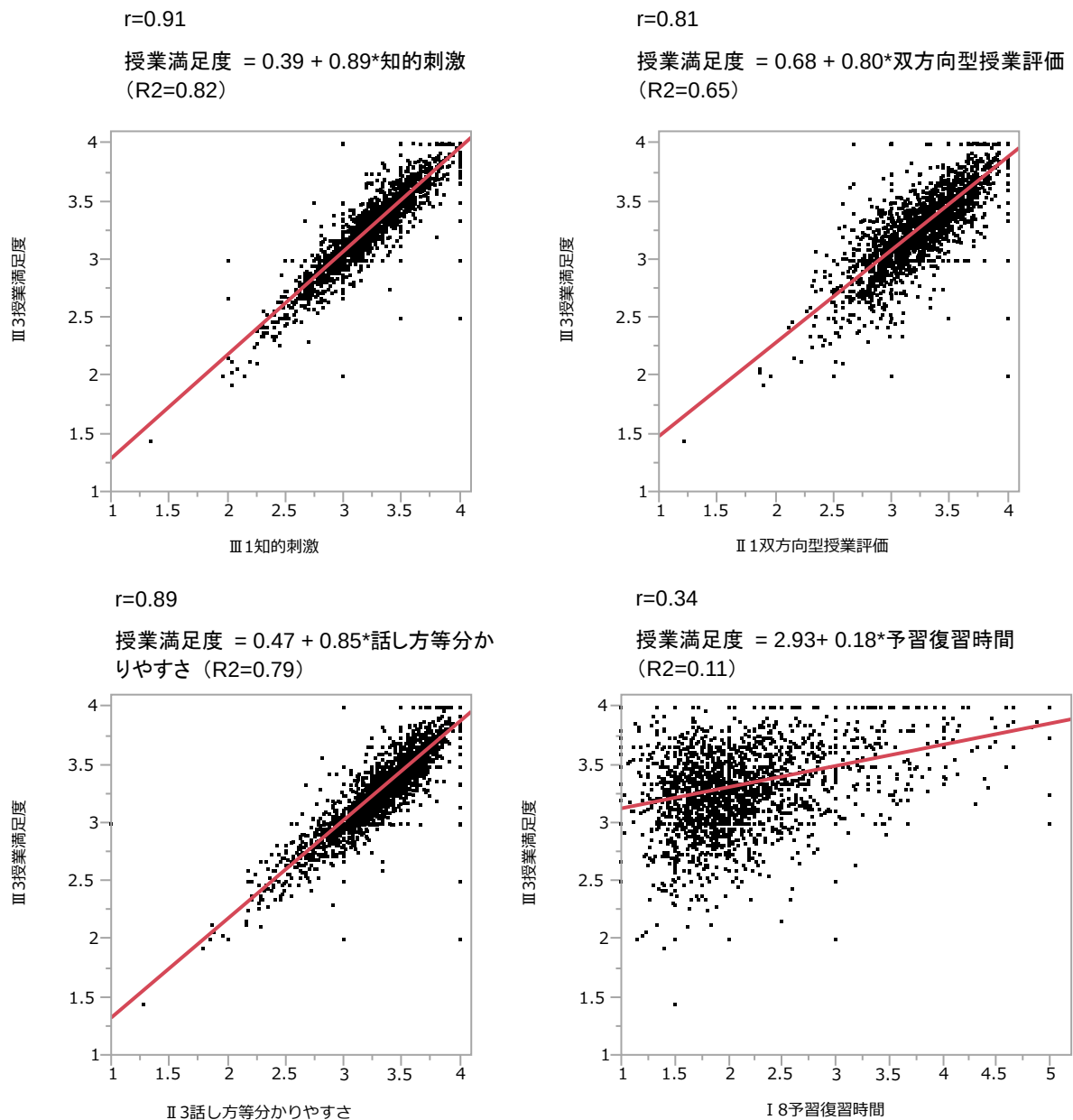


図 1 「授業満足度」と「知的刺激」「双方向型授業評価(QⅡ1)」「話し方等分かりやすさ(QⅡ3)」「予習復習時間(QⅠ8)」との関連

「難易度(QⅢ2)」については、「予習復習時間」を除き、すべて項目との間に負の相関がありました。相関がもっとも高いのは「予習復習時間」の $r=0.29$ 、次いで「シラバス目標達成度(QⅠ5)」($r=-0.25$)、「話し方等分かりやすさ(QⅡ3)」($r=-0.23$)、「知的刺激(QⅢ1)」($r=-0.20$)でした。つまり、以下のような傾向があることが示唆されます。

- 難易度が高い授業の方が、授業のための予習・復習の時間が長い。
- 難易度が高い授業の方が、シラバスに記載された到達目標を達成できない。
- 話し方等が分かりやすくない授業では、難易度が高いと感じられる。
- 難易度が高い授業の方が、満足度等が低い。

③ 授業単位データとその他の項目との関連

【履修人数】

授業単位データとの相関係数がもっとも高かったのは「履修人数」でした。

ほとんど関連がなかった「難易度(QⅢ2)」を除き、すべての相関係数はマイナスとなりました。つまり、「履修人数が少ない授業ほど評価等が高い」といえます。

図2は、授業単位データの平均値を、履修人数「10人未満」「10人～19人」「20人～49人」「50人～99人」「100人以上」に分けて示したものです。「難易度(QⅢ2)」および「履修人数の適切さ(QⅣ3)」を除くすべての項目で、履修人数が少ない方がアンケート調査結果の平均値が高く、履修人数50～99人と100人以上についてはほぼ差がないことが分かります。

【学年】

「学年平均」も、授業単位データとの相関係数が比較的高かった項目です。

相関係数が非常に小さい「難易度(QⅢ2)」を除き、すべての項目間の相関係数はプラスでした。つまり、「高学年の回答者割合が高い授業ほど評価等が高い傾向がある」といえます。

図3に示したのは、「学年」と、「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」「授業説明_理解度(QⅠ2)」「授業説明_取組み度(QⅠ3)」との関連です。いずれも、学年平均値が高いほど平均点が高いという傾向があることが分かります。

なお、「学年」と「履修人数」との間には負の関連があります($r=-0.45$)。学年が高くなるにしたがって、演習等の割合が増え、履修人数が減る傾向があるのです。しかし、図4をみると、履修人数「10人未満」「10人～19人」「20人～49人」まではその通りですが、「50人～99人」は「20人～49人」より学年平均値が高くなっています。このことから、「高学年の回答者が多い授業ほど評価等が高いのは、単に高学年ほど履修人数が少ないからではない」ことが推測されます。

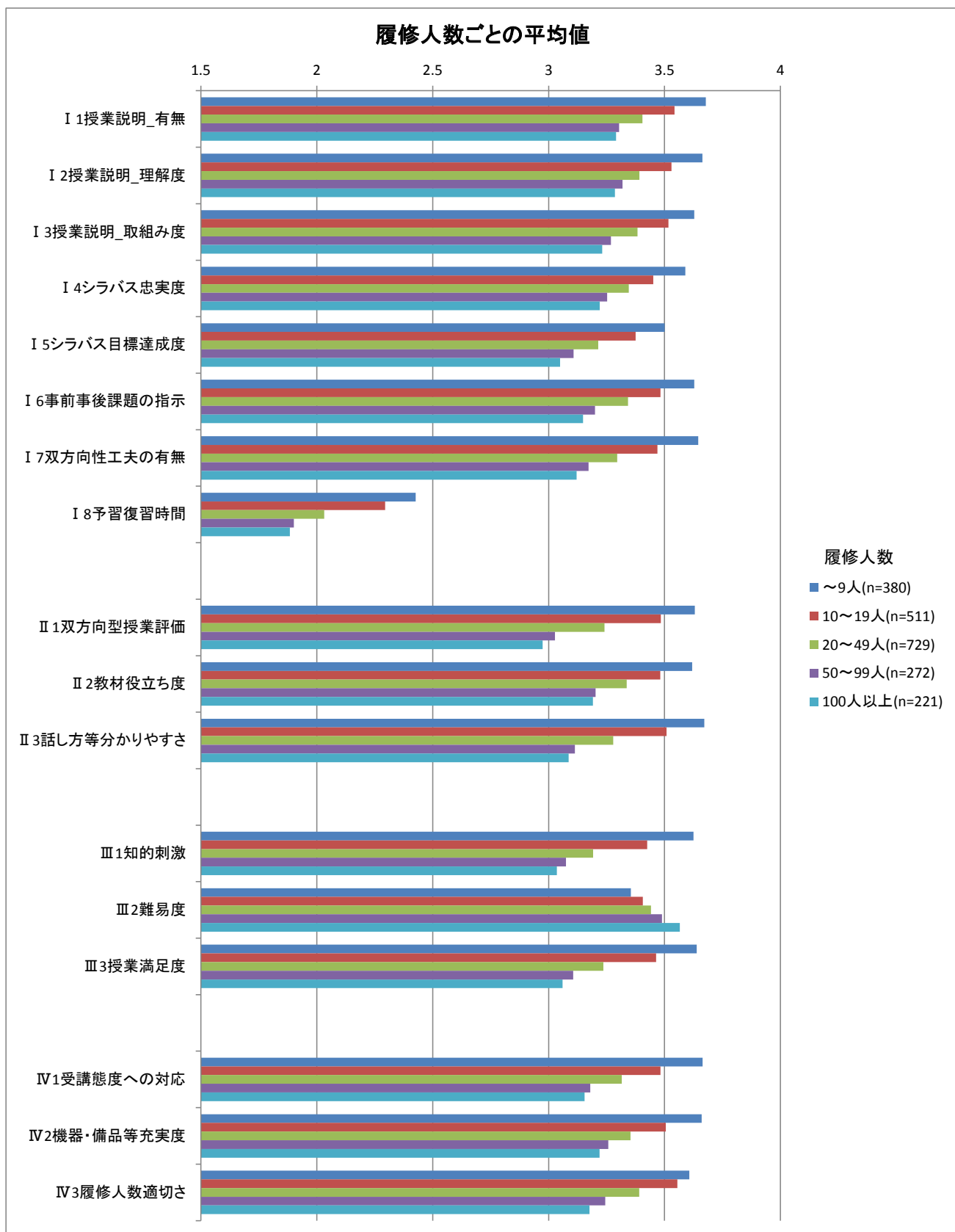


図 2 履修人数によるアンケート調査結果の授業ごとの平均値の違い
(アンケート回答数と履修人数が大きく異なる 15 授業を省く)

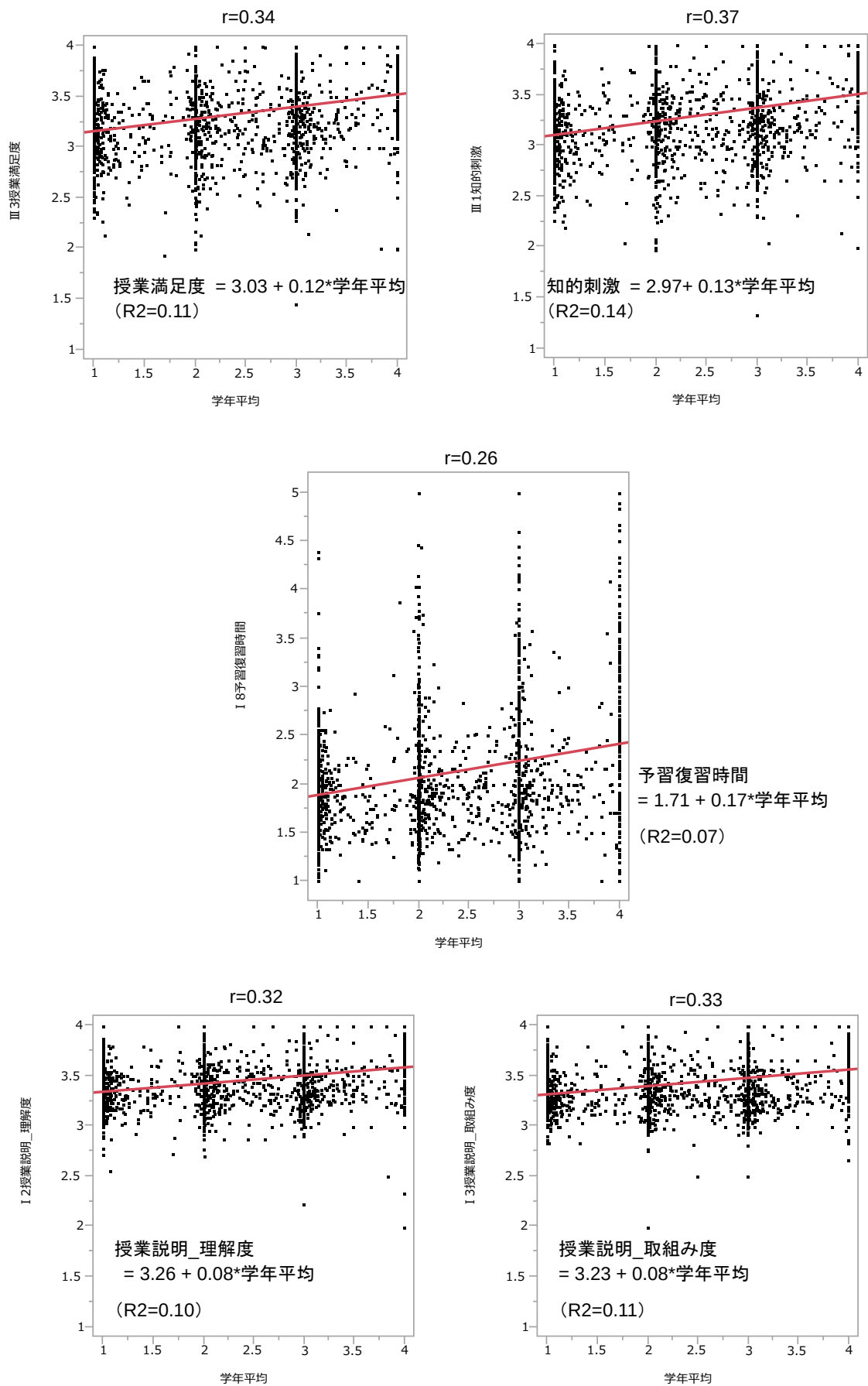
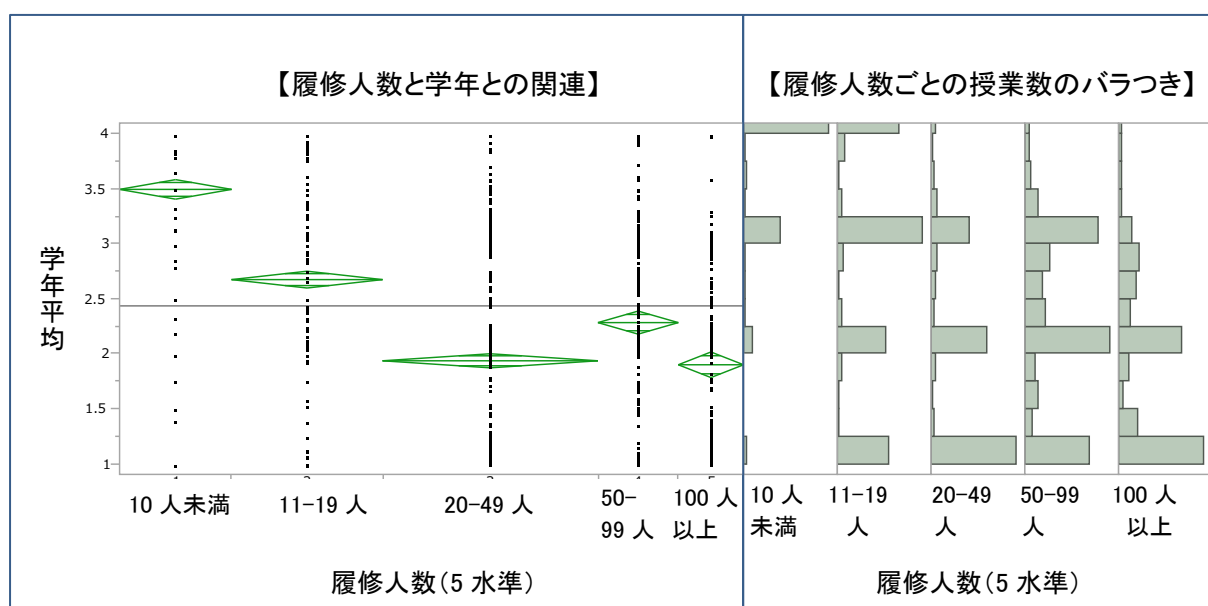


図3 「学年」と、「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」「授業説明_理解度」「授業説明_取組み度」との関連（値は授業ごとの平均値）



※ 左右の図は縦軸を共有。左図: 菱形は各履修人数の平均値(中央の線)と信頼区間を示す。横軸方向の間隔は各履修人数の授業数を反映している(「50-99人」「100人以上」の授業数は少ない)。右図: ヒストグラム(横棒グラフ)。棒の長さが各履修人数の授業数(度数)を示す。

図4 「履修人数(5水準)」と「学年平均(回答した学生の学年の平均値)」との関連

【その他】

この他、表1の相関係数行列からは、以下のような傾向を読み取ることができます。

- 学部 「国際コミュニケーション」の学生が多い授業は評価等が高め、「看護栄養」は低め。
- キャンパス 「埼玉」の授業は評価等が若干高め、「千葉第2」は若干低め。
- 時限 「6限」「7限」の授業は評価等が若干高めで、早い時間の授業は低い(「1限」～「4限」の授業の相関係数はマイナス)。
- 学期 「前期」より「後期」の授業の方が評価等は高め。
- 性別 「女子比」が低い方が評価等が高め。
- 成績 学年が上で、女子比が高い方が高い。難易度が低く、履修人数が少ない方が「成績」が高い。

ただし、たとえばキャンパスであれば、評価が高めの「埼玉」は履修人数が少ない授業が多く、「千葉第2」は履修人数が多い授業が多いなどの関連もあり、疑似相関も疑われます。

(3) 複数項目間の関連（重回帰分析）

① 重回帰分析の方針

「授業満足度」、「知的刺激」、「予習復習時間」、および「シラバス目標達成度」を規定する要因を探るため、これら各々を目的変数、その他の調査項目および履修人数等を説明変数とした重回帰分析を行います。

重回帰分析の精度はどのような説明変数を用いるかによって決まります。重回帰分析では、説明変数として互いに相関が高い変数が入り込められていると偏回帰係数が統計的に不安定になるため（多重共線性の問題）、説明変数としては互いに相関が低いものを取り入れるべきであるといわれます。しかし、今回用いる調査項目データは互いに相関が高いものが多いのが特徴です。そこで、ここでは以下の方針で重回帰分析を行うこととしました。

【重回帰分析に取り入れる説明変数】

まず、すべての調査項目を説明変数として取り入れるのではなく、調査項目各々の意味を考えて最初から変数を絞ります。

今回の調査項目は、「その授業がどうであったかという事実を評価する項目（例：授業はシラバスに沿って行われたか）」と「その授業において自分がどうであったかを評価する項目（例：あなたはシラバスにある到達目標を達成できたか）」に大別することができ、前者のボリュームが大きくなっています。そこで、説明変数として重回帰分析に取り入れるのは、より原因側の変数である前者に絞ることとします。さらに、意味的に重複する項目については一つに絞ります。

これらに、目的変数と相関が高かった「履修人数」「学年」「キャンパス」を加えて説明変数とします。ここで「学部」を加えないのは、「キャンパス」と相関が非常に高いペアがあるためです。なお、「履修人数」は単純な人数の差ではなく、講義、演習・実習等による授業の質的な違いであるとも考えられるので、量的変数ではなく順序尺度として扱います。

以上をふまえると、分析に取り入れる説明変数は次のようになります。

- キャンパス（「千葉」「千葉第2」「埼玉」「東京」の4変数）
- 学年
- 履修人数（5水準の順序尺度として）
- I1 授業説明の有無
- I4 シラバス忠実度
- I6 事前事後課題の指示
- II1 双方向型授業評価
- II2 教材役立ち度
- II3 話し方等分かりやすさ
- III2 難易度
- IV1 受講態度への対応
- IV2 機器・備品等充実度

【重回帰分析の方法】

重回帰分析では、一定の基準に基づいて説明変数を取捨選択することができる「ステップワイズ法」を用います。その際、説明変数ごとの VIF (Variance Inflation Factor、分散拡大要因) の値や R² 乗値 (決定係数。モデルのあてはまりの良さ、つまり分析の精度を表す指標) 等を参考にします。VIF は、他の説明変数との関連の強さを表す指標であり、この値が大きいと多重共線性が疑われます。

【どのようなモデルを検討するか】

まず、全授業データ (n=2,116) を用いて重回帰分析を行い、モデルを得ます。

次に、各目的変数に大きく影響する以下の変数ごとにデータを分けて同じ重回帰分析を行い、それぞれのモデルを検討します。

- 履修人数

- ・ 履修人数の違いによって、授業満足度等を規定する要因が異なるのか、どのように異なるか等を検討します。
- ・ たとえば「10 人未満」の場合は何が授業満足度を規定するか、「10 人～19 人」の場合はどうか等を検討します。
(この分析では、履修人数を説明変数から省きます。)

- 難易度

- ・ 昨年度までの分析では、授業満足度等は内容がやさしい方が、予習・復讐時間の長さは難しい方が高まるという結果でした。ここでは、同じ難易度の授業ではどのような要因が満足度等を規定するのか、難易度によって要因は異なるのか等を検討します。

- 学部

- ・ 回答者が特定の学部学生である授業のみを抽出し、学部ごとのデータに分けて同じ分析を行うことで、各学部の特徴をみます。

なお、「予習復習時間」については他の調査項目との相関が低いこと等から、精度が高いモデルを得ることは困難です。そこで、「予習復習時間」を目的変数とした重回帰分析は全データのみで行うこととします。

② 全授業データを用いた重回帰モデルの検討

①の方針にしたがって全データを用いて重回帰分析を行いました。

表 2～5 は、全説明変数候補を投入した一次的な結果です。表 6～9 は、VIF や R² 乗値、推定値、解釈可能性などをみながら、説明変数の取捨選択を繰り返して得られた結果であり、採用した重回帰モデルです。

表 2 全説明変数を投入した重回帰モデル（目的変数＝授業満足度）

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-0.1047	0.046	-2.27	0.0231	
千葉第2	0.0443	0.013	3.49	0.0005	1.1023
東京	0.0421	0.011	3.67	0.0003	1.0749
学年平均	0.0089	0.004	2.41	0.016	1.3527
履修人数{1&2-3&4&5}	0.0144	0.004	3.28	0.001	1.6721
I 6事前事後課題の指示	0.0596	0.021	2.85	0.0044	3.9822
II 1双方向型授業評価	0.0974	0.018	5.39	<.0001	4.1998
II 2教材役立ち度	0.1334	0.023	5.83	<.0001	4.9879
II 3話し方等分かりやすさ	0.4406	0.020	22.08	<.0001	5.4821
IV 1受講態度への対応	0.1686	0.024	7.05	<.0001	5.3153
IV 2機器・備品等充実度	0.1100	0.026	4.3	<.0001	5.2520
R2乗				0.8337	
自由度調整R2乗				0.8329	

表 3 全説明変数を投入した重回帰モデル（目的変数＝知的刺激）

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-0.0454	0.065	-0.7	0.483	
千葉	-0.0453	0.010	-4.44	<.0001	2.0131
埼玉	-0.0387	0.011	-3.6	0.0003	2.09
学年平均	0.0187	0.004	4.54	<.0001	1.478
履修人数{1&2-3&4&5}	0.0122	0.005	2.43	0.015	1.9248
履修人数{1-2}	0.0119	0.006	2	0.0459	1.1476
履修人数{3-4&5}	-0.0149	0.005	-2.94	0.0033	1.1331
I 1授業説明の有無	0.0817	0.027	3.01	0.0026	4.7195
I 4シラバス忠実度	0.0440	0.022	1.98	0.0477	3.3920
II 1双方向型授業評価	0.1415	0.019	7.37	<.0001	4.1579
II 2教材役立ち度	0.1016	0.025	4.08	<.0001	5.1986
II 3話し方等分かりやすさ	0.4459	0.022	20.17	<.0001	5.9092
III 2難易度	-0.0215	0.010	-2.18	0.0292	1.1213
IV 1受講態度への対応	0.1041	0.026	4.03	<.0001	5.4683
IV 2機器・備品等充実度	0.0905	0.028	3.28	0.001	5.3394
R2乗				0.8177	
自由度調整R2乗				0.8165	

表 4 全説明変数を投入した重回帰モデル（目的変数＝予習復習時間）

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-2.8680	0.203	-14.14	<.0001	
埼玉	-0.0965	0.027	-3.63	0.0003	1.0575
学年平均	0.0924	0.014	6.78	<.0001	1.3357
履修人数{1&2-3&4&5}	0.0371	0.016	2.31	0.021	1.6263
I 6事前事後課題の指示	0.5998	0.070	8.56	<.0001	3.2714
II 1双方向型授業評価	0.5220	0.064	8.21	<.0001	3.7874
II 2教材役立ち度	-0.3323	0.071	-4.71	<.0001	3.4596
III 2難易度	0.6349	0.033	19.18	<.0001	1.0483
R2乗				0.3290	
自由度調整R2乗				0.3267	

表 5 全説明変数を投入した重回帰モデル（目的変数＝シラバス目標達成度）

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	0.5602	0.055	10.2	<.0001	
埼玉	0.0688	0.007	9.75	<.0001	1.0352
学年平均	0.0103	0.003	3	0.0028	1.1705
I 4シラバス忠実度	0.4527	0.020	22.79	<.0001	3.1249
I 6事前事後課題の指示	0.1323	0.022	6.12	<.0001	4.3120
II 1双方向型授業評価	0.1512	0.017	8.86	<.0001	3.7895
II 3話し方等分かりやすさ	0.0679	0.019	3.6	0.0003	4.9569
III 2難易度	-0.0805	0.009	-8.9	<.0001	1.0876
IV 2機器・備品等充実度	0.0665	0.021	3.15	0.0017	3.6203
R2乗					0.7629
自由度調整R2乗					0.7620

表 6 採用した重回帰モデル（目的変数＝授業満足度）

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	0.0177	0.044	0.4	0.6861	
千葉第2	0.0450	0.013	3.5	0.0005	1.1011
東京	0.0373	0.012	3.23	0.0013	1.0567
学年平均	0.0093	0.004	2.49	0.013	1.3501
履修人数{1&2-3&4&5}	0.0112	0.004	2.53	0.0116	1.6414
I 6事前事後課題の指示	0.0942	0.021	4.52	<.0001	3.8297
II 1双方向型授業評価	0.1207	0.018	6.73	<.0001	3.9972
II 3話し方等分かりやすさ	0.5136	0.018	28.26	<.0001	4.4007
IV 1受講態度への対応	0.2468	0.021	12	<.0001	3.8085
R2乗					0.8280
自由度調整R2乗					0.8274

表 7 採用した重回帰モデル（目的変数＝知的刺激）

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-0.0384	0.045	-0.86	0.3888	
千葉	-0.0404	0.010	-3.94	<.0001	1.9655
埼玉	-0.0350	0.011	-3.29	0.001	1.983
学年平均	0.0256	0.004	6.78	<.0001	1.1973
I 4シラバス忠実度	0.1093	0.020	5.54	<.0001	2.5852
II 1双方向型授業評価	0.1584	0.018	8.74	<.0001	3.5819
II 3話し方等分かりやすさ	0.5315	0.019	27.41	<.0001	4.3961
IV 1受講態度への対応	0.1826	0.021	8.58	<.0001	3.5870
R2乗					0.8108
自由度調整R2乗					0.8102

表 8 採用した重回帰モデル（目的変数＝予習復習時間）

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	-2.9030	0.203	-14.29	<.0001	
学年平均	0.0937	0.014	6.86	<.0001	1.3347
履修人数[1&2-3&4&5]	0.0273	0.016	1.72	0.0852	1.5811
I 6事前事後課題の指示	0.5855	0.070	8.34	<.0001	3.2611
II 1双方向型授業評価	0.5258	0.064	8.25	<.0001	3.7864
II 2教材役立ち度	-0.3298	0.071	-4.66	<.0001	3.4593
III 2難易度	0.6415	0.033	19.35	<.0001	1.0452
R2乗					0.3247
自由度調整R2乗					0.3228

表 9 採用した重回帰モデル（目的変数＝シラバス目標達成度）

	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	0.5384	0.056	9.59	<.0001	
学年平均	0.0113	0.003	3.23	0.0013	1.1694
I 4シラバス忠実度	0.4693	0.020	23.2	<.0001	3.1018
I 6事前事後課題の指示	0.1334	0.022	6.04	<.0001	4.3119
II 1双方向型授業評価	0.1542	0.017	8.84	<.0001	3.7884
II 3話し方等分かりやすさ	0.0651	0.019	3.38	0.0007	4.9557
III 2難易度	-0.0851	0.009	-9.21	<.0001	1.0847
IV 2機器・備品等充実度	0.0663	0.022	3.07	0.0022	3.6203
R2乗					0.7521
自由度調整R2乗					0.7513

表 6～9 の重回帰モデルを、図 5 に図示します。

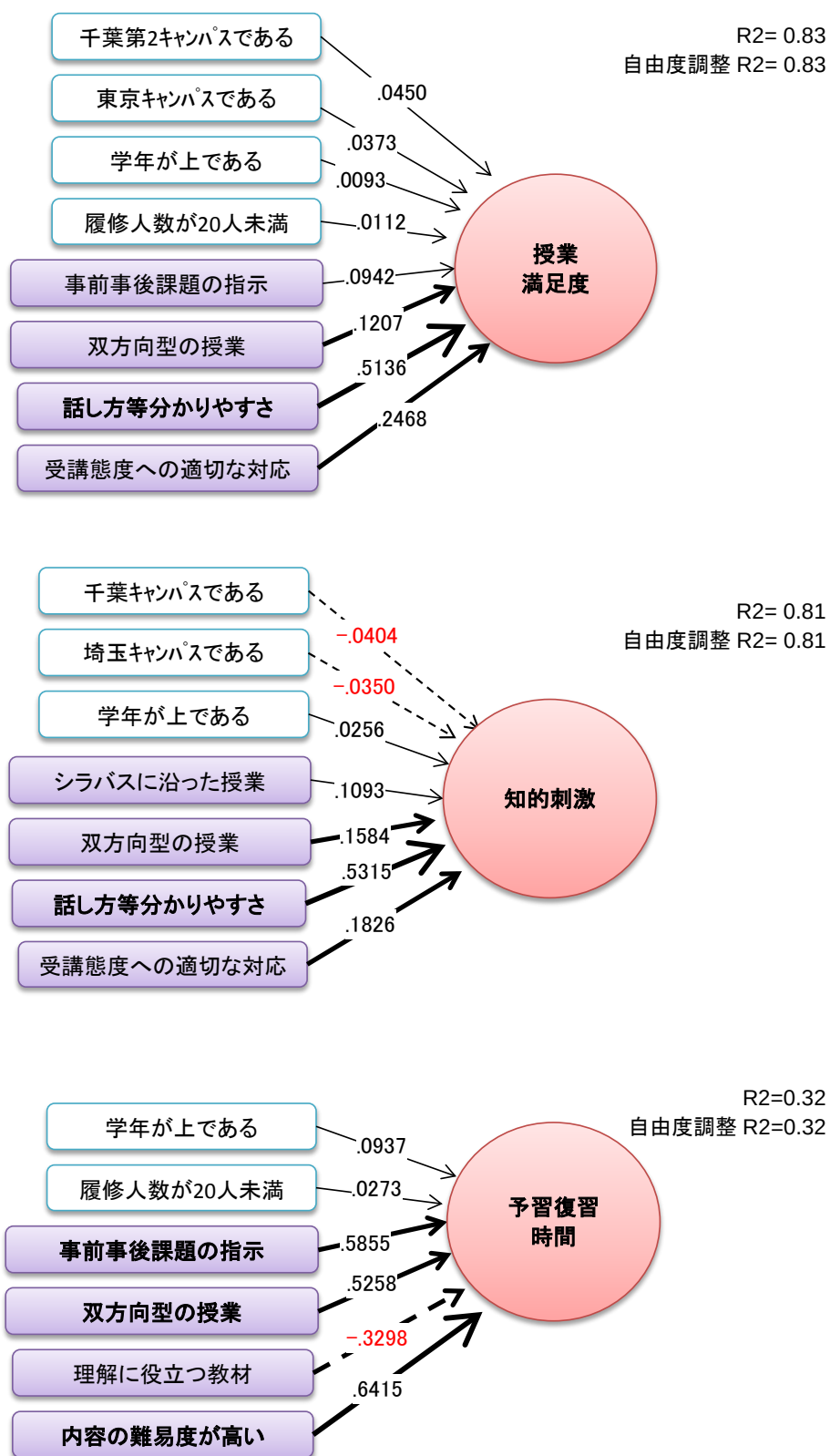
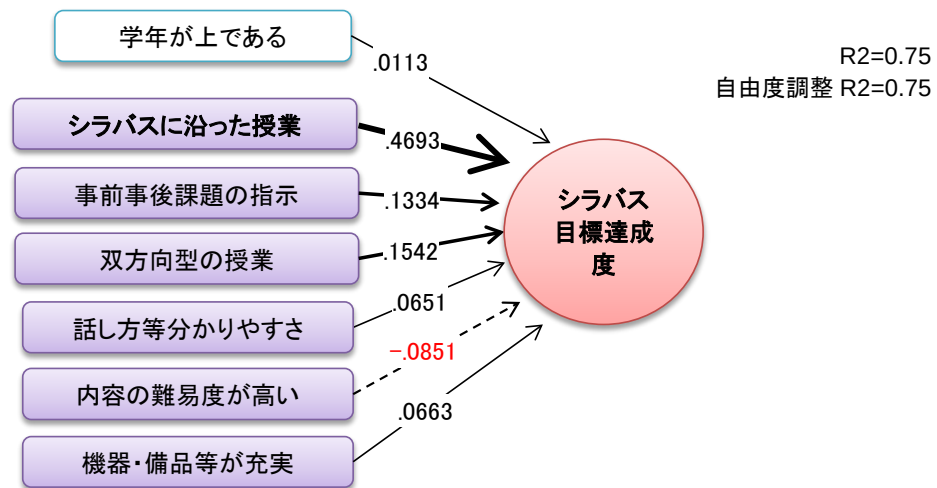


図 5 全授業データを用いた重回帰モデル



(数字は推定値, 線の太さは関連の強さ、破線はマイナスの関連を示す。)

説明変数間の相関、および有意水準の記載は省略した。有意水準はほとんどが「 $<.0001$ 」である。)

図 5 全授業データを用いた重回帰モデル (続き)

この結果は、次のように解釈できます。

- 「授業満足度」は、以下の条件において高まる。
 - ・ 千葉第 2 キャンパスおよび東京キャンパスで実施されている
 - ・ 履修人数が 20 人未満である
 - ・ 履修者に高学年が多い
 - ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている
 - ・ 事前事後の学習の具体的な指示がある

→「授業満足度」にもっとも大きく影響するのは「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」、次いで「受講態度への適切な対応」である。
- 「知的刺激(授業を通じて知的好奇心が刺激される度合い)」は、以下の条件において高まる。
 - ・ 千葉キャンパスおよび埼玉キャンパス以外で実施されている
 - ・ 履修者に高学年が多い
 - ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい
 - ・ 受講態度に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれている
 - ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている
 - ・ シラバスに沿って行われている

→「知的刺激」にもっとも大きく影響するのは「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」、次いで「受講態度への適切な対応」「双方向型の授業」である。

- 「予習・復習時間」は、以下の条件において長くなる。

- ・ 履修者に高学年が多い
- ・ 履修人数が 20 人未満である
- ・ 内容が難しい
- ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある
- ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている
- ・ 教材が授業の理解に役立たない

→「予習・復習時間」にもっとも大きく影響するのは「内容の難易度」および「事前事後課題の指示」「双方向型の授業」である。

- 「シラバス目標達成度(シラバスに記載された到達目標が達成できたか否か)」は、以下の条件において高まる。

- ・ 履修者に高学年が多い
- ・ シラバスに沿って行われている
- ・ 双方向型の授業が効果的に行なわれている
- ・ 事前事後の学習等の具体的な指示がある
- ・ 話し方や説明の仕方が分かりやすい
- ・ 機器・備品等が充実している
- ・ 内容が難しくない

→「シラバス目標達成度」にもっとも大きく影響するのは「シラバスに沿った授業であること」、次いで「双方向型の授業」「事前事後課題の指示」である。

- 「授業満足度」と「知的刺激」には「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」や「受講態度への適切な対応」、「予習復習時間」には「難易度」「事前事後課題の指示」が大きく影響する。この結果は、昨年度の分析結果と同様であり、安定した結果だといえる。
- 「シラバス目標達成度」には、当然のことながら「シラバスに沿った授業であるか否か」が非常に大きく影響する。この他「双方向型の授業」「事前事後課題の指示」等も影響している。
- すべての目的変数に影響するのは、「双方向型の授業」「学年(高学年が多いと効果的)」である。

③ 履修人数ごとのモデルの検討

履修人数ごとのデータに分けて、②と同様の重回帰分析を行った結果を表 10～12 に示します。

表 10～12 では、標準誤差、t 値、VIF は省略しましたが、いずれも適切な値です(VIF は平均 2 程度。最大で 5.3)。

表 10 「授業満足度」を目的変数とした履修人数別重回帰モデル

項	「10人未満」 n=380		「10人～19人」 n=511		「20人～49人」 n=729		「50人～99人」 n=272		「100人以上」 n=221	
	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.170	0.3248	-0.239	0.0098	-0.028	0.7501	0.037	0.6698	0.111	0.1768
千葉							-0.030	0.0032		
千葉第2					0.052	0.0019			0.081	<.0001
東京			0.085	0.0004						
学年平均					0.011	0.0264				
I 1授業説明_有無					0.135	0.0002				
I 6事前事後課題の指示							0.112	0.0006		
II 1双方向型授業評価	0.139	0.0177	0.120	0.0021	0.108	<.0001	0.065	0.0327		
II 2教材役立ち度	0.187	0.0005	0.135	0.002						
II 3話し方等分かりやすさ	0.340	<.0001	0.448	<.0001	0.493	<.0001	0.559	<.0001	0.715	<.0001
III 2難易度	0.060	0.0139			-0.043	0.0056				
IV 1受講態度への対応	0.228	<.0001	0.238	<.0001	0.290	<.0001			0.228	<.0001
IV 2機器・備品等充実度			0.116	0.0082			0.242	<.0001		
R2乗	0.560		0.781		0.863		0.927		0.913	
自由度調整R2乗	0.554		0.778		0.862		0.926		0.912	

表 11 「知的刺激」を目的変数とした履修人数別重回帰モデル

項	「10人未満」 n=380		「10人～19人」 n=511		「20人～49人」 n=729		「50人～99人」 n=272		「100人以上」 n=221	
	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.043	0.782	-0.189	0.0725	-0.192	0.0207	0.080	0.447	0.579	<.0001
千葉					-0.037	0.0005	-0.051	0.0002		
千葉第2									0.074	<.0001
東京			0.102	0.0001					-0.117	0.016
学年平均					0.033	<.0001	0.019	0.0196		
I 4シラバス忠実度	0.144	0.0024	0.156	0.0025	0.096	0.0212	0.231	<.0001		
II 1双方向型授業評価	0.190	0.0008	0.137	0.0008	0.142	<.0001	0.138	0.0001		
II 2教材役立ち度	0.119	0.0358								
II 3話し方等分かりやすさ	0.378	<.0001	0.453	<.0001	0.493	<.0001	0.576	<.0001	0.809	<.0001
III 2難易度									-0.016	0.563
IV 1受講態度への対応			0.283	<.0001	0.281	<.0001				
IV 2機器・備品等充実度	0.175	0.0053								
R2乗	0.609		0.735		0.816		0.890		0.878	
自由度調整R2乗	0.604		0.732		0.814		0.888		0.875	

表 12 「シラバス目標達成度」を目的変数とした履修人数別重回帰モデル

	「10人未満」 n=380		「10人～19人」 n=511		「20人～49人」 n=729		「50人～99人」 n=272		「100人以上」 n=221	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.524	0.0058	0.608	<.0001	0.564	<.0001	0.819	<.0001	1.267	<.0001
千葉			-0.036	0.0062						
埼玉	0.103	0.0003			0.071	<.0001	0.065	<.0001	0.057	<.0001
東京							-0.047	0.0108		
学年平均					0.013	0.0094				
I 4シラバス忠実度	0.504	<.0001	0.502	<.0001	0.423	<.0001	0.347	<.0001	0.246	<.0001
I 6事前事後課題の指示			0.153	0.0004	0.167	<.0001	0.227	<.0001	0.124	0.0042
II 1双方向型授業評価	0.236	<.0001	0.099	0.0101	0.162	<.0001	0.140	<.0001	0.097	0.0005
II 2教材役立ち度			0.125	0.0021						
II 3話し方等分かりやすさ							0.132	<.0001	0.220	<.0001
III 2難易度	-0.059	0.0153	-0.076	<.0001	-0.113	<.0001	-0.118	<.0001	-0.106	<.0001
IV 2機器・備品等充実度	0.124	0.027			0.146	<.0001				
R2乗	0.538		0.699		0.809		0.891		0.842	
自由度調整R2乗	0.531		0.695		0.807		0.888		0.838	

表 10～12 からは、「授業満足度」と「知的刺激」については、履修人数が 100 人以上と多くなると有意となる説明変数が少なくなる傾向がうかがえます。また、履修人数によってどのような変数が効くのかには共通の傾向があることがうかがえます。

この結果は、以下のように解釈することができます。

- 教員の話し方や説明の仕方の分かりやすさ(「話し方等分かりやすさ」)は、履修人数によらず、「授業満足度」および「知的刺激」を高めるもっとも大きな要因である。とくに、履修人数が 100 人以上の授業では、「話し方等分かりやすさ」以外の要因はほとんど影響しない。
- 「シラバス目標達成度」をもっとも高めるのは、履修人数によらず「シラバス忠実度」だが、履修人数が 50 人以上になると「話し方等分かりやすさ」も影響する。
- 「話しやすさ等分かりやすさ」は、履修人数が多い授業で影響が大きいといえる。
- 双方向型の授業が効果的に行なわれていること(「双方向型授業評価」)は、「授業満足度」「知的刺激」「シラバス目標達成度」のいずれに対しても影響する。ただし、履修人数が 100 人以上の授業では、「授業満足度」と「知的刺激」には影響しない。

④ 難易度ごとのモデルの検討

難易度ごとのデータに分けて※¹、同様の重回帰分析を行った結果を表 13～15 に示します。表 13～15 では、標準誤差、t 値、VIF は省略しましたが、いずれも適切な値です (VIF は平均 2 前後。最大で 5.0)。

表 13 授業満足度

	「やさしい」 n=96		「やややさしい」 n=541		「適切」 n=591		「やや難しい」 n=508		「難しい」 n=377	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.392	0.245	0.001	0.9898	-0.122	0.0721	-0.245	0.0016	-0.278	0.0021
千葉第2					0.042	0.0393	0.066	0.0013		
東京					0.072	<.0001			0.079	0.0122
学年平均					0.018	0.001	0.030	<.0001	0.026	0.0017
I 4シラバス忠実度							0.122	0.0013		
I 6事前事後課題の指示							0.185	<.0001		
II 1双方向型授業評価			0.213	<.0001	0.125	<.0001				
II 2教材役立ち度			0.125	0.0024						
II 3話し方等分かりやすさ	0.586	<.0001	0.454	<.0001	0.493	<.0001	0.482	<.0001	0.552	<.0001
IV 1受講態度への対応	0.285	0.0216	0.200	<.0001			0.247	<.0001	0.175	0.0002
IV 2機器・備品等充実度					0.386	<.0001			0.318	<.0001
R2乗	0.481		0.798		0.852		0.855		0.888	
自由度調整R2乗	0.469		0.797		0.850		0.853		0.886	

表 14 知的刺激

	「やさしい」 n=96		「やややさしい」 n=541		「適切」 n=591		「やや難しい」 n=508		「難しい」 n=377	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.052	0.7923	0.129	0.2104	0.071	0.3353	-0.254	0.0065	0.212	0.0039
千葉第2							0.089	0.0002	0.072	0.0177
埼玉	0.119	0.0028								
東京					0.081	<.0001				
学年平均					0.025	0.0002	0.026	0.0003	0.032	0.0017
履修人数[1&2-3&4&5]			0.025	0.006			0.356	<.0001		
履修人数[1-2]			0.026	0.0165						
I 4シラバス忠実度			0.121	0.0033						
II 1双方向型授業評価			0.147	0.0003	0.127	<.0001	0.198	<.0001	0.280	<.0001
II 2教材役立ち度			0.130	0.0068						
II 3話し方等分かりやすさ	0.941	<.0001	0.458	<.0001	0.543	<.0001	0.473	<.0001	0.616	<.0001
IV 1受講態度への対応			0.090	0.0458	0.267	<.0001				
R2乗	0.781		0.751		0.795		0.814		0.852	
自由度調整R2乗	0.776		0.748		0.793		0.812		0.851	

表 15 シラバス目標達成度

	「やさしい」 n=96		「やややさしい」 n=541		「適切」 n=591		「やや難しい」 n=508		「難しい」 n=377	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.161	0.2499	0.242	0.0052	0.386	<.0001	0.401	<.0001	0.294	0.0084
埼玉			0.051	0.0008	0.076	<.0001	0.067	<.0001	0.096	<.0001
学年平均					0.016	0.0033	0.013	0.0235		
I 4シラバス忠実度	0.674	<.0001	0.416	<.0001	0.526	<.0001	0.401	<.0001	0.470	<.0001
I 6事前事後課題の指示			0.136	0.0017	0.168	<.0001	0.156	<.0001	0.164	0.0037
II 1双方向型授業評価	0.266	<.0001	0.225	<.0001	0.140	<.0001	0.161	<.0001		
II 3話し方等分かりやすさ			-0.083	0.0365			0.116	0.0002	0.225	<.0001
IV 1受講態度への対応			0.210	<.0001						
R2乗	0.859		0.726		0.743		0.791		0.727	
自由度調整R2乗	0.856		0.723		0.741		0.788		0.724	

表 13～15 からは、「授業満足度」と「知的刺激」にもっとも利くのは「話し方等分かりやすさ」、「シラバス目標達成度」では「シラバス忠実度」である点は、授業の難易度によらず変わらないことがわかります。また、「授業満足度」「知的刺激」「シラバス目標達成度」のいずれにおいても、内容がもっとも「やさしい」授業、次いでもっとも「難しい」授業においては有意となる説明変数が少ない単純なモデルになる傾向があります。

この結果は、以下のように解釈することができます。

- 教員の話し方や説明の仕方の分かりやすさ(「話し方等分かりやすさ」)は、「授業満足度」および「知的刺激」に対しては、授業の難易度によらず、まんべんなくもっとも大きな影響をもたらす。「シラバス目標達成度」に対しては、難易度が「やや難しい」～「難しい」授業においてのみ影響がある。
- 双方向型の授業が効果的に行なわれていること(「双方向型授業評価」)は、「授業満足度」「知的刺激」「シラバス目標達成度」のいずれに対しても影響する。ただし、「知的刺激」に対する影響は「やさしい」授業ではみられず、シラバス目標達成度」に対する影響は「難しい」授業ではみられない。「授業満足度」に対しては、難易度が「やややさしい」から「適切」な授業で影響する。
- 「学年(高学年が多いと効果的)」は、「授業満足度」「知的刺激」に対しては難易度が「適切」～「難しい」授業で影響する。「シラバス目標達成度」に対しては、難易度が「適切」～「やや難しい」授業で影響する。

※1) 難易度は、データ全体の分布をみて、以下のように 5 水準に分けました。

「やさしい」	授業単位の平均値 1.00～3.00 未満	(n= 96)
「やややさしい」	授業単位の平均値 3.00～3.25 未満	(n=541)
「適切」	授業単位の平均値 3.25～3.50 未満	(n=591)
「やや難しい」	授業単位の平均値 3.50～3.75 未満	(n=508)
「難しい」	授業単位の平均値 3.75～5.00	(n=377)

⑤ 学部ごとのモデルの検討

回答した学生の所属学部の割合が 95%以上同じである授業のみを抽出し、それぞれを 7 学部分のデータに分けて、これまでと同様の重回帰分析を行った結果を表 16～22 に示します。これまでのモデルと同様、表では、標準誤差、t 値、VIF は省略しましたが、いずれも適切な値です (VIF は最大で 4.5)。なお、キャンパス、履修人数は、学部ごとに大きな偏りがあったため、今回は説明変数として取り入れていません。

表 16～22 のとおり、それぞれの学部で特徴がみられました。

表 16 回答者の 95%以上が総合福祉学部の学生である授業の重回帰モデル

n=693		「授業満足度」		「知的刺激」	
項		推定値	p値	推定値	p値
切片		-0.145	0.0326	-0.222	0.0104
学年平均		0.010	0.0481	0.022	0.0007
I 4シラバス忠実度		0.059	0.0131	0.087	0.0077
I 6事事前事後課題の指示				-0.111	0.003
II 1双方向型授業評価		0.120	<.0001	0.153	<.0001
II 2教材役立ち度				0.085	0.024
II 3話し方等分かりやすさ		0.510	<.0001	0.515	<.0001
IV 1受講態度への対応		0.251	<.0001	0.143	0.0009
IV 2機器・備品等充実度		0.084	0.0264	0.152	0.0018
R2乗		0.872		0.821	
自由度調整R2乗		0.871		0.819	

表 17 回答者の 95%以上が国際コミュニケーション学部の学生である授業の重回帰モデル

n=160		「授業満足度」		「知的刺激」	
項		推定値	p値	推定値	p値
切片		0.038	0.9121	0.049	0.8711
I 1授業説明 有無		-0.275	0.0308	0.352	0.0003
II 1双方向型授業評価				0.220	0.0156
II 2教材役立ち度		0.353	0.0014		
II 3話し方等分かりやすさ		0.405	0.0003	0.405	0.0002
III 2難易度		0.123	0.0007		
IV 2機器・備品等充実度		0.385	0.002		
R2乗		0.457		0.495	
自由度調整R2乗		0.439		0.485	

表 18 回答者の 95%以上が看護栄養学部の学生である授業の重回帰モデル

n=178		「授業満足度」		「知的刺激」	
項		推定値	p値	推定値	p値
切片		-0.047	0.7344	0.022	0.893
学年平均		-0.032	0.0011		
I 1授業説明 有無				0.234	0.0051
II 1双方向型授業評価		0.125	0.0024		
II 3話し方等分かりやすさ		0.467	<.0001	0.489	<.0001
IV 2機器・備品等充実度		0.429	<.0001	0.244	0.0035
R2乗		0.890		0.835	
自由度調整R2乗		0.888		0.832	

表 19 回答者の 95%以上がコミュニティ政策学部学生である授業の重回帰モデル

n=149		「授業満足度」		「知的刺激」	
項		推定値	p値	推定値	p値
切片		-0.403	0.0216	-0.080	0.6143
学年平均		0.032	0.0115	0.043	0.0008
I 1授業説明_有無				0.252	0.0011
I 4シラバス忠実度		0.194	0.0156		
II 1双方向型授業評価				0.235	0.0009
II 2教材役立ち度		0.243	0.0044		
II 3話し方等分かりやすさ		0.460	<.0001	0.468	<.0001
IV2機器・備品等充実度		0.178	0.0363		
R2乗		0.814		0.804	
自由度調整R2乗		0.807		0.798	

表 20 回答者の 95%以上が経営学部学生である授業の重回帰モデル

n=341		「授業満足度」		「知的刺激」	
項		推定値	p値	推定値	p値
切片		0.032	0.8392	0.221	0.1483
学年平均		0.041	<.0001	0.050	<.0001
I 1授業説明_有無		0.144	0.006		
I 6事前事後課題の指示		0.276	<.0001	0.415	<.0001
II 3話し方等分かりやすさ		0.340	<.0001	0.408	<.0001
III 2難易度		-0.066	0.0104	-0.117	<.0001
IV1受講態度への対応		0.250	<.0001		
IV2機器・備品等充実度				0.166	0.006
R2乗		0.802		0.802	
自由度調整R2乗		0.798		0.799	

表 21 回答者の 95%以上が教育学部学生である授業の重回帰モデル

n=213		「授業満足度」		「知的刺激」	
項		推定値	p値	推定値	p値
切片		0.341	0.02	0.605	<.0001
II 3話し方等分かりやすさ		0.693	<.0001	0.695	<.0001
III 2難易度		-0.081	0.0028	-0.093	0.0007
IV1受講態度への対応		0.275	<.0001	0.201	0.0002
R2乗		0.887		0.872	
自由度調整R2乗		0.885		0.870	

表 22 回答者の 95%以上が人文学部学生である授業の重回帰モデル

n=216		「授業満足度」		「知的刺激」	
項		推定値	p値	推定値	p値
切片		-0.550	<.0001	-0.168	0.2119
学年平均		0.054	<.0001	0.049	0.0011
I 1授業説明_有無		0.222	0.0011	0.222	<.0001
II 3話し方等分かりやすさ		0.618	<.0001	0.533	<.0001
IV1受講態度への対応		0.159	0.0032	0.255	<.0001
IV2機器・備品等充実度		0.119	0.0062		
R2乗		0.890		0.809	
自由度調整R2乗		0.888		0.805	

3. 教員対象のアンケート調査結果を加えた分析

(1) 教員対象のアンケート結果と学生対象の結果との比較

① 相関係数行列

ここからは、学生向けアンケートの授業単位集約データに、教員による授業の自己点検である教員向けアンケートの結果を加えた分析を行います。

まず、教員向けアンケート結果の項目間の関連、および学生データと教員データの関連を俯瞰するため、相関分析を行いました。

その結果の相関係数行列を表 23 と 24 に示します(相関係数は p.7 参照)。表を2つに分けたのは、表 23 の調査項目が学生データと教員データの両方にあるのに対し、表 24 の調査項目(「教材役立ち度」の子設問)は教員向けアンケートのみにあるためです。

両表では、表1と同様に、数値の大きさを直感的に分かりやすくするために色分けしています。オレンジおよび濃い水色は ± 0.7 以上の高相関、薄いオレンジおよび水色は ± 0.4 以上 0.7 未満、グレーは ± 0.12 未満です。濃い青色は $+1$ (同じ項目間の相関係数なので完全に一致)であり、表 23 は、濃い青色ラインを境に右上と左下は同じ内容になっています。

② 教員データと学生データとの関連

教員向けアンケート結果の項目間の相関係数行列は表 23-2/2 の下側ですが、ほぼすべての項目間に正の相関があることがわかります。学生データの場合(表 23-1/2 上側)と見比べると、以下のような違いがあることがわかります。

- 教員データは、学生データに比べ、各項目間の相関がそれほど高くない。とくに「難易度」との相関が非常に低い。
- 学生データでは「難易度」と他の項目には負の相関があったが(「難易度が低い授業の方が評判が良い」と解釈できる)、教員データではほとんど相関がない(教員にとって難易度評価は他の評価と独立している)。

教員データと学生データとの相関係数行列は表 23-1/2 の下側です。太い罫線で囲んだセルは同じ調査項目間の相関係数ですが、 0.1 前後と意外なほど低いものが多いという結果です。さらに、「シラバス忠実度」、「教材役立ち度」およびその子設問(表 24-1/2)は低いながら負の相関があります。同じ授業であっても、授業を行う側(教員)と受ける側(学生)では評価が異なるといえます。

ただし、「双方向型授業評価」、次いで「履修人数の適切さ」については、教員と学生の評価の一致度が高くなっています。

「成績」と学生データは、難易度を除くすべての項目で正の相関があるが、教員データとの相関は、項目によっては強弱が大きい。

表 23 教員データを含む相関係数行列 (1/2)

高相関 : 0.7以上 : -0.7以下 低相関 : 0.4～0.7未満 : -0.4～-0.7 -0.12～0.12未満																					
		学年	履修人数(5水準)	I 1 授業説明_有無	I 2 授業説明_理解度	I 3 授業説明_取組み度	I 4 シラバス忠実度	I 5 シラバス目標達成度	I 6 事前事後課題の指示	I 7 双方向性工夫の有無	I 8 予習復習時間	II 1 双方向型授業評価	II 2 教材役立ち度	II 3 話し方等分かりやすさ	III 1 知的刺激	III 2 難易度	III 3 授業満足度	IV 1 受講態度への対応	IV 2 機器・備品等充実度	IV 3 履修人数適切さ	
学年		1.00	-4.5	2.9	3.2	3.3	2.7	3.2	2.8	3.4	2.6	3.7	3.0	3.1	3.7	-0.9	3.4	3.4	3.0	2.4	
履修人数(5水準)		-4.5	1.00	-4.5	-4.6	-4.9	-3.9	-4.6	-4.8	-5.1	-2.7	-5.8	-4.3	-5.0	-5.1	1.5	-5.1	-5.1	-4.7	-4.5	
学生	I 1 授業説明_有無	2.9	-4.5	1.00	.83	.73	.80	.73	.82	.82	.33	.73	.80	.81	.78	-1.1	.79	.80	.79	.72	
	I 2 授業説明_理解度	3.2	-4.6	.83	1.00	.78	.73	.75	.77	.78	.29	.71	.74	.78	.77	-1.8	.76	.76	.75	.66	
	I 3 授業説明_取組み度	3.3	-4.9	.73	.78	1.00	.71	.79	.74	.75	.35	.72	.70	.71	.73	-1.3	.73	.72	.71	.66	
	I 4 シラバス忠実度	2.7	-3.9	.80	.73	.71	1.00	.81	.79	.78	.27	.69	.76	.74	.73	-1.5	.73	.73	.75	.69	
	I 5 シラバス目標達成度	3.2	-4.6	.73	.75	.79	.81	1.00	.77	.79	.25	.74	.76	.76	.76	-2.5	.75	.72	.73	.67	
	I 6 事前事後課題の指示	2.8	-4.8	.82	.77	.74	.79	.77	1.00	.87	.39	.79	.79	.80	.77	-1.0	.79	.80	.78	.70	
	I 7 双方向性工夫の有無	3.4	-5.1	.82	.78	.75	.78	.79	.87	1.00	.38	.83	.82	.84	.81	-1.2	.83	.82	.80	.72	
	I 8 予習復習時間	2.6	-2.7	.33	.29	.35	.27	.25	.39	.38	1.00	.39	.28	.31	.33	.29	.34	.36	.30	.28	
	II 1 双方向型授業評価	3.7	-5.8	.73	.71	.72	.69	.74	.79	.83	.39	1.00	.80	.82	.80	-1.6	.81	.77	.74	.70	
	II 2 教材役立ち度	3.0	-4.3	.80	.74	.70	.76	.74	.79	.82	.28	.80	1.00	.86	.81	-1.8	.83	.79	.82	.74	
	II 3 話し方等分かりやすさ	3.1	-5.0	.81	.78	.71	.74	.76	.80	.84	.31	.82	.86	1.00	.88	-2.3	.89	.81	.81	.74	
	III 1 知的刺激	3.7	-5.1	.78	.77	.73	.73	.76	.77	.81	.33	.80	.81	.88	1.00	-2.0	.91	.79	.79	.72	
	III 2 難易度	-0.9	1.5	-1.1	-1.8	-1.3	-1.5	-2.5	-1.0	-1.2	2.9	-1.6	-1.8	-2.3	-2.0	1.00	-1.7	-0.8	-1.3	-1.3	
	III 3 授業満足度	3.4	-5.1	.79	.76	.73	.73	.75	.79	.83	.34	.81	.83	.89	.91	-1.7	1.00	.82	.81	.74	
IV 1 受講態度への対応	3.4	-5.1	.80	.76	.72	.73	.72	.80	.82	.36	.77	.79	.81	.79	-0.8	.82	1.00	.87	.79		
IV 2 機器・備品等充実度	3.0	-4.7	.79	.75	.71	.75	.73	.78	.80	.30	.74	.82	.81	.79	-1.3	.81	.87	1.00	.82		
IV 3 履修人数適切さ	2.4	-4.5	.72	.66	.66	.69	.67	.70	.72	.28	.70	.74	.74	.72	-1.3	.74	.79	.82	1.00		
教員	Te I 1 授業説明_有無	.02	.10	.03	.02	-0.2	.05	.01	.00	-0.1	-0.1	-0.6	-0.1	-0.1	-0.1	-0.1	-0.3	-0.3	-0.1	-0.3	
	Te I 2 授業説明工夫度	.06	.03	.07	.06	.04	.09	.04	.05	.05	.03	.01	.05	.04	.05	.01	.04	.03	.05	.03	
	Te I 3 授業説明取組ませ度	.07	-0.2	.11	.11	.10	.13	.10	.12	.10	.06	.10	.11	.11	.13	-0.5	.12	.09	.10	.10	
	Te I 4 シラバス忠実度	-0.4	.13	-0.2	-0.4	-0.7	.05	-0.5	-0.4	-0.7	.01	-1.0	-0.6	-0.8	-0.5	-0.9	-0.7	-0.5	-0.5	-0.5	
	Te I 5 シラバス目標達成度	.05	.00	.10	.09	.06	.12	.07	.10	.08	.10	.07	.09	.08	.09	.00	.09	.08	.08	.07	
	Te I 6 事前事後課題の指示	.01	-0.1	.07	.05	.03	.08	.02	.11	.06	.15	.05	.02	.02	.01	.08	.01	.04	.04	.04	
	Te I 7 双方向性工夫の有無	.03	-0.5	.08	.09	.07	.11	.06	.11	.11	.12	.09	.08	.07	.05	.03	.05	.06	.08	.06	
	Te I 8 予習復習時間	.16	-1.1	.08	.07	.06	.03	.02	.10	.10	.23	.11	.07	.05	.09	.11	.10	.10	.08	.09	
	Te II 1 双方向型授業評価	.13	-2.0	.19	.19	.20	.17	.17	.20	.22	.18	.30	.17	.21	.20	-0.5	.20	.18	.17	.16	
	Te II 2-1 教材役立ち度	.03	.11	.01	.00	.00	.05	.00	-0.1	-0.2	-0.7	-0.6	.04	.00	.00	-0.3	-0.1	.07	.07	.09	
	Te II 3 話し方等分かりやすさ	.07	.02	.12	.10	.08	.10	.07	.09	.07	.05	.04	.09	.10	.09	-0.1	.07	.07	.09	.07	
	Te III 1 知的刺激	.11	.02	.11	.10	.07	.11	.07	.09	.09	.05	.08	.11	.12	.13	-0.3	.11	.08	.10	.09	
	Te III 2 難易度	.11	-0.2	.00	-0.2	.00	-0.3	-0.6	-0.1	.02	.17	-0.1	.00	-0.3	.00	.22	-0.1	.01	.00	.01	
	Te III 3 授業満足度	.04	.00	.11	.10	.10	.12	.10	.10	.09	.05	.09	.12	.12	.12	-0.5	.11	.09	.12	.11	
Te IV 1 受講態度への対応	.10	-0.7	.11	.09	.07	.10	.05	.09	.08	.09	.06	.07	.08	.10	.02	.08	.13	.10	.09		
Te IV 2 機器・備品等充実度	.05	-0.6	.08	.08	.07	.09	.06	.08	.09	.02	.06	.07	.09	.07	-0.1	.08	.07	.08	.06		
Te IV 3 履修人数適切さ	.12	-1.2	.16	.15	.13	.16	.10	.16	.15	.13	.15	.12	.14	.15	.00	.13	.14	.15	.13		
成績	GP	.11	-2.4	.23	.22	.24	.18	.20	.22	.23	.14	.31	.23	.27	.28	-2.1	.30	.25	.25	.24	
	学部別標準化GP	.15	-3.0	.25	.25	.27	.21	.24	.26	.27	.15	.34	.26	.30	.30	-2.0	.33	.29	.28	.26	

表 24 教員データ(「教材役立ち度」子設問)相関係数行列 (1/2)

[illegible]

表 23 教員データを含む相関係数行列 (2/2)

■ =1 高相関 : 0.7以上 : -0.7以下 : 0.4~0.7未満 : -0.4~-0.7 低相関 -0.12~0.12未満		Te I 1授業説明_有無	Te I 2授業説明工夫度	Te I 3授業説明取組ませ度	Te I 4シラバス忠実度	Te I 5シラバス目標達成度	Te I 6事前事後課題の指示	Te I 7双方向性工夫の有無	Te I 8予習復習時間	Te II 1双方向型授業評価	Te II 2-1教材役立ち度	Te II 3話し方等分かりやすさ	Te III 1知的刺激	Te III 2難易度	Te III 3授業満足度	Te IV 1受講態度への対応	Te IV 2機器・備品等充実度	Te IV 3履修人数適切さ
学年		.02	.06	.07	-.04	.05	.01	.03	.16	.13	.03	.07	.11	.11	.04	.10	.05	.12
履修人数(5水準)		.10	.03	-.02	.13	.00	-.01	-.05	-.11	-.20	.11	.02	.02	-.02	.00	-.07	-.06	-.12
学生	I 1授業説明_有無	.03	.07	.11	-.02	.10	.07	.08	.08	.19	.01	.12	.11	.00	.11	.11	.08	.16
	I 2授業説明_理解度	.02	.06	.11	-.04	.09	.05	.09	.07	.19	.00	.10	.10	-.02	.10	.09	.08	.15
	I 3授業説明_取組み度	-.02	.04	.10	-.07	.06	.03	.07	.06	.20	.00	.08	.07	.00	.10	.07	.07	.13
	I 4シラバス_忠実度	.05	.09	.13	.05	.12	.08	.11	.03	.17	.05	.10	.11	-.03	.12	.10	.09	.16
	I 5シラバス_目標達成度	.01	.04	.10	-.05	.07	.02	.06	.02	.17	.00	.07	.07	-.06	.10	.05	.06	.10
	I 6事前事後課題の指示	.00	.05	.12	-.04	.10	.11	.11	.10	.20	-.01	.09	.09	-.01	.10	.09	.08	.16
	I 7双方向性工夫の有無	-.01	.05	.10	-.07	.08	.06	.11	.10	.22	-.02	.07	.09	.02	.09	.08	.09	.15
	I 8予習復習時間	-.01	.03	.06	.01	.10	.15	.12	.23	.18	-.07	.05	.05	.17	.05	.09	.02	.13
	II 1双方向型授業評価	-.06	.01	.10	-.10	.07	.05	.09	.11	.30	-.06	.04	.08	-.01	.09	.06	.06	.15
	II 2教材役立ち度	-.01	.05	.11	-.06	.09	.02	.08	.07	.17	.04	.09	.11	.00	.12	.07	.07	.12
	II 3話し方等分かりやすさ	-.01	.04	.11	-.08	.08	.02	.07	.05	.21	.00	.10	.12	-.03	.12	.08	.09	.14
	III 1知的刺激	-.01	.05	.13	-.08	.09	.01	.05	.09	.20	.00	.09	.13	.00	.12	.10	.07	.15
	III 2難易度	-.01	.01	-.05	.05	.00	.08	.03	.11	-.05	-.03	-.01	-.03	.22	-.05	.02	-.01	.00
	III 3授業満足度	-.03	.04	.12	-.09	.09	.01	.05	.10	.20	-.01	.07	.11	-.01	.11	.08	.08	.13
教員	IV 1受講態度への対応	-.03	.03	.09	-.07	.08	.04	.06	.10	.18	-.03	.07	.08	.01	.09	.13	.07	.14
	IV 2機器・備品等充実度	-.01	.05	.10	-.05	.08	.04	.08	.08	.17	.01	.09	.10	.00	.12	.10	.08	.15
	IV 3履修人数適切さ	-.03	.03	.10	-.05	.07	.04	.06	.09	.16	-.02	.07	.09	.01	.11	.09	.06	.13
	Te I 1授業説明_有無	1.00	.70	.50	.54	.41	.46	.47	-.03	.37	.54	.58	.45	.04	.41	.50	.37	.52
	Te I 2授業説明工夫度	.70	1.00	.59	.47	.45	.45	.51	.00	.41	.55	.63	.51	.05	.47	.52	.40	.55
	Te I 3授業説明取組ませ度	.50	.59	1.00	.46	.61	.47	.51	.09	.47	.50	.53	.59	.03	.61	.49	.33	.57
	Te I 4シラバス忠実度	.54	.47	.46	1.00	.47	.49	.43	.05	.29	.46	.46	.37	.03	.39	.44	.33	.45
	Te I 5シラバス目標達成度	.41	.45	.61	.47	1.00	.44	.45	.09	.39	.39	.45	.49	.00	.54	.38	.32	.44
	Te I 6事前事後課題の指示	.46	.45	.47	.49	.44	1.00	.56	.20	.40	.45	.43	.38	.06	.40	.41	.25	.46
	Te I 7双方向性工夫の有無	.47	.51	.51	.43	.45	.56	1.00	.07	.50	.50	.50	.44	.06	.43	.45	.33	.54
	Te I 8予習復習時間	-.03	.00	.09	.05	.09	.20	.07	1.00	.07	.02	.03	.08	.09	.04	.09	-.06	.01
	Te II 1双方向型授業評価	.37	.41	.47	.29	.39	.40	.50	.07	1.00	.41	.45	.40	.03	.41	.40	.29	.56
	Te II 2-1教材役立ち度	.54	.55	.50	.46	.39	.45	.50	.02	.41	1.00	.62	.48	.05	.46	.48	.36	.53
	Te II 3話し方等分かりやすさ	.58	.63	.53	.46	.45	.43	.50	.03	.45	.62	1.00	.57	.02	.49	.54	.42	.60
成績	Te III 1知的刺激	.45	.51	.59	.37	.49	.38	.44	.08	.40	.48	.57	1.00	.09	.62	.47	.34	.50
	Te III 2難易度	.04	.05	.03	.03	.00	.06	.06	.09	.03	.05	.02	.09	1.00	.01	.07	.08	.05
	Te III 3授業満足度	.41	.47	.61	.39	.54	.40	.43	.04	.41	.46	.49	.62	.01	1.00	.44	.33	.49
	Te IV 1受講態度への対応	.50	.52	.49	.44	.38	.41	.45	.09	.40	.48	.54	.47	.07	.44	1.00	.35	.61
	Te IV 2機器・備品等充実度	.37	.40	.33	.33	.32	.25	.33	-.06	.29	.36	.42	.34	.08	.33	.35	1.00	.47
成績	Te IV 3履修人数適切さ	.52	.55	.57	.45	.44	.46	.54	.01	.56	.53	.60	.50	.05	.49	.61	.47	1.00
	GP	-.05	.02	.19	-.01	.22	.04	.01	.09	.20	-.06	-.01	.13	-.06	.17	.03	.02	.06
学部別標準化GP		-.06	.02	.18	-.03	.20	.04	.02	.08	.20	-.07	-.02	.12	-.06	.16	.03	.03	.06

表 24 教員データ(「教材役立ち度」子設問)相関係数行列 (2/2)

■ =1 高相関 : 0.7以上 : -0.7以下 : 0.4~0.7未満 : -0.4~-0.7 低相関 -0.12~0.12未満		Te I 1授業説明_有無	Te I 2授業説明工夫度	Te I 3授業説明取組ませ度	Te I 4シラバス忠実度	Te I 5シラバス目標達成度	Te I 6事前事後課題の指示	Te I 7双方向性工夫の有無	Te I 8予習復習時間	Te II 1双方向型授業評価	Te II 2-1教材役立ち度	Te II 3話し方等分かりやすさ	Te III 1知的刺激	Te III 2難易度	Te III 3授業満足度	Te IV 1受講態度への対応	Te IV 2機器・備品等充実度	Te IV 3履修人数適切さ	Te II 2-1教材工夫_教科書選定	Te II 2-2教材工夫_オリジナル教材	Te II 2-3教材工夫_レジュメ	Te II 2-4教材工夫_パワポ	Te II 2-5教材工夫_映像	Te II 2-6教材工夫_その他
子設問	Te II 2-2-1教材工夫_教科書選定	-.01	.03	.01	.00	.04	.06	.06	.10	.00	.06	.01	.00	.02	.01	.00	-.01	.02	1.00	.10	.07	.06	.09	.01
	Te II 2-2-2教材工夫_オリジナル教材	.03	.06	.07	.02	.02	.08	.11	.09	.10	.15	.08	.09	-.01	.12	.03	.03	.06	.10	1.00	.00	.09	.10	.03
	Te II 2-2-3教材工夫_レジュメ	.11	.14	.09	.07	.04	.08	.09	-.01	.03	.18	.12	.11	.04	.06	.07	.02	.06	.07	.00	1.00	.13	.20	.01
	Te II 2-2-4教材工夫_パワポ	.13	.08	.10	.11	.10	.09	.07	-.04	-.01	.22	.14	.14	.08	.13	.05	.07	.05	.06	.09	.13	1.00	.20	.03
	Te II 2-2-5教材工夫_映像	.08	.01	-.01	.00	-.03	-.04	.00	.00	-.04	.16	.06	.04	.00	.02	.01	-.04	-.01	.09	.10	.20	.20	1.00	.00
	Te II 2-2-6教材工夫_その他	.01	.00	.03	.02	.03	.00	.01	-.05	.01	.04	.02	.05	-.02	.04	.01	-.02	.05	.01	.03	.01	-.03	.00	1.00
	Te II 2-2-1教材工夫_教科書選定	-.01	.03	.01	.00	.04	.06	.06	.10	.00	.06	.01	.00	.02	.01	.00	-.01	.02	1.00	.10	.07	.06	.09	.01

(2)「工夫した教材」に関する検討

① 教材の種類に関する分析

前述の通り、表 24-1/2 からは、教員の「工夫した教材」(「教科書選定」「レジュメ」「パワポ(スライド・パワーポイント)」「映像」と学生の授業評価の間に負の弱い相関がみられます。ただし、「オリジナル教材」だけは正の相関になっています。

このことは、「授業の理解に役立つように工夫した」教材の使用が、授業を受ける側にとっては効果がない場合があること、また、教材の種類によって効果に差がある可能性があることを示唆しています。

そこで、使用した教材の種類による関連をみるために、相関係数行列に基づく主成分分析(図6)、およびその結果を参考とした因子分析を行いました(図7)。

図7からは、「オリジナル教材」とその他の教材とは異なる因子を形成している可能性が示唆されます。

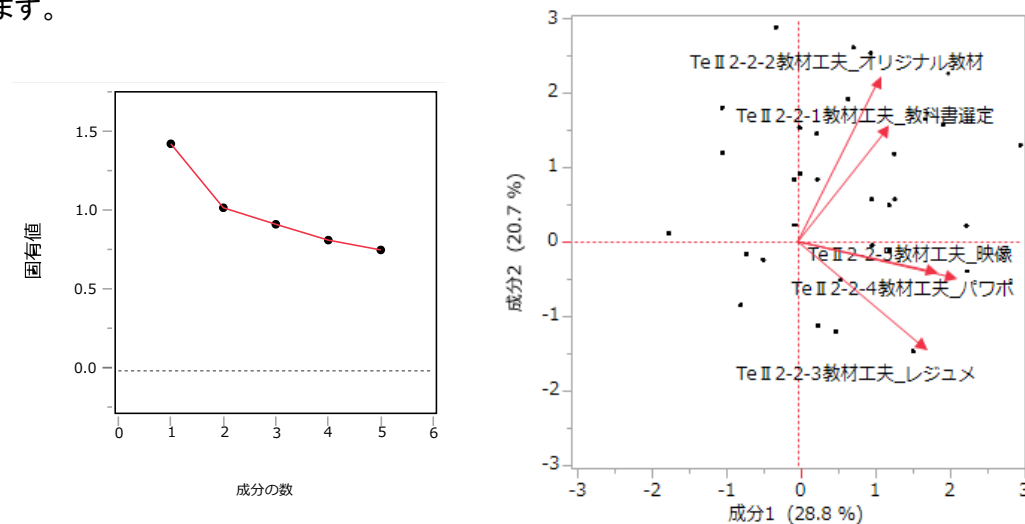


図6 「工夫した教材」5項目の主成分分析結果

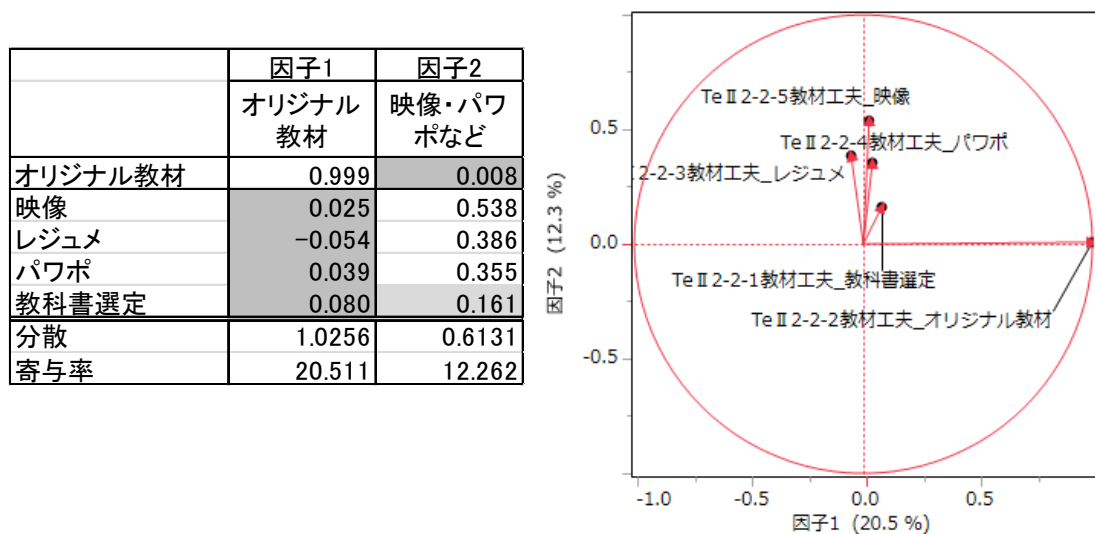


図7 「工夫した教材」5項目の因子分析結果(最尤法、Promax 回転)

② 「工夫した教材」等と学生の評価との関連

教員の授業評価データである「工夫した教材」等と学生の授業評価(「授業満足度」等の総合評価)との関連(一例を図8に示す)をみると、「オリジナル教材」は授業で使った方が学生の評価が若干高く、「パワーポイント」「映像」等では若干低いという傾向が見られました。この「パワーポイント」等と学生の授業評価との関連は、「パワーポイント」等が学生の評価が低目である大人数の授業で使われる傾向があること(図9)等の擬似相関であることが疑われます。しかし、「オリジナル教材」は履修人数と関わりなく使われているため、学生の授業評価に直接影響している可能性もあります。

なお、学生の評価の一致度が唯一高かった教員の「双方向型授業評価」は、学生の「授業満足度」等とプラスの関連が見られました(図10)。

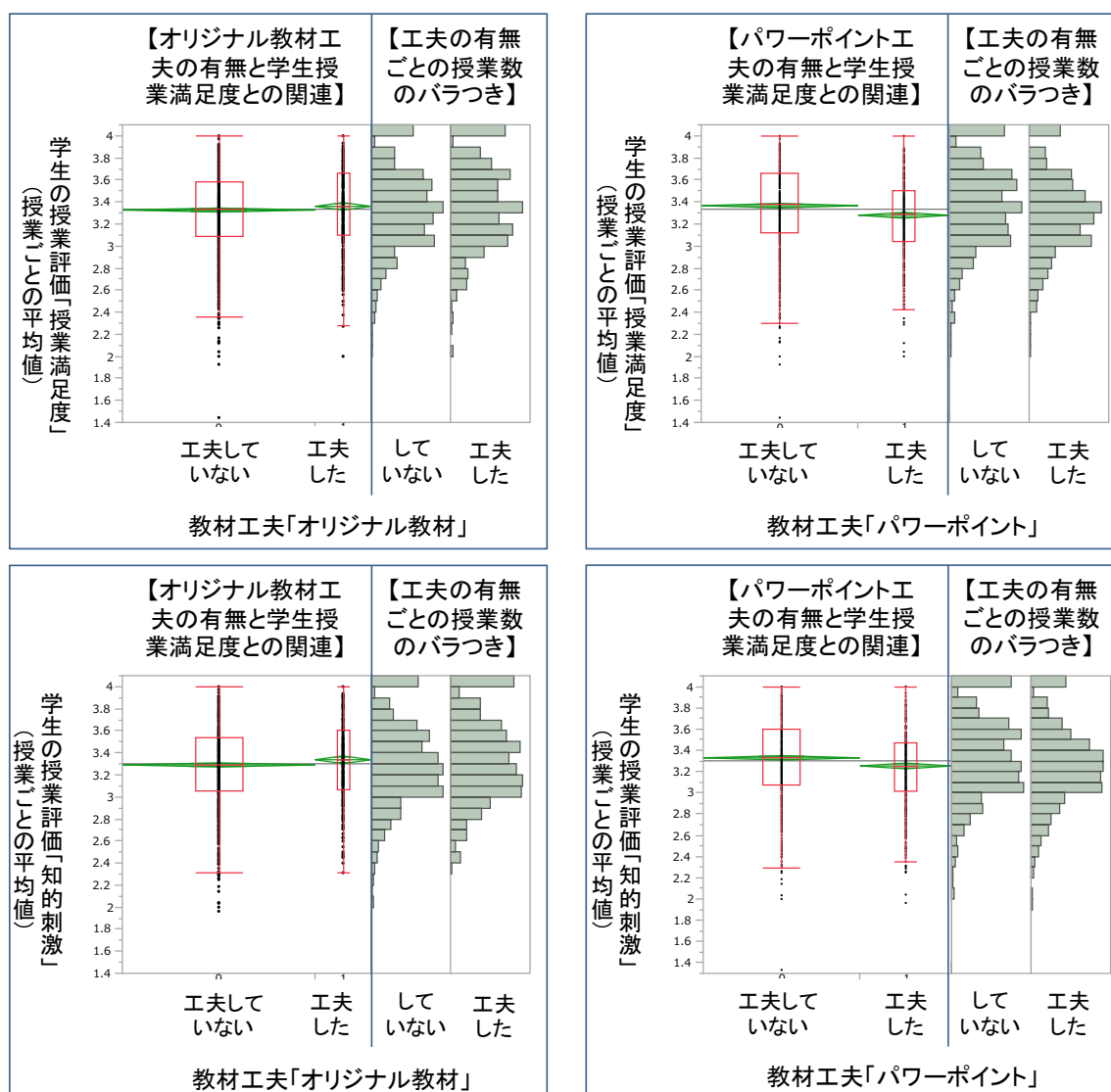


図8 「工夫した教材」と学生の授業評価との関連

※ 左右の図は縦軸を共有。左図: 菱形は各履修人数の平均値(中央の線)と信頼区間を示す。横軸方向の間隔は該当授業数を反映。右図: ヒストグラム(横棒グラフ)。棒の長さが該当授業数(度数)を示す。

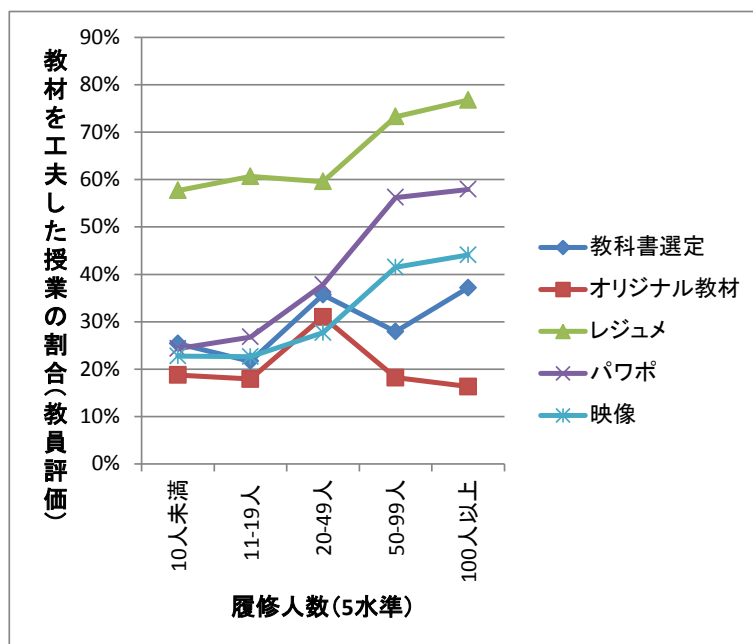


図9 「履修人数(5水準)」と「教材を工夫した」割合との関連

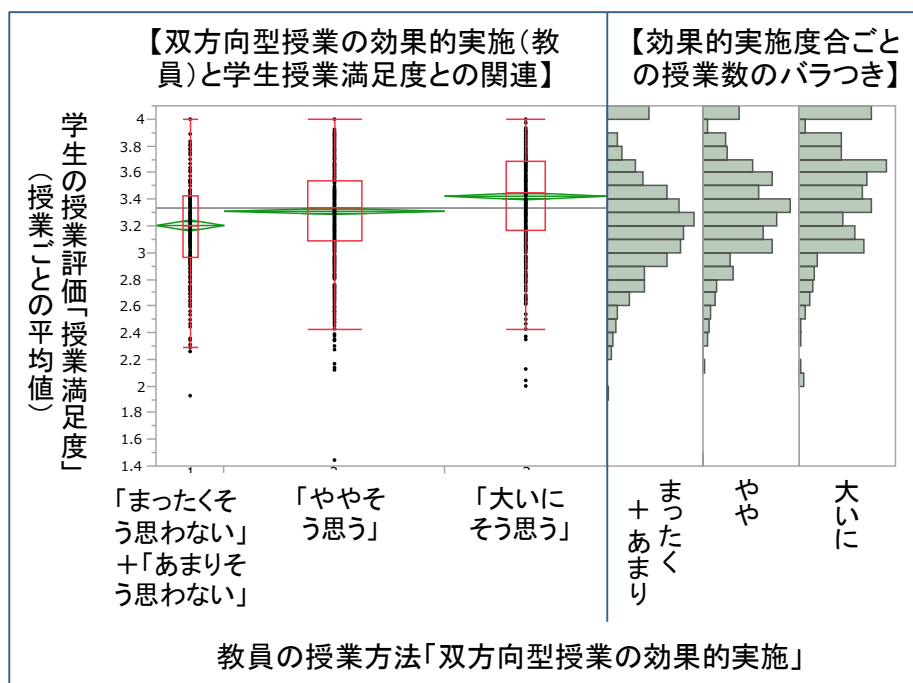


図10 教員の評価「双方向型授業評価」と学生の授業評価との関連

※ 左右の図は縦軸を共有。左図：菱形は各履修人数の平均値(中央の線)と信頼区間を示す。横軸方向の間隔は該当授業数を反映。右図：ヒストグラム(横棒グラフ)。棒の長さが該当授業数(度数)を示す。

(3) 教員データを加えた複数項目間の関連（重回帰分析）

① 重回帰分析の方針

教員データを説明変数、学生の「授業満足度」等を目的変数とした重回帰分析を行い、学生の授業満足度等を規定する要因をさらに検討するとともに、学生の授業評価と教員のそれとの違いを検討します。

分析方針・方法(ステップワイズ法)は、前節にて学生データで用いて行った重回帰分析と同じとします。

【重回帰分析に取り入れる説明変数】

- キャンパス(「千葉」「千葉第2」「埼玉」「東京」の4変数)
- 学年
- 履修人数(5水準の順序尺度として)
- I1 授業説明_有無(教員データ)
- I4 シラバス忠実度(教員データ)
- I6 事前事後課題の指示(教員データ)
- II1 双方向型授業評価(教員データ)
- II2 教材役立ち度(教員データ)
- II3 話し方等分かりやすさ(教員データ)
- III2 難易度(教員データ)
- IV1 受講態度への対応(教員データ)
- IV2 機器・備品等充実度(教員データ)

また、上記に、教員データにしかない「工夫した教材(「教材役立ち度」の子設問で、各授業でどのような教材を工夫したかを0-1で回答する設問)」も加えた分析も行います。

② これまでと同様の調査項目を用いた重回帰モデルの検討

①の方針にしたがって行った重回帰分析の結果を表 25～28 に示します。これらは、VIF や R2 乗値、推定値などをみながら、説明変数の取捨選択を繰り返して得られた結果であり、採用した重回帰モデルです。

表 25 これまでと同様の調査項目を用いた重回帰モデル(目的変数＝授業満足度)

項	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	3.1960	0.064	49.83	<.0001	
学年平均	0.0422	0.009	4.95	<.0001	1.4591
履修人数{1&2-3&4&5}	0.1660	0.009	18.16	<.0001	1.4646
履修人数{1-2}	0.0713	0.012	5.88	<.0001	1.1168
履修人数{3-4&5}	0.0652	0.010	6.3	<.0001	1.0705
I 4シラバス忠実度	-0.0346	0.012	-2.96	0.0031	1.3201
II 1双方向型授業評価	0.0497	0.012	4.17	<.0001	1.3767
II 3話し方等分かりやすさ	0.0329	0.015	2.19	0.0284	1.4821
III 2難易度	-0.0320	0.013	-2.52	0.0117	1.0194
R2乗					0.2973
自由度調整R2乗					0.2942

表 26 これまでと同様の調査項目を用いた重回帰モデル(目的変数＝知的刺激)

項	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	3.0951	0.065	47.94	<.0001	
学年平均	0.0565	0.009	6.6	<.0001	1.4536
履修人数{1&2-3&4&5}	0.1638	0.009	17.81	<.0001	1.4619
履修人数{1-2}	0.0743	0.012	6.09	<.0001	1.1147
履修人数{3-4&5}	0.0591	0.010	5.67	<.0001	1.0704
I 4シラバス忠実度	-0.0318	0.012	-2.7	0.0069	1.3182
II 1双方向型授業評価	0.0452	0.012	3.77	0.0002	1.3769
II 3話し方等分かりやすさ	0.0443	0.015	2.93	0.0034	1.4809
III 2難易度	-0.0323	0.013	-2.53	0.0115	1.0196
R2乗					0.3092
自由度調整R2乗					0.3062

表 27 これまでと同様の調査項目を用いた重回帰モデル(目的変数＝予習復習時間)

項	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	1.0176	0.117	8.68	<.0001	
千葉	0.0670	0.029	2.34	0.0193	1.0259
学年平均	0.1155	0.015	7.49	<.0001	1.3399
履修人数{1&2-3&4&5}	0.0980	0.017	5.77	<.0001	1.4268
履修人数{3-4&5}	0.0571	0.020	2.91	0.0037	1.0780
I 6事前事後課題の指示	0.1698	0.023	7.37	<.0001	1.3521
II 1双方向型授業評価	0.1294	0.023	5.64	<.0001	1.4148
II 2-1教材役立ち度	-0.2086	0.026	-7.99	<.0001	1.4368
III 2難易度	0.1639	0.023	6.98	<.0001	1.0165
R2乗					0.1755
自由度調整R2乗					0.1723

表 28 これまでと同様の調査項目を用いた重回帰モデル(目的変数＝シラバス目標達成度)

項	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	3.1665	0.045	69.61	<.0001	
埼玉	0.1006	0.013	7.92	<.0001	1.0688
学年平均	0.0442	0.007	6.55	<.0001	1.4413
履修人数{1&2-3&4&5}	0.1049	0.007	14.35	<.0001	1.4854
履修人数{1-2}	0.0419	0.010	4.36	<.0001	1.1126
履修人数{3-4&5}	0.0558	0.008	6.78	<.0001	1.0599
Ⅱ1双方向型授業評価	0.0393	0.008	4.68	<.0001	1.0701
Ⅲ2難易度	-0.0434	0.010	-4.38	<.0001	1.0155
R2乗					0.2646
自由度調整R2乗					0.2621

学生データで分析した結果を比較すると、主に以下の点が異なります。

- 履修人数の影響が一番大きい(履修人数が少ないほど「満足度」等が高い)。
- 「学年」の影響も大きい(履修者に高学年が多いほど「満足度」等が高い)。
- 教員側の「話し方等分かりやすさ(「分かりやすい話し方や説明の仕方を心がけたか」)も、学生の「授業満足度」や「知的刺激」に影響するが、それほど大きな影響ではない。
- 学生の「授業満足度」を規定する要因(選ばれた説明変数)と、「知的刺激」のそれはまったく同じである。
- 教員側の「シラバス忠実度(「授業はシラバスに沿って行われたか」)」は、学生の「授業満足度」や「知的刺激」に弱いマイナスの影響がある。
- 教員側の「難易度」評価は、学生の「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」「シラバス目標達成度」のすべてに影響する。難易度が低いと「授業満足度」「知的刺激」および「シラバス目標達成度」を高まり、難易度が高いと「予習復習時間」が長くなる。

ただし、教員側の「双方向型授業評価(「双方向型授業を効果的に行ったか」)」が「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」「シラバス目標達成度」のすべてに影響していた点等、学生データで分析した結果と共通の傾向も多々見られました。

③ 「工夫した教材」を含めたモデルの検討

②の説明変数に「工夫した教材」5項目を加えて行った重回帰分析の結果を表 29～32 および図 11 に示します。これらは、VIF や R2 乗値、推定値などをみながら、説明変数の取捨選択を繰り返して得られた結果であり、採用した重回帰モデルです。

表 29 「工夫した教材」5 項目を加えた重回帰モデル(目的変数＝授業満足度)

項	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	3.1949	0.064	49.87	<.0001	
学年平均	0.0425	0.009	4.99	<.0001	1.4594
履修人数{1&2-3&4&5}	0.1676	0.009	18.3	<.0001	1.4736
履修人数{1-2}	0.0711	0.012	5.86	<.0001	1.1169
履修人数{3-4&5}	0.0626	0.010	6.02	<.0001	1.0834
I 4シラバス忠実度	-0.0335	0.012	-2.86	0.0042	1.3223
II 1双方向型授業評価	0.0471	0.012	3.94	<.0001	1.3891
II 3話し方等分かりやすさ	0.0312	0.015	2.08	0.0376	1.4857
III 2難易度	-0.0314	0.013	-2.48	0.0132	1.0198
II 2-2-2教材工夫オリジナル教材	0.0419	0.018	2.3	0.0218	1.0440
R2乗					0.2994
自由度調整R2乗					0.2959

表 30 「工夫した教材」5 項目を加えた重回帰モデル(目的変数＝知的刺激)

項	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	3.0934	0.064	48.02	<.0001	
学年平均	0.0569	0.009	6.66	<.0001	1.4539
履修人数{1&2-3&4&5}	0.1659	0.009	18.03	<.0001	1.4704
履修人数{1-2}	0.0738	0.012	6.06	<.0001	1.1149
履修人数{3-4&5}	0.0557	0.010	5.32	<.0001	1.0831
I 4シラバス忠実度	-0.0302	0.012	-2.58	0.0101	1.3206
II 1双方向型授業評価	0.0417	0.012	3.47	0.0005	1.3895
II 3話し方等分かりやすさ	0.0420	0.015	2.78	0.0055	1.4847
III 2難易度	-0.0315	0.013	-2.47	0.0134	1.0200
II 2-2-2教材工夫オリジナル教材	0.0557	0.018	3.03	0.0024	1.0444
R2乗					0.3127
自由度調整R2乗					0.3093

表 31 「工夫した教材」5 項目を加えた重回帰モデル(目的変数＝予習復習時間)

項	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	1.0302	0.117	8.8	<.0001	
千葉	0.0681	0.029	2.38	0.0174	1.026
学年平均	0.1163	0.015	7.55	<.0001	1.3402
履修人数{1&2-3&4&5}	0.1002	0.017	5.9	<.0001	1.4299
履修人数{3-4&5}	0.0508	0.020	2.57	0.0102	1.0925
I 6事前事後課題の指示	0.1703	0.023	7.4	<.0001	1.3521
II 1双方向型授業評価	0.1262	0.023	5.5	<.0001	1.4183
II 2-1教材役立ち度	-0.2172	0.026	-8.28	<.0001	1.4571
III 2難易度	0.1644	0.023	7.01	<.0001	1.0165
II 2-2-2教材工夫オリジナル教材	0.0964	0.035	2.79	0.0053	1.0509
R2乗					0.1787
自由度調整R2乗					0.1750

表 32 「工夫した教材」5 項目を加えた重回帰モデル(目的変数＝シラバス目標達成度)

項	推定値	標準誤差	t値	p値	VIF
切片	3.1671	0.045	69.72	<.0001	
埼玉	0.0978	0.013	7.68	<.0001	1.0765
学年平均	0.0443	0.007	6.58	<.0001	1.4414
履修人数{1&2-3&4&5}	0.1067	0.007	14.55	<.0001	1.4974
履修人数{1-2}	0.0417	0.010	4.35	<.0001	1.1127
履修人数{3-4&5}	0.0537	0.008	6.51	<.0001	1.0696
Ⅱ 1 双方向型授業評価	0.0366	0.008	4.33	<.0001	1.0858
Ⅲ 2 難易度	-0.0432	0.010	-4.37	<.0001	1.0155
Ⅱ 2-2-2教材工夫オリジナル教材	0.0384	0.014	2.65	0.0082	1.0431
R2乗				0.2671	
自由度調整R2乗				0.2643	

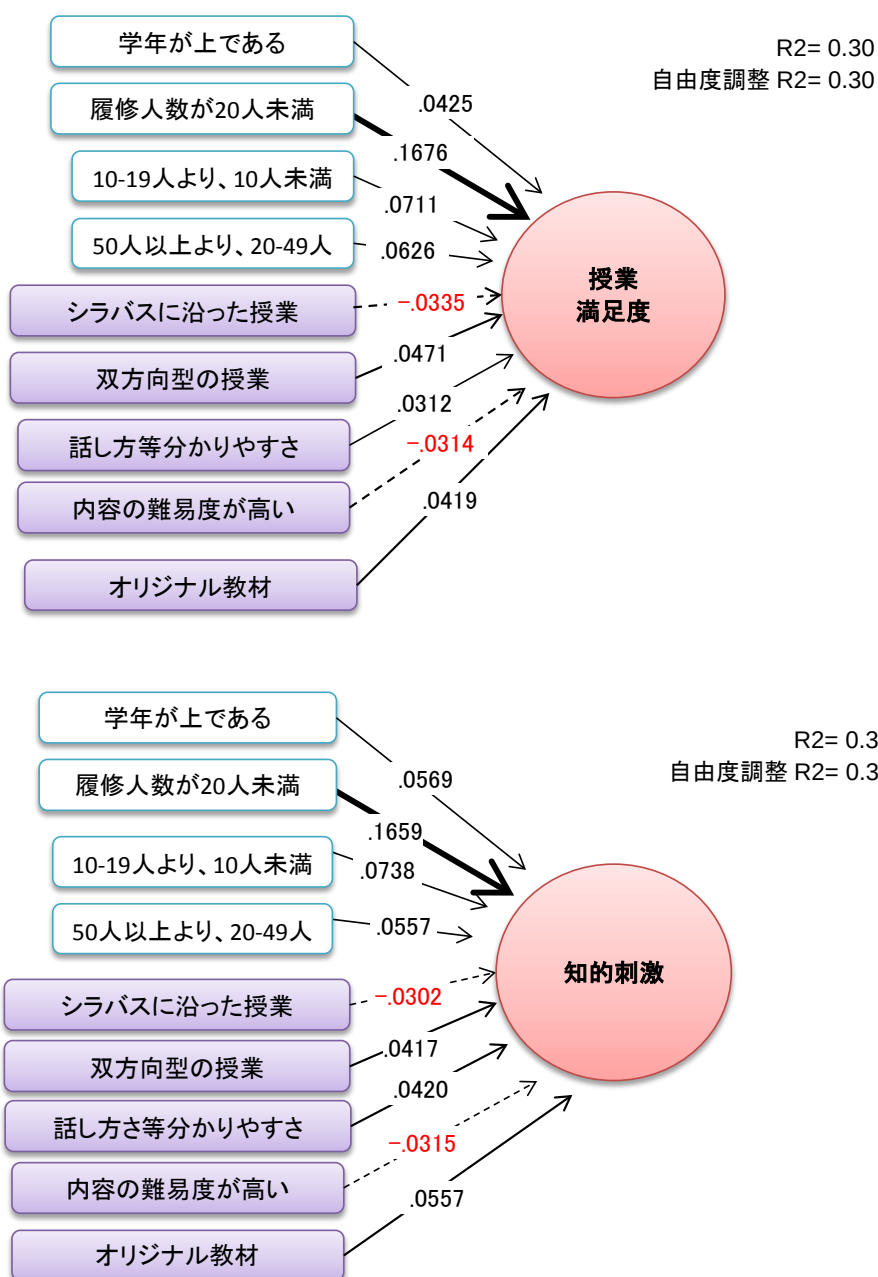


図 11 全授業データを用いた重回帰モデル

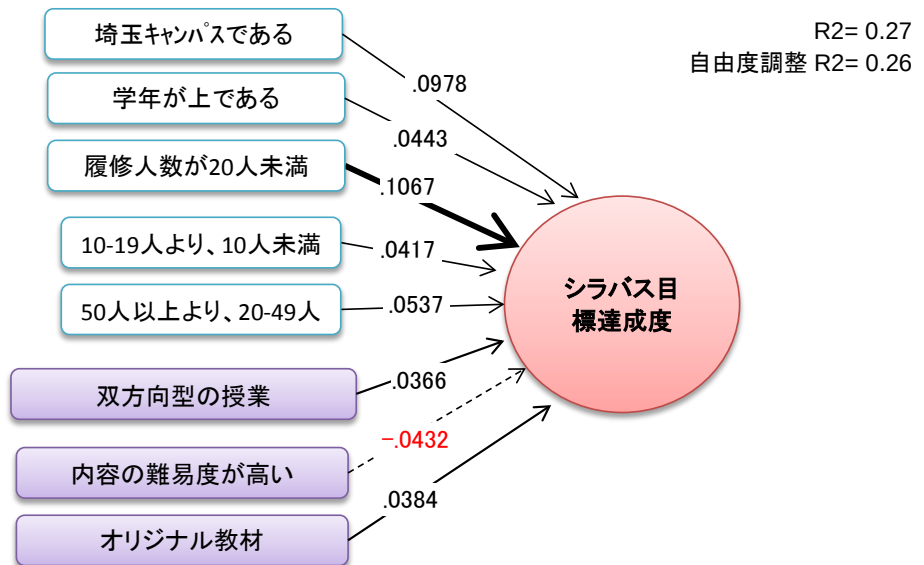
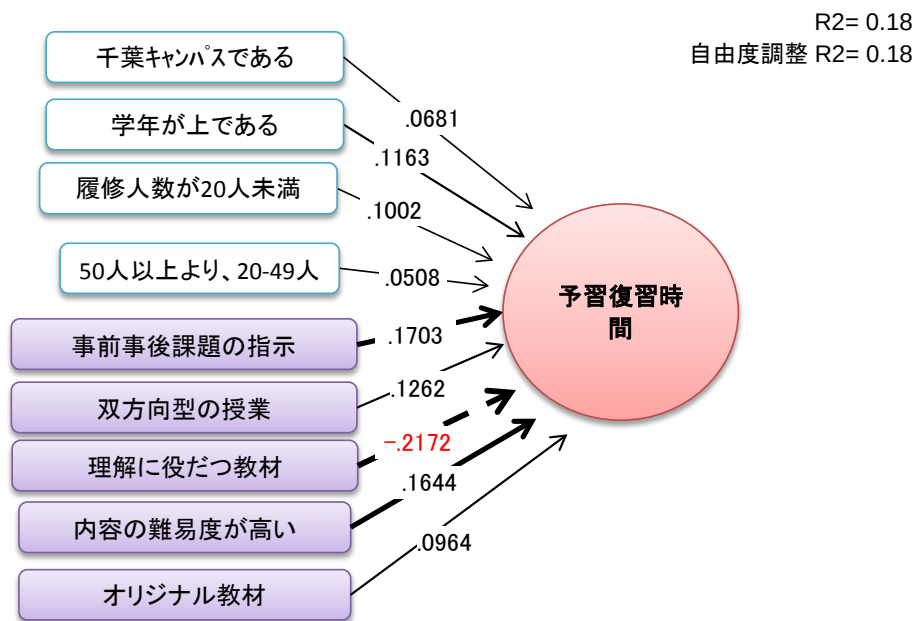


図 11 全授業データを用いた重回帰モデル（続き）

この結果は、次のように解釈できます。

- 「授業満足度」および「知的刺激」は、以下の条件において高まる。
 - ・ 履修人数が少ない(20 人未満など)
 - ・ 履修者に高学年が多い
 - ・ 双方向型の授業を効果的に行った
 - ・ 「オリジナル教材」を工夫した
 - ・ 分かりやすい話し方や説明の仕方を心がけた
 - ・ 授業はシラバスに沿って行なっていない
 - ・ 内容が難しくない→ 履修人数等以外で「授業満足度」と「知的刺激」にもっとも影響するのは、「双方向型授業評価」と「オリジナル教材の工夫」等である。

- 「予習復習時間」は、以下の条件において長くなる。
 - ・ 履修人数が少ない(20 人未満など)
 - ・ 履修者に高学年が多い
 - ・ 千葉キャンパスで行われている
 - ・ 「オリジナル教材」を工夫した
 - ・ しかし、教員が「教材は理解に役立つように工夫した」とは思っていない
(「教材役立ち度」がマイナス)
 - ・ 事前事後学習等の具体的な指示をした
 - ・ 内容が難しい
 - ・ 双方向型の授業を効果的に行った→ 履修人数等以外で「予習復習時間」にもっとも影響するのは、「教材役立ち度」(マイナス)、「事前事後課題の指示」および「難易度」である。

- 「シラバス目標達成度」は以下の条件において高まる。
 - ・ 履修人数が少ない(20 人未満など)
 - ・ 埼玉キャンパスで行われている
 - ・ 履修者に高学年が多い
 - ・ 授業内容が難しくない
 - ・ 双方向型の授業を効果的に行った
 - ・ 「オリジナル教材」を工夫した→ 履修人数等以外で「シラバス目標達成度」にもっとも影響するのは、「難易度」である。

- すべての目的変数に影響するのは、「履修人数(少ないと効果的)」「学年(高学年が多いと効果的)」、および「双方向型の授業」「オリジナル教材の工夫」「難易度」である。

平成28年度 学生用 授業アンケート調査[前学期・後学期]

このアンケート調査は、みなさんの学びがより深められるよう、授業内容・授業方法の改善・工夫に向けての基礎的データの収集を目的として、実施するものです。

また、大学がみなさんの学習の到達目標を明確にし、学修成果が得られる授業・教育を進めるための基礎資料としても利用します。

調査の結果は報告書にまとめて公表をするほか、大学ホームページにも公開します。回答は無記名であり、個々の回答結果が他に漏れたり、成績に影響したりすることはありません。ありのままを記入してください。

淑徳大学 教育向上委員会

●はじめに、この科目の科目名および担当教員名を記入してください。

科目名

担当教員名

*科目代表者の氏名を記入してください

●次に、あなたの所属等について伺います。

「学部・学科」「学年」「性別」「この授業の履修」の各欄について、該当する番号に○をつけてください。

学部・学科	総合福祉学部・社会福祉学科	1
	総合福祉学部・教育福祉学科	2
	総合福祉学部・実践心理学科	3
	国際コミュニケーション学部・人間環境学科	4
	国際コミュニケーション学部・経営コミュニケーション学科	5
	国際コミュニケーション学部・文化コミュニケーション学科	6
	看護栄養学部・看護学科	7
	看護栄養学部・栄養学科	8
	コミュニティ政策学部・コミュニティ政策学科	9
	経営学部・経営学科	10
	経営学部・観光経営学科	11
	教育学部・こども教育学科	12
	人文学部・歴史学科	13
	人文学部・表現学科	14
	その他	15

学年	1年次生	1
	2年次生	2
	3年次生	3
	4年次生以上	4
	科目等履修生	5
	その他	6

性別	男	1
	女	2

— アンケート項目は、裏面になります —

●授業に関する事項について伺います。

下記のⅠ～Ⅴのすべての設問に回答してください。なお、「Ⅴ自由記述欄」を除いて、設問右（4段階）の該当する番号に○を付けてください（一部、5段階）。

Ⅰ 授業の構成について		大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	初回の授業において、授業目的、授業内容、到達目標、評価方法等の説明がありましたか	4	3	2	1	
2	あなたは、その説明に対して理解ができましたか	4	3	2	1	
3	あなたは、理解した内容を達成するため、意欲的に取り組みましたか	4	3	2	1	
4	授業はシラバスにそって行われましたか	4	3	2	1	
5	あなたは、シラバスに記載された到達目標を達成できましたか	4	3	2	1	
6	授業のなかで「事前学習」および「事後学習」等、「授業時間以外の学習内容・方法（資料・課題等）」について、具体的に指示がありましたか	4	3	2	1	
7	「質疑応答の時間の設定」や「課題レポート・小テストの返却」等、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫がありましたか	4	3	2	1	
8	あなたが、この授業1回（90分）のために事前学習・事後学習に費やした時間は平均（ ）であった	5 4時間以上	4 3時間以上 4時間未満	3 2時間以上 3時間未満	2 1時間以上 2時間未満	1 1時間未満
Ⅱ 授業方法について		大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	双方向型の授業（発表、討論、協同学習、調べ学習等）は、効果的に行われましたか	4	3	2	1	
2	教材（教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等）は、授業の理解に役立ちましたか	4	3	2	1	
3	この授業では、話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか	4	3	2	1	
Ⅲ 授業に対する評価について		大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	この授業を通して知的好奇心が刺激されましたか	4	3	2	1	
2	あなたの授業内容の理解において、難易度は適切でしたか	5 難しい	4 やや難しい	3 適切	2 やややさしい	1 やさしい
3	この授業を受講して、満足していますか	4	3	2	1	
Ⅳ 授業環境について		大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	受講態度（私語、携帯電話の使用等への注意等）に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれていましたか	4	3	2	1	
2	授業に関する機器・備品等は充実していましたか	4	3	2	1	
3	この授業を受けるにあたり、履修人数は適切でしたか	4	3	2	1	
Ⅴ 自由記述欄*この欄は、授業の改革や改善に繋げるためのコメント欄となります。人格を否定するようなコメントや授業に関係のないことを書いてはいけません。						
1	この授業を通して、どんなことが身についたと思いますか。自由に記入してください。 （例：「〇〇する力が身についた」「●●●ができるようになった」等）					
2	この授業を通して、大学や教員が工夫・改善すべき点がある場合は、自由に記入してください。					

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

平成28年度 教員用・授業アンケート調査[前学期・後学期]

このアンケート調査は、授業計画（シラバス）に明示している授業の目的・到達目標に対して、受講生が「何ができるようになったのか」また、達成できなかった場合は「なぜ、そうなったのか」を担当教員が把握し、授業内容・授業方法の改善・工夫に繋げるための基礎的データの収集を目的として実施するものです。

実習を除く全開講科目を調査対象とし、各授業における目的・目標・成果並びに授業方法等について、担当教員と受講生の双方から評価を得るものです。

調査の結果は報告書にまとめて公表をするほか、大学ホームページにも公開します。
ご協力、よろしくお願いいたします。

淑徳大学 教育向上委員会

●はじめに、この科目の科目名および氏名を記入してください。

※このアンケートは、科目代表者が回答してください。

キャンパス名

授業番号

科目名

氏名

— アンケート項目は、裏面になります —

下記のⅠ～Ⅴのすべての設問に回答してください。なお、「Ⅴ自由記述欄」を除いて、設問右（４段階）の該当する番号に○をつけてください（一部、５段階）。

8	授業計画では、受講生がこの授業1回（90分）の事前学習・事後学習にかかる時間の目安を平均（ ）と設定した	5 4時間以上	4 3時間以上 4時間未満	3 2時間以上 3時間未満	2 1時間以上 2時間未満	1 1時間未満
---	--	------------	---------------------	---------------------	---------------------	------------

Ⅲ	授業に対する評価について	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	この授業は、受講生の知的好奇心を刺激する内容でしたか	4	3	2	1	
2	受講生の授業内容の理解において、難易度は適切だったと思いますか	5 難しい	4 やや難しい	3 適切	2 やややさしい	1 やさしい
3	受講生の満足度を高める授業をできたと思いますか	4	3	2	1	

V	自由記述欄
1	受講生は、この授業を通して<u>どのような力が身についた</u>と思いますか。 （例：「〇〇する力が身についた」「●●●ができるようになった」等）
2	受講生のこの授業に対する満足度や知的好奇心を高めるため、今後に向けた工夫あるいは改善点があれば記入してください（大学に対するものを含めることも可）。

68

2016年度 淑徳大学 授業アンケート全学報告書

■発行日 平成29年9月30日

■発行者 淑徳大学

〒 260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町200

TEL.043-265-7331(代表)

■編集 淑徳大学高等教育研究開発センター
IR推進室

■第二部分析 株式会社 生活環境工房あくと
